

文学部

I 履修要項 履修について	
II 第1部 学科教育課程表および履修方法	哲 学 科
	インド哲学科
	中国哲学文学科
	日本文学文化学科
	英米文学科
	史 学 科
	教 育 学 科
	英語コミュニケーション学科
	他学部他学科開放科目 (専門開放科目)
副専攻について	
III 第2部 学科教育課程表 および履修方法	インド哲学科
	日本文学文化学科
	教 育 学 科
	他学部他学科開放科目
IV 諸資格について	
V 留学制度について	
VI 学籍および 各種証明書について	

諸 注 意

- ・この『履修要覧』には、2011年度入学生に適用される内容を掲載している。
- ・この『履修要覧』は、卒業時まで使用する。再配布しないので、大切に使用・保管すること。
- ・講義内容に関しては、『講義要項』等に掲載されている。
- ・記載内容の変更等については掲示する。

目 次

学部長挨拶——文学部長・中山尚夫	4
文学部・各学科教育研究上の目的	5
I 履修要項（2011年度入学生用）	
履修について	12
II 第1部学科教育課程表および履修方法	
第1部哲学科	
学科紹介	22
卒業要件および履修方法	23
学科教育課程表（1～4年・外国人留学生）	29
第1部インド哲学科	
学科紹介	34
卒業要件および履修方法	37
学科教育課程表（1～4年・外国人留学生）	42
第1部中国哲学文学科	
学科紹介	48
卒業要件および履修方法	49
学科教育課程表（1～4年・外国人留学生）	55
第1部日本文学文化学科	
学科紹介	60
卒業要件および履修方法	63
学科教育課程表（1～4年・外国人留学生）	69
第1部英米文学科	
学科紹介	74
卒業要件および履修方法	75
学科教育課程表（1～4年・外国人留学生）	79
第1部史学科	
学科紹介	84
卒業要件および履修方法	85
学科教育課程表（1～4年・外国人留学生）	91

第 1 部教育学科	
学科紹介	9 8
卒業要件および履修方法	9 9
学科教育課程表（1～4 年・外国人留学生）	1 0 7
第 1 部英語コミュニケーション学科	
学科紹介	1 1 4
卒業要件および履修方法	1 1 5
学科教育課程表（1～4 年・外国人留学生）	1 2 3
第 1 部他学部他学科開放科目（専門開放科目）〈第 1 部学生用〉	1 2 8
文学部副専攻	1 3 2
III 第 2 部学科教育課程表および履修方法	
第 2 部インド哲学科	
学科紹介	1 4 0
卒業要件および履修方法	1 4 2
学科教育課程表（1～4 年）	1 4 7
第 2 部日本文学文化学科	
学科紹介	1 5 2
卒業要件および履修方法	1 5 4
学科教育課程表（1～4 年）	1 5 9
第 2 部教育学科	
学科紹介	1 6 4
卒業要件および履修方法	1 6 5
学科教育課程表（1～4 年）	1 7 0
第 2 部他学部他学科開放科目〈第 2 部学生用〉	1 7 4
IV 諸資格について	
1. 教育職員免許状	1 7 8
2. 社会教育主事	2 1 7
3. 図書館司書	2 2 0
4. 学校図書館司書教諭	2 2 1
5. 社会福祉主事	2 2 2
6. 博物館学芸員〈第 1 部学生のみ対象〉	2 2 4
V 留学制度について	2 2 8
VI 学籍および各種証明書について	
1. 学籍（学籍異動に関する手続）	2 3 8
2. 納付金に関する取扱	2 4 8
3. 各種証明書および実習料一覧	2 5 1

I 履修要項

(2011年度入学生用)

履修について

履修について

1. 授業科目

文学部で開講している授業科目は、4年間の学習を系統的に行うため各学年に配置し、その内容は次のように分かれています。

- | | |
|--------------|---------------------------|
| (1)共通総合科目 | (2)文学部共通科目 |
| ○自然科学系科目 | ○文学部演習科目 |
| ○人文科学系科目 | ○文学部基礎専門科目 |
| ○社会科学系科目 | ○国際コミュニケーション科目 |
| ○スポーツ健康科学系科目 | ○諸資格関連科目 |
| ○情報系科目 | ○インターンシップ・ボランティア活動（哲学科除く） |
| ○総合科目 | ○学習支援特別講座 |
| ○留学支援科目 | |
| (3)専門科目 | (4)教職科目 |
| ○必修科目 | (5)他学部他学科開放科目 |
| ○選択必修科目 | |
| ○選択科目 | |

2. 授業

本学における授業は、春学期と秋学期に分けて実施している。授業は原則として春学期・秋学期各15週行う。ただし、科目によっては春学期または秋学期のいずれかで完結するものもある。

[授業時間割]

白山キャンパス・白山第2キャンパス・総合スポーツセンター（板橋区清水町）

	時限	授業時間
第1部	1時限	9:00～10:30
	2時限	10:40～12:10
	昼休み	12:10～13:00
	3時限	13:00～14:30
	4時限	14:40～16:10
	5時限	16:20～17:50
第2部	6時限	18:10～19:40
	7時限	19:50～21:20

*白山第2キャンパスは1～5限、総合スポーツセンター（板橋区清水町）は1～4限のみ授業開講

【白山キャンパス・白山第2キャンパス・総合スポーツセンター（板橋区清水町）間をまたがり履修する場合】

同日内に白山キャンパス・白山第2キャンパス・総合スポーツセンター（板橋区清水町）間を移動しなければならない場合は、下表を参照のうえ、履修可能な時間割を作成すること。

	1時限	2時限	昼休み	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限
履修可能	●			■				
	●				■			
	●					■		
		●		■				
		●			■			
		●				■		
				●		■		
						●	■*	
						●		■

※白山ー白山第2キャンパス間のみ

[休講]

授業の休講については、担当教員より連絡があれば掲示板および東洋大学 Web 情報システムに掲載するので、授業の始まる前に必ず確認すること。

なお、Web 情報システム、プラズマ掲示板等に休講掲示がない場合、授業開始時間から30分経過しても講義が行われない場合は、教務課窓口へ連絡の上、指示を受けてください。

[欠席]

やむを得ない事由により、授業に欠席した場合は、次の授業時に担当教員へ直接連絡すること。教務課窓口では一切取り扱わない。ただし、病気・怪我等で長期欠席することが予想される時は、教務課に相談すること。

なお、教育実習・介護等体験・博物館実習（第1部のみ）により欠席する場合は、教務課備え付けの用紙で教員に届け出ること。

[緊急時の授業の取扱い]

【白山キャンパス・白山第2キャンパス・総合スポーツセンター（板橋区清水町）】

1. 台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合および災害等により交通機関が運行停止している場合の授業の取扱いについて

台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合および台風・地震の災害等により交通機関が運行停止となった場合（人身事故等一般的な運行停止を除く）の授業の取扱いについては、本学のホームページ・東洋大学 Web 情報システムにてお知らせしますので、大学の指示に従ってください。ホームページはアクセスが集中し、つながりにくい場合がありますので、Web 情報システムも利用してください。

なお、授業中に交通機関の混乱等が予想される場合は、学内掲示、学内緊急放送にてお知らせします。

2. 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の授業の取扱いについて

大規模な地震の発生が予想され、警戒宣言が発令された場合の授業の取扱いについても、大学のホームページ・東洋大学 Web 情報システムにてお知らせしますので、大学の指示に従ってください。授業中に警戒宣言が発令された場合は、学内掲示、学内緊急放送にてお知らせします。

*学内で実施される講演会・講座等についても、上記措置に準ずるものとします。

3. 単位制

授業科目の履修には単位制が採用されている。単位制とは、授業科目を履修し、試験に合格することによって、それぞれ定められた単位が認定される制度である。

授業科目の単位計算方法は、1単位の履修時間を教室内および教室外を合わせて45時間とし、次の基準によるものとする。

- ① 講義および演習による授業科目は、原則として1時間の講義に対して2時間の準備を必要とすることを考慮し、毎週1時間15週の講義をもって1単位とする。
- ② 外国語科目は、2時間の講義に対し、1時間の準備を必要とすることを考慮し、毎週2時間15週の講義をもって1単位とする。
- ③ 実技と実習は、毎週3時間15週の授業をもって1単位とする。

授業時間

--

自習時間

--

① 講義・演習

1時間

--

1時間

--

1時間

--

② 外国語科目

1時間

--

1時間

--

1時間

--

③ 実技・実習

1時間

--

1時間

--

1時間

--

以上の基準に従い、1単位45時間と規定されている勉学量の授業時間・自習時間数の割合は、授業科目の内容により図のとおりである。

従って、学科教育課程表に基づく卒業必要単位を修得し、在学期間が4年以上経過すれば、卒業と認定し、学士の学位が与えられる。

4. 年間履修単位数

卒業するためには4年以上在学し、所定の科目の単位を履修かつ修得しなければならない。単位の履修条件は次のとおりである。

① 1年間履修できる最高単位数は、48単位である。

したがって、各年次ごとに履修する科目の単位数の合計はこの枠内で行なければならない。

ただし、教職科目・学科教育課程表にない教職に関する科目に限り、48単位を超えて履修することを認める。

② 学科教育課程表にない教職に関する科目・自由科目は卒業に必要な単位として認められない。

③ すでに単位を修得した科目は履修できない。

ただし学科によっては、重複できる科目もあるので、学科の説明文を熟読すること。

④ 上級学年に担当されている科目は履修できない。

	要件	履修区分	年間履修 最高単位数
卒業に必要な単位として認められる科目	学科教育課程表の以下の区分に属する科目 共通総合科目 ○自然科学系科目 ○人文科学系科目 ○社会科学系科目 ○スポーツ健康科学系科目 ○情報系科目 ○総合科目 ○留学支援科目 文学部共通科目 ○文学部演習科目 ○文学部基礎専門科目 ○国際コミュニケーション科目 ○諸資格関連科目 ○インターンシップ・ボランティア活動 (哲学科除く) ○学習支援特別講座 専門科目 ○必修科目 ○選択必修科目 ○選択科目 他学部他学科開放科目	正 規	48単位
	教職科目		
卒業に必要な単位として認められない科目	所属の学科教育課程表にない科目、かつ他学部 に開放されていない科目で、担当教員の許可 を得て履修する科目	自由科目	48単位 以内に 含める
	教職課程の教職に関する科目で、所属の学科 教育課程表にない科目 「教職概論」、「教育心理学」等	教職に関 する科目	制限なし

履修登録について

1. 履修登録とは

「履修登録」とは年間の履修計画を立て、その計画に基づいて授業科目の登録を行う手続きである。履修登録は年1回(春学期)行う。秋学期開講科目も、履修登録は春学期に行う。事前に、学部・学科ガイダンスに出席したり、「履修要覧」「講義要項」「授業時間割表」「履修登録のしおり」をよく読み、自分の学習計画にそって各自の責任において履修登録をすること。

また、定められた期間に「履修登録」を怠ると、履修する科目の受講・受験はできず、単位も修得できなくなるので注意すること。

2. 履修上の注意

- ① 履修登録期間外の履修登録科目の追加・変更は認めないので、よく検討した上で登録すること。
- ② 科目によっては、春・秋学期の科目をセットで通年履修しなければならない科目、隔年開講の科目、第1・2部のいずれかでのみ開講する科目がある。所属する学科の履修方法を熟読してから履修登録すること。
春・秋学期の科目をセットで通年履修しなければならない科目の単位は、春・秋学期それぞれ別々に修得できる。いずれか一方の単位を修得した場合は、未修得科目を単独で履修かつ修得することができる。
- ③ 同一科目を同一年度に2科目以上履修したり、単位修得後、次年度以降に再度履修することはできない(学科によっては、重複履修できる科目もある)。ただし、履修した科目の単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再度履修することはできる。
(例) 哲学史A1コースと哲学史A2コースは同一科目。
- ④ 学年指定のある科目については、指定された学年より下位の学年の学生は履修することはできないが、上位の学年の学生は履修が可能である。
- ⑤ 科目により学部・学科・学年・クラス等指定されている科目もあるので、「東洋大学Web情報システム」等で確認の上、登録すること。
- ⑥ 自分の所属する学科教育課程表にない科目を自由科目として履修する場合は、担当教員の許可を得て履修しなければならない。
- ⑦ 登録していない科目については、受講することも試験を受けることもできない。
- ⑧ カリキュラム年度の異なる科目は履修できない。

3. 共通総合科目について

- ① 第1・2部自然科学系科目の実験講義・実習講義は、定員制となっている。履修を希望する場合は、4月の第1回目の授業に必ず出席し、担当教員から許可を得て履修しなければならない。
- ② 第1部自然科学系科目、人文科学系科目、社会科学系科目、情報系科目、総合科目、第2部「コンピュータ・リテラシー」は、特定の曜日時限に希望が集中し教室の収容定員を超えた場合には、抽選等により履修者を決定する。詳細は、各年度に配布される「履修登録のしおり」を参照すること。
- ③ 第1・2部スポーツ健康科学系科目各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合がある。詳細は、各年度に配布される「履修登録のしおり」を参照すること。
- ④ 第2部国際コミュニケーション科目の履修を希望する場合は、4月の第1回目の授業に出席し、担当教員から許可を得て履修しなければならない。

試験・レポートについて

1. 試験

- ① 年度はじめに履修登録した科目で、授業回数の3分の2以上出席し所定の試験に合格しなければ単位は認定されない。
- ② 試験には、平常試験と定期試験があり筆記で行なわれる。科目によってはこれらの筆記試験にかえて、レポートまたは平常点によって評価する場合もある。

[平常試験]

平常の授業期間に、科目担当教員によって随時行う。

[定期試験]

学期末（7～8月・1～2月）の2回、全学的に一定の試験期間を設けて行なう。

試験実施の約2週間前に試験時間割表を掲示板および「東洋大学Web情報システム」で発表します。試験時間割表には受験上の注意事項も記載されています。主なものを記しておきますので心得ておいてください。

[受験上の注意]

- ① 履修登録していない科目を受験しても無効である。
- ② 試験に際しては、すべて監督者の指示に従うこと。
- ③ 学生証がないと受験できないので必ず携帯し、試験会場では机上の指示された場所に提示すること。
- ④ 1科目で試験会場が2ヵ所以上になる場合、学部・学科・学年・学籍番号等で試験会場を指定する。必ず指定された試験会場を受験すること。指定試験会場以外で受験した場合は、無効となることがあるので注意すること。
- ⑤ 答案用紙には、まず学部・学科・学年・学籍番号・氏名を必ず黒のペンまたはボールペンで記入すること。
必ず筆記用具（ボールペン、鉛筆、消しゴム）を持参すること。
- ⑥ 学籍番号欄は学生証に記載されている学籍番号の10ケタすべてを記入すること。学籍番号、氏名のない答案用紙は無効となる。
- ⑦ 試験時間は60分間とする。試験期間中は、すべて時間帯が平常授業時とは異なる。また、試験会場も平常授業時と異なるので十分注意すること。
- ⑧ 試験開始後20分までに入場しないと受験資格を失う。また開始後30分を過ぎないと退場できない。
- ⑨ 中途退場した場合、再入場は認めない。
- ⑩ 試験会場では、携帯電話、PHS等の通信機能が付いた機器を机上に置かないこと。また、机上に置かない場合でも、試験の妨げにならないよう電源を必ず切っておくこと。なお、上記の機器を時計代わりに使用することも不可である。
- ⑪ 茶・ジュース等の飲食物の試験会場への持ち込みを禁止する。
- ⑫ 試験に際しては、担当教員の指示物以外を持ち込むことはできない。また、許可されて使用できる六法全書は、次の指定されたものに限る。
岩波書店「基本六法」「セレクト六法」
有斐閣「六法全書」「ポケット六法」
法曹会「司法試験用六法」
三省堂「新六法」「デイリー六法」
第一法規「新司法試験用六法」
- ⑬ 天災、病気、その他やむを得ない理由によって、定期試験を受験できなかった場合は速やかに証明書または診断書（コピー可）等を添えて担当教員に届け出て、具体的な指示を受けること。
- ⑭ 交通機関の運行や天候の乱れ等に留意し、試験会場へは時間的余裕をもって入室すること。

[不正行為]

不正行為を行なった場合は、学則（第57条）に基づき処分される。
（学生生活ハンドブック参照）

[再試験]

卒業再試験の取り扱いは下記のとおりである。

1. 受験資格

以下の全ての条件を満たす場合、受験資格を有する。

- ①卒業を希望する4年生である。
- ②卒業に必要な不足単位数が8単位以内である。

2. 対象科目

卒業再試験の対象となる科目は以下の全てに該当する科目とする。

- ①卒業当該年度に履修登録を行っている科目
- ②卒業単位充足者発表時に「D」評価を得た科目
- ③担当教員が卒業再試験を実施する科目

3. 対象除外科目

- ①演習、実習、実験、実技、ゼミナール関係科目
- ②卒業研究、卒業論文、卒業製作
- ③教職科目のうち、教職に関する科目
- ④不正行為等により無効となった科目
- ⑤通常の評価において「E」または「* (評価対象外)」と判定された科目
- ⑥シラバス・授業等において卒業再試験を実施しない旨を記載・発表している科目

4. 受験手続

卒業当該学期の卒業単位充足者発表時において定められた時間内に面接を受け、所定の手続きを行うこと。

5. 卒業再試験の評価

卒業再試験の評価は以下の通りとする。

- ①卒業再試験の結果、合格した科目の成績評価は「C」評価となる。
- ②卒業再試験の結果、不合格が1科目でもあった場合は原級となり、全ての受験科目の成績評価は卒業再試験受験以前の「D」評価となる。

レポート提出方法、日時、提出先は、授業時に確認すること。

※教務課窓口では、特別指示のない限り、レポート郵送先・教員の連絡先の照会には応じない。

2. レポート

成績について

1. 単位の認定

- ① 単位の認定は、出席率、試験またはレポートなどの結果による。
- ② 履修登録した科目についてのみ成績評価される。

2. 成績の評価

成績の表示は次の通りである。

合否	成績表示	点数	基準
合格	S	100～90	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
	A	89～80	到達目標を十分に達成している。
	B	79～70	到達目標を達成している。
	C	69～60	到達目標を最低限達成している。
不合格	D	59～40	到達目標を達成していない項目がある。
	E	39以下	到達目標の項目の全てまたはほとんどを達成していない。
	*	評価対象外	出席・試験・レポート提出等の評価要件を欠格。

3.成績の通知

そ の 他

- ① 成績表を配付する。
詳しい日程等については**掲示等で確認すること**。
- ② 成績表は再交付しないので卒業するまで大切に保管すること。
- ③ 成績表は必ず本人が受け取り、確認すること。万一不可能な場合は、委任状による代理人の受け取りを認める。
- ④ 履修登録し、受講・受験したにもかかわらず、成績表に評価がない場合は、「成績表」「履修登録確認表」を持参のうえ、成績調査期間中に教務課で確認すること。

教務課（大学）からの通知・連絡などは、すべて掲示および「東洋大学 Web 情報システム」による。登校したら、必ず掲示板を確認すること。

教務課（大学）への問い合わせは、すべて窓口で受け付ける。したがって、電話による授業（休講）・試験などに関する問い合わせは受け付けないので、窓口・掲示で確認すること。

窓 口

教務全般に関すること	教務課窓口（6号館1階）
	窓口時間
	月～金曜 9：30～13：00 14：00～20：30
	土曜 9：30～12：45 17：30～20：00

※夏季休暇・大学祭期間・冬季休暇・春季休暇等は、窓口の受付時間が変更される場合があるので注意すること。

掲 示 板

授業時間割表 (教室変更も含む)	6B12教室前(文・社会学部)
	1102教室前(経済・経営・法学部)
休講掲示板 (プラズマディスプレイ)	1号館1階エレベーターホール
	6号館1階
授業・試験・補講など	5号館B2階エレベーター前 (第1・2部 文・社会学部)
	1号館1階エレベーターホール (第1部 経済・経営・法学部)
	1101教室前(第2部 経済・経営・法学部)
学部からのお知らせ 学生呼び出しなど	5号館B2階エレベーター前(文・社会学部)
	1号館2階エレベーターホール(経済学部)
	1号館2階1204教室前(経営・法学部)
教職	1102教室横および6B12教室前 (掲示内容は同一)

※掲示板の設置場所が変更になった場合は、別途案内する。

Ⅱ 第 1 部 学科教育課程表および履修方法

第 1 部 哲 学 科

哲学科における勉強の指針

- I. 明治という時代は短期間の内に西欧近代の諸思想が姿を見せた時代であり、それらの実証主義的、合理主義的な諸思想と日本伝統の多元的な思想とが激しく衝突しながら、日本の近代化に向けて苦悶した時代でもある。その明治半ば、東洋大学は「哲学館」として設立された（明治20年）。西欧の思想を日本の伝統的思想にも触れながら、諸学の基礎である哲学に正面から取り組んで来たところに、東洋大学哲学科の特色がある。しかし、21世紀を迎えた現在、日本の置かれている状況は大きく変わり、我々はいまやパラダイムなしに、世界と共時的に、あるいは世界に先んじて、進まなければならぬところにいるといえる。このような状況にあつて、我々は新たな仕方で哲学を学ぼうとするのである。「哲学」が諸学の基礎にあるということは、哲学は諸学から独立しているということではない。諸学から切りはなされて学ぶというような哲学は「机上の空論」でしかない。多様に変化・発展する諸学に学びつつ、諸学と対話することによって、哲学は自分自身を反省し、自ら変わりつつ、諸学を基礎づけ直すのでなければならぬだろう。
- II. (1) 哲学科の学生として、諸君は哲学に関する教養的教育や特に専門教育を受けなければならない。1・2年次において語学、および諸学の成果を広く教養として身につけるとともに、哲学の基礎知識を深く学ぶことが不可欠である。学ぶことの奥深さ、楽しさを見つけて欲しい。
- (2) 哲学科の専門教育は、1・2年次から始められ、3・4年次で本格的に深められていく。哲学演習と概説・特殊講義という2つの形態で授業は構成され、それぞれの専門領域ごとに、またそれぞれの専門領域を貫く仕方で、授業が行なわれる。学生諸君は自分の興味と関心によって、哲学科の必修科目以外の科目をも自由に選択し、特定の領域について深く学ぶこともできるようになっている。このような幅広い学習は4年次に全員に課せられている卒業論文を執筆するなかで、結実することになる。
- (3) さらに、哲学科において哲学を専門的に学ぶなかで、研究・学習の方向をさらに広げることもあろう。そのような学生諸君は、幾つか設定されている副専攻をもつことも可能である。
- III. 哲学科には8名の専任教員がおり、古代から現代までの哲学をカバーできるように構成されているが、さらに特殊な研究分野に関しては他から講師を招いて、欠けるところがないように努力している。しかし何れにしても、哲学は客観的な知識の習得に終わるのではなく、主体的に哲学し、学ぶ主体そのものの変様を要求するところが大きい。教師と学生という枠組みの中でだけでなく、人格と人格の出会いと互いに切磋琢磨することにおいて、哲学は学ばなければならないだろう。

区 分		文学部 第 1 部 哲学科 卒業要件
共通総合科目 12 単位以上	自然科学系科目	12 単位以上
	人文科学系科目	
	社会科学系科目	
	スポーツ健康科学系科目	
	情報系科目	
	総合科目	
	留学支援科目	
文学部共通科目 16 単位以上	文学部演習科目	16 単位以上
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	
	諸資格関連科目	
	学習支援特別講座	
専門科目 88 単位以上	必修科目	34 単位
	選択必修科目	30 単位以上
	選択科目	24 単位以上
教 職 科 目		
他学部他学科開放科目(専門開放科目)		
卒業必要単位数合計		124 単位

進級制度について

進級制度

(文学部哲学科内規)

I. 1年次から2年次に進級する場合

修得単位数がきわめて少ない場合（1年次の終了に際して修得単位数の合計が20単位以下）4月上旬に専任教員が面接を行う。

II. 2年次から3年次に進級する場合

下記「進級制度（文学部哲学科内規）」を満たさなければ、3年次に進級できない。ただし、この場合、再試験は行わないので注意すること。なお、進級可否については、3月上旬に発表（掲示）する。

(目的)

第1条 この内規は、文学部哲学科の学生の教育並びに生活指導の充実を図るため、進級及び在学についての必要な事項を定めるものである。

(進級基準単位)

第2条 学生が第2年次終了までに、次の各号の科目単位数を修得していない場合には、第3年次への進級を認めない。

- 1) 共通総合科目（留学支援科目を除く） 8単位
 - 2) 文学部共通科目の内
 - 国際コミュニケーション科目 10単位
 - 3) 専門科目の必修講義科目 8単位
 - 4) 専門科目の必修・選択必修の演習科目 2単位
- (「哲学演習I」「哲学演習II(独)」「哲学演習II(仏)」のうち1科目)
計 28単位

(進級年数限度)

第3条 学生が在学年数4年を過ぎても第3年次へ進級できない場合は、東洋大学学則第57条2項に基づき退学とする。ただし、休学期間は在学年数に算入しない。

(その他)

第4条 第2年次終了段階で、進級基準に対して修得単位数が著しく不足する学生については、適切な指導または注意を行う。

2. 負傷疾病など、学生本人の責任によらない止むを得ない理由により、定期試験などを受けられなかった学生については、退学処分に関して別途考慮することがある。

(改正)

第5条 この内規の改正は、文学部哲学科の発議・提案を受け、文学部教授会の承認を経ることによってなされるものとする。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行し、平成16年度入学生(2004年度入学生)から適用する。

第1部哲学科

共通総合科目

自然科学系科目
 人文科学系科目
 社会科学系科目
 スポーツ健康科学系科目
 情報系科目
 総合科目
 留学支援科目

共通総合科目は、卒業までに12単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、12単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ①スポーツ健康科学系科目の授業は、白山キャンパスと東洋大学総合スポーツセンター（板橋区清水町）の2か所で開講されます。
- ・1限目（白山キャンパス）の実技は、教職課程履修者のみ履修可能であり、受講者多数で抽選になった場合、1年生が優先されます [1時限目のスポーツ健康科学実技の履修方法については、『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください]。
 - ・2～4限目（総合スポーツセンター）の授業は、白山6学部すべての1～4年生（教職課程履修者含む）が履修できます。
- ②「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、12単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

※「自然科学演習A・B」は、2年次以上でかつ講義科目または実験講義科目を合計8単位以上修得していなければ、履修することができない。

文学部共通科目

文学部演習科目
 文学部基礎専門科目
 国際コミュニケーション科目
 諸資格関連科目
 学習支援特別講座

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目16単位を履修かつ修得しなければならない。また、この卒業要件を充たし、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

文学部基礎専門科目

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インド仏教のあゆみ A(2) インド仏教のあゆみ B(2)	中国仏教のあゆみ A(2) 中国仏教のあゆみ B(2)
日本仏教のあゆみ A(2) 日本仏教のあゆみ B(2)	Verbal/Nonverbal Communication A(2) (言語・非言語コミュニケーションA) Verbal/Nonverbal Communication B(2) (言語・非言語コミュニケーションB)
Philosophy of Language A(2) (言語論A) Philosophy of Language B(2) (言語論B)	Japanese and American Cultural Studies A(2) (日米文化論A) Japanese and American Cultural Studies B(2) (日米文化論B)

国際コミュニケーション科目

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

古代インドの社会(2)	インドの風土と文化(2)
インドの芸能(2)	密教の思想(2)
インド・仏教の美術(2)	天台の思想(2)
華嚴の思想(2)	禅の思想(2)
念仏の思想(2)	

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能(歌舞伎)(2)	日本出版文化史 A(2)
日本の伝統芸能(能・狂言)(2)	日本出版文化史 B(2)
比較文学文化史 A(2)	韓国文化事情 A(2)
比較文学文化史 B(2)	韓国文化事情 B(2)

ドイツ語、フランス語、英語の3カ国語から2カ国語を選択し、16単位以上を履修かつ修得しなければならない。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

Communicative English A(2)
Communicative English B(2)

◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」

「中国語ⅠA」「中国語ⅠB」「中国語ⅡA」「中国語ⅡB」

※哲学科の学生が中国語の語学セミナーに参加し、単位認定を受ける場合は、その単位は卒業単位にならない自由科目（P.28）として認定される。

※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」（P.228）を参照すること。

専 門 科 目

哲学科専門科目は、卒業までに**88単位以上**を履修かつ修得しなければならない。この88単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、**88単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する。**

必修科目

必修科目に設置されている**全ての科目の単位**を履修かつ修得しなければならない。

なお、卒業論文は必修であるため、1年次から計画を立て研究室等の指示に注意すること。ただし、4年次の卒業論文の履修登録は、**3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下**の学生に限る。

選択必修科目

選択必修科目は、**30単位以上**を履修かつ修得しなければならない。この30単位のうち、2年次に2つの演習科目群（哲学演習Ⅱ・問題群演習Ⅰ～Ⅲ）から**1科目ずつ**、3・4年次に〈哲学演習群〉から**5科目以上**、〈哲学特殊講義群〉から**1科目以上**を履修かつ修得しなければならない。

なお、3・4年次の〈哲学演習群・哲学特殊講義群〉の演習・特講については、同一科目を**2回まで履修**することができ、修得した単位数は、卒業単位として算入する。

選択科目

選択科目は、**24単位以上**を履修かつ修得しなければならない。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インドの宗教 A(2)	ブッダの思想とその展開A(2)
インドの宗教 B(2)	ブッダの思想とその展開B(2)
哲学特殊演習 A(1)	宗教とは何か A(2)
哲学特殊演習 B(1)	宗教とは何か B(2)

教 職 科 目

哲学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する。**

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

他学部他学科開放科目(専門開放科目)

別(P.128)に定める他学部他学科開放科目(専門開放科目)を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

自由科目

哲学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目(専門開放科目)として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、卒業単位にならない自由科目として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数(48単位)を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第2部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

2008年度以降入学生適用 文学部第1部哲学科 教育課程表(共通総合科目)

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
12 単 位 以 上	共通 総 合 科 目	自然科学系科目	自然の数理 A(2) 生活の科学 A(2) エネルギーの科学 A(2) 物質の科学 A(2) 自然の数理 B(2) 生活の科学 B(2) エネルギーの科学 B(2) 物質の科学 B(2) 環境の科学 A(2) 地球の科学 A(2) 生物学 A(2) 天文学 A(2) 環境の科学 B(2) 地球の科学 B(2) 生物学 B(2) 天文学 B(2) 自然科学概論 A(2) 自然誌 A(2) 物理学実験講義 A(2) 生物学実験講義 A(2) 自然科学概論 B(2) 自然誌 B(2) 物理学実験講義 B(2) 生物学実験講義 B(2) 化学実験講義 A(2) 地球科学実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 A(2) 天文学実習講義 A(2) 化学実験講義 B(2) 地球科学実習講義 B(2) 数理・情報実習講義 B(2) 天文学実習講義 B(2) 日本事情 I A(2) (留学生用) 日本事情 I B(2) (留学生用) 自然科学演習 A(2) 自然科学演習 B(2)			
		人文科学系科目	哲学 A(2) 哲学史 A(2) 倫理学基礎論 A(2) 応用倫理学 A(2) 哲学 B(2) 哲学史 B(2) 倫理学基礎論 B(2) 応用倫理学 B(2) 科学思想史 A(2) 美術史 A(2) 音楽学 A(2) 宗教学 I A(2) 科学思想史 B(2) 美術史 B(2) 音楽学 B(2) 宗教学 I B(2) 宗教学 II A(2) 国際教育論 A(2) 多文化共生論 A(2) 地球倫理 A(2) 宗教学 II B(2) 国際教育論 B(2) 多文化共生論 B(2) 地球倫理 B(2) 百人一首の文化史 A(2) 日本の昔話 A(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本の詩歌 A(2) 百人一首の文化史 B(2) 日本の昔話 B(2) 日本文学文化と風土 B(2) 日本の詩歌 B(2) 西欧文学 A(2) 現代日本文学 A(2) 地域文化研究 I A(2) 地域文化研究 II A(2) 西欧文学 B(2) 現代日本文学 B(2) 地域文化研究 I B(2) 地域文化研究 II B(2) 地域文化研究 III A(2) 地域史(日本) A(2) 地域史(東洋) A(2) 地域史(西洋) A(2) 地域文化研究 III B(2) 地域史(日本) B(2) 地域史(東洋) B(2) 地域史(西洋) B(2) 歴史の諸問題 A(2) 論理学 A(2) 歴史の諸問題 B(2) 論理学 B(2) 日本事情 II A(2) (留学生用) 日本事情 II B(2) (留学生用)			
		社会科学系科目	経済学 A(2) 統計学 A(2) 経営学入門(2) ベーシック・マーケティング(2) 経済学 B(2) 統計学 B(2) 基礎経営学(2) 流通入門(2) 基礎会計学(2) 法学 A(2) 日本国憲法(2) 政治学 A(2) ビジネス社会と会計(2) 法学 B(2) 政治学 B(2) 社会学 A(2) 人類学 A(2) 地理学 A(2) 国際比較論 A(2) 社会学 B(2) 人類学 B(2) 地理学 B(2) 国際比較論 B(2) 心理学の基礎(2) 社会適応の心理学(2) 日本事情 III A(2) (留学生用) 日本事情 III B(2) (留学生用)			
		スポーツ健康 科学系科目	スポーツ健康科学実技 I A(1) スポーツ健康科学実技 II A(1) スポーツ健康科学実技 III A(1) スポーツ健康科学実技 I B(1) スポーツ健康科学実技 II B(1) スポーツ健康科学実技 III B(1) スポーツ健康科学講義 I(2) スポーツ健康科学講義 II A(2) スポーツ健康科学演習 I(2) スポーツ健康科学講義 II B(2)			
		情報系科目	情報化社会と人間(2) 情報倫理(2) コンピュータ・リテラシー(2)			
		総合科目	総合 I A(2) 総合 II A(2) 総合 III A(2) 総合 IV A(2) 総合 V A(2) 総合 VI A(2) 総合 I B(2) 総合 II B(2) 総合 III B(2) 総合 IV B(2) 総合 V B(2) 総合 VI B(2) 総合 VII A(2) 総合 VIII A(2) 総合 IX A(2) 全学総合 I A(2) 全学総合 II A(2) 総合 VII B(2) 総合 VIII B(2) 総合 IX B(2) 全学総合 I B(2) 全学総合 II B(2)			
		留学 支 援 科 目	英語特別 教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I(4) Special Course in Advanced TOEFL II(4)		
日本語 科目	(協定校並びにISEP加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目) Integrated Japanese I(5) Japanese Reading and Composition I(2) Kanji Literacy I(1) Integrated Japanese II(5) Japanese Reading and Composition II(2) Kanji Literacy II(1) Project Work I(1) Japanese Listening Comprehension I(1) Japanese Culture I(1) Project Work II(1) Japanese Listening Comprehension II(1) Japanese Culture II(1)					

2008 年度以降入学生適用 文学部第 1 部哲学科 教育課程表 (文学部共通科目)

区分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
文学部 基礎 専門 科目 文学部 共通 科目 16 単位 以上	文学部演習科目	文学部教養演習(2)		情報処理演習 A(1) 情報処理演習 B(1)	
	文学部 基礎 専門 科目		英文学特講 I(4) 英文学特講 II(4) 英文学特講 III(4) 米文学特講 I(4) 米文学特講 II(4)		
			インドの芸能(2) インド文学(2) インド・仏教の美術(2) インドの風土と文化(2) 華厳の思想(2) 禅の思想(2) 密教の思想(2) 念仏の思想(2) 中国仏教のあゆみ A(2) 日本仏教のあゆみ A(2) 中国仏教のあゆみ B(2) 日本仏教のあゆみ B(2) 文芸創作(2) 児童文学(2)	古代インドの社会(2) 天台の思想(2) インド仏教のあゆみ A(2) インド仏教のあゆみ B(2)	
		中国学概論(4) 中国文学史概説(4) 中国文化史概説(4) 中国現代文学史概説(4) 生涯学習概論 I(2) 特別支援教育概論 I(2) 生涯学習概論 II(2) 特別支援教育概論 II(2)	中国文学史概説(4) 中国現代文学史概説(4) イギリスの文化と思想(4)	中国哲学史概説(4) 中国文学文化と日本 A(2) 中国文学文化と日本 B(2)	中国文学史概説(4) 日本漢学(4) アメリカの文化と思想(4)
		英語圏文学文化と日本 A(2) 英語圏文学文化と日本 B(2) フランス語圏文学文化と日本 A(2) フランス語圏文学文化と日本 B(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 A(2) ドイツ語圏文学文化と日本 B(2) 中国文学文化と日本 A(2) 中国文学文化と日本 B(2)		
	日本の伝統行事 A(2) 日本の伝統行事 B(2) 日本出版文化史 A(2) 日本出版文化史 B(2) 家族心理学(2) 女性問題と学習(2)	日本の伝統芸能(歌舞伎)(2) 日本の伝統芸能(能・狂言)(2) 比較文学文化史 A(2) 比較文学文化史 B(2) 児童文化研究(2) 家庭教育論(2)		日本美術文化史 A(2) 日本美術文化史 B(2) 韓国文化事情 A(2) 韓国文化事情 B(2)	
	Verbal/Nonverbal Communication A(2) (言語・非言語コミュニケーションA)	Philosophy of Language A(2) (言語論A)	Japanese and American Cultural Studies A(2) (日米文化論A)		
	Verbal/Nonverbal Communication B(2) (言語・非言語コミュニケーションB)	Philosophy of Language B(2) (言語論B)	Japanese and American Cultural Studies B(2) (日米文化論B)		
	ドイツ語	ドイツ語 I A(2) ドイツ語 I B(2)	ドイツ語 II A(2) ドイツ語 II B(2)	ドイツ語 III A(2) ドイツ語 III B(2)	
	フランス語	フランス語 I A(2) フランス語 I B(2)	フランス語 II A(2) フランス語 II B(2)	フランス語 III A(2) フランス語 III B(2)	
英語	英語 I A(2) 英語 I B(2)	英語 II A(2) 英語 II B(2)	英語 III A(2) 英語 III B(2)		
国際コミュニケーション科目 16 単位以上	3カ国語のうち2カ国語16単位選択必修				
	検定英語(4)	Practical Writing (2)	Communicative English A(2)	Communicative English B(2)	
日本語 (留学生用)	(留学生用) 必修 日本語 I A A(1) 日本語 I A B(1) 日本語 I B A(1) 日本語 I B B(1)	(留学生用) 選択必修 日本語と日本社会 A(2) 日本語と日本社会 B(2) 日本語と日本文化 A(2) 日本語と日本文化 B(2)	*留学生は16単位中、日本語8単位必修。 残り8単位を1・2年次のドイツ語・フランス語・ 英語の3カ国語より母語以外の1カ国語選択必修。		
諸 資格 関 連 科 目	教育基礎論 I(2) 教育基礎論 II(2)				
	社会教育計画論 I(2) 社会教育計画論 II(2) 視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)				
	博物館概論(2)	博物館学各論(4)	博物館実習 I(2)	博物館実習 II(1)	
	生涯学習概論(2) 図書館概論(2) 情報サービス概説(2) 児童サービス論(2) 図書及び図書館史(2) コミュニケーション論(2) 図書館特論(2)				
		図書館経営論(2) 図書館サービス論(2) 図書館資料論(2) 専門資料論(2)	レファレンスサービス演習・情報検索演習(2) 資料組織概説(2) 資料組織演習(2) 情報機器論(2)		
学習指導と学校図書館(2) 読書と豊かな人間性(2)	学校経営と学校図書館(2) 情報メディアの活用(2)	学校図書館メディアの構成(2)			
学習支援 特別講座	学習支援特別講座 I A(2) 学習支援特別講座 I B(2)		学習支援特別講座 II A(2) 学習支援特別講座 II B(2)		

2010年度以降入学生適用 文学部第1部哲学科 教育課程表(専門科目)

区 分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専 門 科 目 88 単 位 以 上	必修科目 34 単 位	論 理 学 概 論(4) 哲 学 基 礎 概 説(4) 哲 学 演 習 I(2) 西 洋 哲 学 史 概 説 I(4)	西 洋 哲 学 史 概 説 II(4)	哲 学 概 論(4) 倫 理 学 概 論(4)
	選 択 必 修 科 目 30 単 位 以 上		哲学演習Ⅱ(独)(2) 哲学演習Ⅱ(仏)(2) 2科目のうち1科目選択必修	<哲学演習群> 古 代 哲 学 演 習(2) 中世近世哲学演習(2) 近世哲学演習Ⅰ(2) 近世哲学演習Ⅱ(2) 現代哲学演習Ⅰ(2) 現代哲学演習Ⅱ(2) 現代哲学演習Ⅲ(2) 現代思想演習(2) 美学美術史演習(2)
			問 題 群 演 習 I(2) 問 題 群 演 習 II(2) 問 題 群 演 習 III(2) 3科目のうち1科目選択必修	9科目のうち5科目以上選択必修 <哲学特殊講義群> 古 代 哲 学 特 講(4) 近 世 哲 学 特 講(4) 現 代 哲 学 特 講 I(4) 現 代 哲 学 特 講 II(4) 日 本 哲 学 特 講(4)
選 択 科 目 24 単 位 以 上	インドの宗教A(2) インドの宗教B(2) ブッダの思想とその展開A(2) ブッダの思想とその展開B(2) 日本史概説(4) 東洋史概説(4) 西洋史概説(4)	ラ テ ン 語(2) ギ リ シ ア 語(2) 現 代 思 想 論(4) 比 較 思 想 論(4) 社 会 学 史(4) 哲 学 と 科 学(4) 応 用 倫 理 学 特 論(4) 精 神 病 理 概 論(4) 芸 術 論(4) 哲 学 と 宗 教 思 想(4)	哲学特殊演習A(1) 哲学特殊演習B(1)	
		心理学概論A(2) 宗教とは何かA(2) アメリカ思想史(2) 心理学概論B(2) 宗教とは何かB(2)		
教 職 科 目	日 本 史A(2) 外 国 史A(2) 自然地理学A(2) 日 本 史B(2) 外 国 史B(2) 自然地理学B(2) 人文地理学A(2) 地 誌 学A(2) 人文地理学B(2) 地 誌 学B(2)	国 際 公 共 経 済 A(2) 国 際 公 共 経 済 B(2) 国 際 法 A(2) 国 際 法 B(2) 政 治 学 原 論 A(2) 政 治 学 原 論 B(2) 社 会 科 教 育 論(2)	社会・地歴指導法Ⅰ(2) 社会・地歴指導法Ⅱ(2) 社会・公民指導法Ⅰ(2) 社会・公民指導法Ⅱ(2)	教職実践演習(中・高)(2)
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載			

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
 2. () は該当科目の単位数。
 3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
 4. 「社会科教育論」「社会・地歴指導法Ⅰ」「社会・地歴指導法Ⅱ」「社会・公民指導法Ⅰ」「社会・公民指導法Ⅱ」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
 5. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。
 6. 3・4年次の<哲学演習群・哲学特殊講義群>の科目については、同一科目を2回まで履修かつ修得することができる。

外国人留学生の共通総合科目・国際コミュニケーション科目の履修について

外国人留学生に対しては、日本理解の助けとなる「日本事情」「日本語」の科目が共通総合科目と国際コミュニケーション科目にそれぞれ開設されている。

共通総合科目の「日本事情ⅠA」「日本事情ⅠB」「日本事情ⅡA」「日本事情ⅡB」「日本事情ⅢA」「日本事情ⅢB」、国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA」「日本語ⅠAB」「日本語ⅠBA」「日本語ⅠBB」は必修、「日本語と日本社会A」「日本語と日本社会B」「日本語と日本文化A」「日本語と日本文化B」は選択必修となっている。

原則として1・2年次で履修かつ修得すること。

教育課程表（共通総合科目・文学部共通科目）を参照して間違いのないように登録すること。

〈第1部外国人留学生用科目一覧〉

区分	科 目	単 位	履修年次	区 分
共通 総合 科目	日本事情ⅠA（自然）	2	1～4	必修
	日本事情ⅠB（自然）	2		
	日本事情ⅡA（人文）	2		
	日本事情ⅡB（人文）	2		
	日本事情ⅢA（社会）	2		
	日本事情ⅢB（社会）	2		
国際 コミュニ ケーシ ョン 科目	日 本 語 Ⅰ A A	1	1	必修
	日 本 語 Ⅰ A B	1		
	日 本 語 Ⅰ B A	1		
	日 本 語 Ⅰ B B	1		
	日本語と日本社会A	2	2	「日本語と日本社会A・B」、 「日本語と日本文化A・B」のうち どちらか一方の組合せ選択必修
	日本語と日本社会B	2		
	日本語と日本文化A	2		
	日本語と日本文化B	2		

※国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA・ⅠAB」「日本語ⅠBA・ⅠBB」「日本語と日本社会A・B」「日本語と日本文化A・B」は通年履修を原則とする。A・Bセットで履修すること。

第1部 インド哲学科

インド哲学科の教育理念

東洋大学は「哲学館」として創設されたが、学祖井上円了^{いのうええんりょう}にとっての「哲学」とは仏教の中に含まれる哲理を意味した。円了は仏教のみならず、西洋哲学・宗教学・心理学・教育学・民俗学・政治学・社会学・国語学など幅広い分野で実に膨大な量の著作を残したが、それは西洋哲学的な分析方法を借りて仏教を新しく組織・体系化し直すと同時に、仏教的なもの見方とともに、すべての社会現象を解釈し直そうとしたといえる。それは仏教が「道理にかなない」、「実用の働きがある」と信じたからに他ならない。このような円了の理念が建学の礎となったのであり、私たちの「インド哲学科」こそ、総合大学として発展した東洋大学のバックボーンであることを、是非自覚していただきたい。

また、ここにいう仏教とは、古代インドの宗教・思想を背景として生まれ、その周辺の南アジア諸国はもちろん、チベット・中国・日本などのアジア全域に伝播した長久にして広大な文化の総体である。したがって、ここに私たちの学科を「インド哲学科」と称し、インドの宗教・思想の核心となったヴェーダ、ウパニシャッド、そしてそれから発展したヒンドゥー教とともに、インド・中国・日本を中心にその他の地域の仏教を学ぶ意義があるわけである。

インド学や仏教学を学ぶことは、高校までの教育では得られなかった新しい関心と面白さをみなさんに必ずや感じさせるに違いない。しかし、それを実践するには相当な努力と時間が必要とされるのも事実である。そこで、4年間で合理的に身に付けてもらうために、インド哲学科はカリキュラム編成上以下のような工夫を行っている。

まず、1年次に基幹科目である「インド学仏教学への誘い」を学び、本学科における学習法を身に付ける。同時に「インドの宗教」においてインド諸思想の流れを、「ブッダの思想とその展開」で仏教の基礎的な考え方を学ぶ。また、インドの古典語であるサンスクリット語（初級）や仏教文献（漢文を含む）の講読は必修となっている。

2年次からは、「インド学コース」と「仏教学コース」に分かれ、同時に各専任教員が開講しているゼミに所属して、より専門的な分野を学習する。このゼミは3年次までの2年間継続するもので、学年次を超えたクラスであり、各ゼミの担当教員と少人数のゼミ生とが切磋琢磨しながら運営し、学習面でも人格形成のうえでも非常に有意義な時期である。その成果は4年次に卒業論文や卒業制作となって、諸君の青春を飾るかけがえのない一頁となるであろう。

インド哲学科には正規の学科目のほかに、「インド思想研究会」「インド文化研究会」などの学科内のサークルがある。もちろん学生の自主的な課外活動であるが、顧問の教員と一緒に勉強することでは上記のゼミと変りはない。むしろ学生が主体的に活動するという点ではゼミ以上といってもよい。特に新入生は積極的に参加し、幅広く奥深いインド学や仏教学を貪欲に学んで頂きたい。

新入生履修ガイド

1. カリキュラムの概要

インド哲学科のカリキュラムは、1) 共通総合科目、2) 文学部共通科目、3) 専門科目の三つの領域からなり、それぞれ、1) 16単位以上、2) 16単位以上、3) 76単位以上の履修を義務づけている。

本学科で開講している専門科目は、全員が履修する必修科目(32単位)、選択制の選択必修科目(44単位以上)、履修制限のない選択科目に三分されている。このうち選択必修科目は「語学領域」、「インド学領域」、「仏教学領域」、「宗教学領域」の四領域に区分される。それぞれの領域から卒業要件にしたがって履修かつ修得すること。

インド哲学科は2年次から希望にしたがって「インド学コース」と「仏教学コース」の2コースに分かれる。ただし、それぞれのコースには学則上の定員が定められているわけではなく、履修上のパターンと理解すること。

2. コースとゼミの決定手続き

1年次の11月頃に、希望のコースと「インド学仏教学演習」(ゼミ)の希望を調査し、必要があれば教員との面接等を行い、1月中旬頃に所属ゼミを決定する。

3. ゼミ履修上の注意

- (1) ゼミは必修科目なので、必ず履修かつ修得しなければならない。
- (2) ゼミは原則として専任教員が担当し、2・3年次合同で、合計8ゼミが開設される。
- (3) 履修者は原則として2・3年次で同一のゼミに所属する。

4. 卒業論文・卒業制作

学位請求に提出されたものについて、どれが「卒業論文」でどれが「卒業制作」に当たるなどという区別はしない。具体的には講義要項の「卒業論文(制作)」の項目を参照すること。「卒業論文(制作)」を履修する場合には、あわせて「卒論指導」の科目を履修し、担当の指導教員の指導を受けなければならない。「卒業論文(制作)」を提出しても、指導教員の指導を十分に受けていないと判断された場合には、「卒業論文(制作)」が無効になることがあるので注意すること。指導教員は、原則として、2・3年次のゼミ担当者がこれに当たるため、2・3年次の段階で十分に打ち合わせしておくことが望ましい。

5. 第2部開講科目について

第2部設置科目であるが、第1部学生の聴講、履修を認める科目がある。これらの科目についてはP. 40を参照すること。

6. 隔年開講科目について

隔年で開講する科目が多いので、注意して履修すること。これらの科目についてはP. 41を参照すること。

7. その他

インド哲学科独自の奨学金制度に「大法輪育英奨学資金」がある。募集は学年の初めに行う予定である。詳細は募集開始時点でインド哲学科共同研究室前の掲示板に掲示するので、希望者は学科教員に申し出ること。

区 分		文学部 第 1 部 インド哲学科 卒業要件
共通総合科目 16単位以上	自然科学系科目	16単位以上
	人文科学系科目	
	社会科学系科目	
	スポーツ健康科学系科目	
	情報系科目	
	総合科目	
	留学支援科目	
文学部共通科目 16単位以上	文学部演習科目	
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	8単位以上
	諸資格関連科目	※国際コミュニケーション科目 8単位を含む、 合計 16単位以上
	インターンシップ・ボランティア活動	
	学習支援特別講座	
専門科目 76単位以上	必修科目	32単位
	選択必修科目	44単位以上
	選択科目	
教 職 科 目		
他学部他学科開放科目(専門開放科目)		
卒業必要単位数合計		124単位

第1部インド哲学科

共通総合科目

自然科学系科目
 人文科学系科目
 社会科学系科目
 スポーツ健康科学系科目
 情報系科目
 総合科目
 留学支援科目

共通総合科目は、卒業までに16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ① スポーツ健康科学系科目の授業は、白山キャンパスと東洋大学総合スポーツセンター（板橋区清水町）の2か所で開講されます。
- ・ 1限目（白山キャンパス）の実技は、教職課程履修者のみ履修可能であり、受講者多数で抽選になった場合、1年生が優先されます [1時限目のスポーツ健康科学実技の履修方法については、『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください]。
 - ・ 2～4限目（総合スポーツセンター）の授業は、白山6学部すべての1～4年生（教職課程履修者含む）が履修できます。
- ② 「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、16単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

※ 「自然科学演習A・B」は、2年次以上でかつ講義科目または実験講義科目を合計8単位以上修得していなければ、履修することができない。

文学部共通科目

文学部演習科目
 文学部基礎専門科目
 国際コミュニケーション科目
 諸資格関連科目
 インターンシップ・
 ボランティア活動
 学習支援特別講座
 文学部基礎専門科目

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目8単位の卒業要件を充たし、合計16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

哲学特殊演習 A(1)	Verbal/Nonverbal Communication A(2)
哲学特殊演習 B(1)	(言語・非言語コミュニケーションA)
	Verbal/Nonverbal Communication B(2)
	(言語・非言語コミュニケーションB)
Philosophy of Language A(2)	Japanese and American Cultural Studies A(2)
(言語論A)	(日米文化論A)
Philosophy of Language B(2)	Japanese and American Cultural Studies B(2)
(言語論B)	(日米文化論B)

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能(歌舞伎)(2)	日本出版文化史A(2)
日本の伝統芸能(能・狂言)(2)	日本出版文化史B(2)
比較文学文化史A(2)	韓国文化事情A(2)
比較文学文化史B(2)	韓国文化事情B(2)

国際コミュニケーション科目

英語、ドイツ語、フランス語、中国語の4カ国語から1カ国語以上を選択し、同一言語で8単位以上を履修かつ修得しなければならない。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

Communicative English A (2)

Communicative English B (2)

◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」

「中国語ⅠA」「中国語ⅠB」「中国語ⅡA」「中国語ⅡB」

※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」(P. 228)を参照すること。

インターンシップ・ ボランティア活動

文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、講義要項を参照すること。

専 門 科 目

インド哲学科各コース専門科目は、卒業までに76単位以上を履修かつ修得しなければならない。この76単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、76単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する。

必修科目

各コースの必修科目に設置されている全ての科目の単位を履修かつ修得しなければならない。

なお、卒業論文（制作）は必修であるため、1年次から計画を立て研究室等の指示に注意すること。ただし、4年次の「卒論指導」「卒業論文（制作）」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。

選択必修科目

各コースの選択必修科目は、44単位以上を履修かつ修得しなければならない。この44単位のうち、以下の各領域の卒業要件を充たさなければならない。

科目によっては、第2部インド哲学科開講となっており、また隔年開講科目が多いので、履修の際は十分に注意すること。

語学領域

語学領域科目は、インド学コース、仏教学コースとも**8単位以上**を履修かつ修得しなければならない。

インド学領域

インド学領域科目は、インド学コースでは**24単位以上**、仏教学コースでは**6単位以上**を履修かつ修得しなければならない。

仏教学領域

仏教学領域科目は、インド学コースでは**6単位以上**、仏教学コースでは**24単位以上**を履修かつ修得しなければならない。

宗教学領域

宗教学領域科目は、インド学コース、仏教学コースとも**6単位以上**を履修かつ修得しなければならない。

選択科目

各コースの選択科目（関連領域科目）を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

〈科目の開講について〉

◇**通年履修科目**

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インド学仏教学への誘いA(2) インド学仏教学への誘いB(2)	インドの宗教 A(2) インドの宗教 B(2)
ブッダの思想とその展開A(2) ブッダの思想とその展開B(2)	サンスクリット文献を読むI A(2) サンスクリット文献を読むI B(2)
仏教文献を読む A(2) 仏教文献を読む B(2)	サンスクリット文献を読むII A(2) サンスクリット文献を読むII B(2)
チベット文献を読むA(2) チベット文献を読むB(2)	パーリ文献を読む A(2) パーリ文献を読む B(2)
ヒンディー文献を読むA(2) ヒンディー文献を読むB(2)	インド仏教のあゆみ A(2) インド仏教のあゆみ B(2)
中国仏教のあゆみ A(2) 中国仏教のあゆみ B(2)	日本仏教のあゆみ A(2) 日本仏教のあゆみ B(2)
宗教とは何か A(2) 宗教とは何か B(2)	社会と宗教 A(2) 社会と宗教 B(2)
宗教をめぐる諸問題 A(2) 宗教をめぐる諸問題 B(2)	宗教間の差異と対話 A(2) 宗教間の差異と対話 B(2)

◇**第2部開講科目**

下記科目は、第2部時間帯のみの開講となる。

履修を希望する場合は、第2部時間割を参照すること。

社会と宗教A(2)	宗教をめぐる諸問題A(2)
社会と宗教B(2)	宗教をめぐる諸問題B(2)

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

サンスクリット文献を読むⅡA(2)	チベット文献を読むA(2)
サンスクリット文献を読むⅡB(2)	チベット文献を読むB(2)
パーリ文献を読むA(2)	ヒンディー文献を読むA(2)
パーリ文献を読むB(2)	ヒンディー文献を読むB(2)
古代インドの社会(2)	インドの風土と文化(2)
インド古典哲学Ⅰ(2)	ヨーガとアーユルヴェーダ(2)
インド古典哲学Ⅱ(2)	ヒンドゥー教とは何か(2)
現代のインド(2)	インド現代思想(2)
インドの芸能(2)	初期仏教の思想(2)
大乘仏教の思想Ⅰ(2)	密教の思想(2)
大乘仏教の思想Ⅱ(2)	東南アジア仏教のあゆみ(2)
チベット仏教のあゆみ(2)	インド・仏教の美術(2)
天台の思想(2)	華嚴の思想(2)
禅の思想(2)	念仏の思想(2)
仏教と社会福祉(2)	現代に生きる仏教(2)

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

比較言語文化論A(2)	日本の古典籍A(2)
比較言語文化論B(2)	日本の古典籍B(2)

教 職 科 目

インド哲学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

他学部他学科開放科目(専門開放科目)

別（P.128）に定める他学部他学科開放科目（専門開放科目）を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

自 由 科 目

インド哲学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目（専門開放科目）として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、卒業単位にならない自由科目として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第2部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

2008年度以降入学生適用 文学部第1部インド哲学科 教育課程表（共通総合科目）

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
16 単 位 以 上 共 通 綜 合 科 目	自然科学系科目	自然の数理 A(2) 生活の科学 A(2) 環境の科学 A(2) 自然科学概論 A(2) 化学実験講義 A(2) 化学実験講義 B(2) 日本事情 I A(2) (留学生用)	生活の科学 A(2) 地球の科学 A(2) 地球の科学 B(2) 自然誌 A(2) 地球科学実習講義 A(2) 地球科学実習講義 B(2) 日本事情 I B(2) (留学生用)	エネルギーの科学 A(2) エネルギーの科学 B(2) 生物学 A(2) 物理学実験講義 A(2) 数理・情報実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 B(2)	物質の科学 A(2) 物質の科学 B(2) 天文学 A(2) 天文学 B(2) 生物学実験講義 A(2) 生物学実験講義 B(2) 天文学実習講義 A(2) 天文学実習講義 B(2)
	人文科学系科目	哲学 A(2) 哲学 B(2) 科学思想史 A(2) 科学思想史 B(2) 宗教学 II A(2) 宗教学 II B(2) 百人一首の文化史 A(2) 百人一首の文化史 B(2) 西欧文学 A(2) 西欧文学 B(2) 地域文化研究 III A(2) 地域文化研究 III B(2) 歴史の諸問題 A(2) 歴史の諸問題 B(2) 日本事情 II A(2) (留学生用)	哲学史 A(2) 哲学史 B(2) 美術史 A(2) 美術史 B(2) 国際教育論 A(2) 国際教育論 B(2) 日本の昔話 A(2) 日本の昔話 B(2) 現代日本文学 A(2) 現代日本文学 B(2) 地域文化研究 I A(2) 地域文化研究 I B(2) 地域史(日本) A(2) 地域史(日本) B(2) 論理学 A(2) 論理学 B(2) 日本事情 II B(2) (留学生用)	倫理学基礎論 A(2) 倫理学基礎論 B(2) 音楽学 A(2) 音楽学 B(2) 多文化共生論 A(2) 多文化共生論 B(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本文学文化と風土 B(2) 地域文化研究 II A(2) 地域文化研究 II B(2) 地域史(東洋) A(2) 地域史(東洋) B(2)	応用倫理学 A(2) 応用倫理学 B(2) 宗教学 I A(2) 宗教学 I B(2) 地球倫理 A(2) 地球倫理 B(2) 日本の詩歌 A(2) 日本の詩歌 B(2) 地域文化研究 II A(2) 地域文化研究 II B(2) 地域史(西洋) A(2) 地域史(西洋) B(2)
	社会科学系科目	経済学 A(2) 経済学 B(2) 基礎会計学(2) 社会学 A(2) 社会学 B(2) 心理学の基礎(2) 日本事情 III A(2) (留学生用)	統計学 A(2) 統計学 B(2) 法学 A(2) 法学 B(2) 人類学 A(2) 人類学 B(2) 社会適応の心理学(2) 日本事情 III B(2) (留学生用)	経営学入門(2) 基礎経営学(2) 日本国憲法(2) 政治学 A(2) 政治学 B(2) 地理学 A(2) 地理学 B(2)	ベーシック・マーケティング(2) 流通入門(2) 政治学 A(2) 政治学 B(2) 国際比較論 A(2) 国際比較論 B(2)
	スポーツ健康科学系科目	スポーツ健康科学実技 I A(1) スポーツ健康科学実技 I B(1) スポーツ健康科学講義 I(2) スポーツ健康科学演習 I(2)	スポーツ健康科学実技 II A(1) スポーツ健康科学実技 II B(1) スポーツ健康科学講義 II A(2) スポーツ健康科学講義 II B(2)	スポーツ健康科学実技 III A(1) スポーツ健康科学実技 III B(1)	
	情報系科目	情報化社会と人間(2)	情報倫理(2)	コンピュータ・リテラシー(2)	
	総合科目	総合 I A(2) 総合 I B(2) 総合 VII A(2) 総合 VII B(2)	総合 II A(2) 総合 II B(2) 総合 VIII A(2) 総合 VIII B(2)	総合 III A(2) 総合 III B(2) 総合 IX A(2) 総合 IX B(2)	総合 IV A(2) 総合 IV B(2) 全学総合 I A(2) 全学総合 I B(2)
		総合 V A(2) 総合 V B(2)	総合 VI A(2) 総合 VI B(2)	総合 VII A(2) 総合 VII B(2)	総合 VIII A(2) 総合 VIII B(2)
	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I(4) Special Course in Advanced TOEFL II(4)			
	留学支援科目	日本語科目	(協定校並びにISEP加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目) Integrated Japanese I(5) Integrated Japanese II(5) Project Work I(1) Project Work II(1)	Japanese Reading and Composition I(2) Japanese Reading and Composition II(2) Japanese Listening Comprehension I(1) Japanese Listening Comprehension II(1)	Kanji Literacy I(1) Kanji Literacy II(1) Japanese Culture I(1) Japanese Culture II(1)

2008年度以降入学生適用 文学部第1部インド哲学科 教育課程表(文学部共通科目)

区 分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
文学部演習科目	文学部教養演習(2)		情報処理演習A(1)	情報処理演習B(1)	
文学部 基礎 専門 科目	論理学概論(4) 哲学基礎概説(4) 日本史概説(4) 西洋史概説(4)	比較思想(4) 英文学特講Ⅰ(4) 英文学特講Ⅲ(4) 米文学特講Ⅰ(4)	英文学特講Ⅱ(4) 米文学特講Ⅱ(4) 哲学と科学(4) 哲学と宗教思想(4) 文芸創作(2)	応用倫理学特論(4) 児童文学(2)	
	中国学概論(4) 生涯学習概論Ⅰ(2) 生涯学習概論Ⅱ(2)	中国文献学概論(4) 特別支援教育概論Ⅰ(2) 特別支援教育概論Ⅱ(2)	哲学特殊演習A(1) 哲学特殊演習B(1) 中国哲学史概説(4) 中国現代文学史概説(4) イギリスの文化と思想(4)	中国文学史概説(4) 日本漢学(4) アメリカの文化と思想(4)	
	英語圏文学文化と日本A(2) 英語圏文学文化と日本B(2) フランス語圏文学文化と日本A(2) フランス語圏文学文化と日本B(2)	ドイツ語圏文学文化と日本A(2) ドイツ語圏文学文化と日本B(2) 中国文学文化と日本A(2) 中国文学文化と日本B(2)			
	日本の伝統行事A(2) 日本の伝統行事B(2) 日本出版文化史A(2) 日本出版文化史B(2) 家族心理学(2) 女性問題と学習(2)	日本の伝統芸能(歌舞伎)(2) 日本の伝統芸能(能・狂言)(2) 比較文学文化史A(2) 比較文学文化史B(2) 児童文化研究(2) 家庭教育論(2)		韓国文化事情A(2) 韓国文化事情B(2)	
	Verbal/Nonverbal Communication A(2) (言語・非言語コミュニケーションA)	Philosophy of Language A(2)	Japanese and American Cultural Studies A(2)	(日米文化論A)	
	Verbal/Nonverbal Communication B(2) (言語・非言語コミュニケーションB)	Philosophy of Language B(2)	Japanese and American Cultural Studies B(2)	(日米文化論B)	
	英語	検定英語(4)	Practical Writing (2)	Communicative English A(2)	Communicative English B(2)
	英語	英語ⅠA(2) 英語ⅠB(2)	英語ⅡA(2) 英語ⅡB(2)	英語ⅢA(2) 英語ⅢB(2)	
	ドイツ語	ドイツ語ⅠA(2) ドイツ語ⅠB(2)	ドイツ語ⅡA(2) ドイツ語ⅡB(2)	ドイツ語ⅢA(2) ドイツ語ⅢB(2)	
	フランス語	フランス語ⅠA(2) フランス語ⅠB(2)	フランス語ⅡA(2) フランス語ⅡB(2)	フランス語ⅢA(2) フランス語ⅢB(2)	
中国語	中国語ⅠA(2) 中国語ⅠB(2)	中国語ⅡA(2) 中国語ⅡB(2)	中国語ⅢA(2) 中国語ⅢB(2)		
国際コミュニケーション科目 16単位以上	4カ国語のうち1カ国語8単位以上選択必修				
日本語 (留学生用)	(留学生用)必修 日本語ⅠAA(1) 日本語ⅠAB(1) 日本語ⅠBA(1) 日本語ⅠBB(1)	(留学生用)選択必修 日本語と日本社会A(2) 日本語と日本社会B(2) 日本語と日本文化A(2) 日本語と日本文化B(2)	※留学生は日本語8単位必修。		
諸資格 関連 科目	教育基礎論Ⅰ(2) 教育基礎論Ⅱ(2)				
		社会教育計画論Ⅰ(2)	社会教育計画論Ⅱ(2)	視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)	
	博物館概論(2) 生涯学習概論(2) 図書館概論(2) 情報サービス概説(2) 児童サービス論(2) コミュニケーション論(2)	博物館学各論(4) 図書及び図書館史(2) 図書館特論(2)	博物館実習Ⅰ(2)	博物館実習Ⅱ(1)	
		図書館経営論(2) 図書館資料論(2)	図書館サービス論(2) 専門資料論(2)	レファレンスサービス演習・情報検索演習(2) 資料組織概説(2) 資料組織演習(2) 情報機器論(2)	
	学習指導と学校図書館(2) 読書と豊かな人間性(2)	学校経営と学校図書館(2)	学校図書館メディアの構成(2) 情報メディアの活用(2)		
インターンシップ・ボランティア活動	インターンシップ(2)		ボランティア活動(2)		
学習支援特別講座	学習支援特別講座ⅠA(2) 学習支援特別講座ⅠB(2)		学習支援特別講座ⅡA(2) 学習支援特別講座ⅡB(2)		

2010 年度以降入学生適用 文学部第 1 部インド哲学科 教育課程表 (専門科目)

インド学コース

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
専 門 科 目 76 単 位 以 上	必修科目 32 単 位	インド学仏教学への誘い A (2) インド学仏教学への誘い B (2) インドの宗教 A (2) インドの宗教 B (2) ブッダの思想とその展開 A (2) ブッダの思想とその展開 B (2) サンスクリット文献を読む I A (2) サンスクリット文献を読む I B (2) 仏教文献を読む A (2) 仏教文献を読む B (2)	インド学仏教学演習 I (2)	インド学仏教学演習 II (2)	卒論指導 (2) 卒業論文 (制作) (6)
	選 択 必 修 科 目 44 単 位 以 上	8 語学領域 単位以上		サンスクリット文献を読む II A (2) チベット文献を読む A (2) パーリ文献を読む A (2) ヒンディー文献を読む A (2) サンスクリット文献を読む II B (2) チベット文献を読む B (2) パーリ文献を読む B (2) ヒンディー文献を読む B (2)	
		24 インド学領域 単位以上		古代インドの社会 (2) インド古典哲学 I (2) ヨーガとアーユルヴェーダ (2) 現代のインド (2) インドの風土と文化 (2) インド古典哲学 II (2) ヒンドゥー教とは何か (2) インド現代思想 (2) インドの芸能 (2) インド文学 (2)	
		インド学・仏教 学共通領域		インド仏教のあゆみ A (2) 初期仏教の思想 (2) 大乘仏教の思想 I (2) 東南アジア仏教のあゆみ (2) インド仏教のあゆみ B (2) 密教の思想 (2) 大乘仏教の思想 II (2) チベット仏教のあゆみ (2) インド・仏教の美術 (2)	
		6 仏教学領域 単位以上		中国仏教のあゆみ A (2) 日本仏教のあゆみ A (2) 天台の思想 (2) 禅の思想 (2) 仏教と社会福祉 (2) 中国仏教のあゆみ B (2) 日本仏教のあゆみ B (2) 華嚴の思想 (2) 念仏の思想 (2) 現代に生きる仏教 (2)	
	6 宗教学領域 単位以上	宗教とは何か A (2) 宗教とは何か B (2) 社会と宗教 A (2) 社会と宗教 B (2) 宗教をめぐる諸問題 A (2) 宗教をめぐる諸問題 B (2)	キリスト教とは何か (2) 宗教間の差異と対話 A (2) 日本 の思想 (2) イスラームとは何か (2) 宗教間の差異と対話 B (2)		
選 択 科 目	関連領域	心理学概論 A (2) 日本美術文化史 A (2) アメリカ思想史 (2) 心理学概論 B (2) 日本美術文化史 B (2) 中国文化史概説 (4) 西洋哲学史概説 I (4) 西洋哲学史概説 II (4) 哲学概論 (4) 東洋史概説 (4)	倫理学概論 (4) 比較言語文化論 A (2) 日本の古典籍 A (2) 東洋史学特講 (4) 比較言語文化論 B (2) 日本の古典籍 B (2)		
教 職 科 目	日本史 A (2) 外国史 A (2) 自然地理学 A (2) 日本史 B (2) 外国史 B (2) 自然地理学 B (2) 人文地理学 A (2) 地誌学 A (2) 人文地理学 B (2) 地誌学 B (2)	宗教科教育論 (2) 社会科教育論 (2) 政治学原論 A (2) 政治学原論 B (2) 国際法 A (2) 国際法 B (2)	宗教科指導法 I (2) 宗教科指導法 II (2) 社会・地歴指導法 I (2) 社会・地歴指導法 II (2) 社会・公民指導法 I (2) 社会・公民指導法 II (2)	教職実践演習 (中・高) (2)	
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載				

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
 2. () は該当科目の単位数。
 3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
 4. 「宗教科教育論」「社会科教育論」「宗教科指導法 I」「宗教科指導法 II」「社会・地歴指導法 I」「社会・地歴指導法 II」「社会・公民指導法 I」「社会・公民指導法 II」「教職実践演習 (中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
 5. 4 年次の「卒論指導」「卒業論文 (制作)」の履修登録は、3 年次終了時点で未修得単位数が 48 単位以下の学生に限る。

2010年度以降入学生適用 文学部第1部インド哲学科 教育課程表(専門科目)

仏教学コース

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専 門 科 目 76 単 位 以 上	必修科目 32 単 位	インド学仏教学への誘いA(2) インド学仏教学への誘いB(2) インドの宗教A(2) インドの宗教B(2) ブッダの思想とその展開A(2) ブッダの思想とその展開B(2) サンスクリット文献を読むI A(2) サンスクリット文献を読むI B(2) 仏教文献を読むA(2) 仏教文献を読むB(2)	インド学仏教学演習I(2)	インド学仏教学演習II(2)	卒論指導(2) 卒業論文(制作)(6)
	8語学領域 単 位 以 上		サンスクリット文献を読むII A(2) チベット文献を読むA(2) パーリ文献を読むA(2) ヒンディー文献を読むA(2) サンスクリット文献を読むII B(2) チベット文献を読むB(2) パーリ文献を読むB(2) ヒンディー文献を読むB(2)		
	6インド学領域 単 位 以 上		古代インドの社会(2) インド古典哲学I(2) ヨーガとアールヴェーダ(2) 現代のインド(2) インドの風土と文化(2) インド古典哲学II(2) ヒンドゥー教とは何か(2) インド現代思想(2) インドの芸能(2) インド文学(2)		
	インド学・仏教 学共通領域		インド仏教のあゆみA(2) 初期仏教の思想(2) 大乘仏教の思想I(2) 東南アジア仏教のあゆみ(2) インド仏教のあゆみB(2) 密教の思想(2) 大乘仏教の思想II(2) チベット仏教のあゆみ(2) インド・仏教の美術(2)		
	24仏教学領域 単 位 以 上		中国仏教のあゆみA(2) 日本仏教のあゆみA(2) 天台の思想(2) 禅の思想(2) 仏教と社会福祉(2) 中国仏教のあゆみB(2) 日本仏教のあゆみB(2) 華嚴の思想(2) 念仏の思想(2) 現代に生きる仏教(2)		
	6宗教学領域 単 位 以 上	宗教とは何かA(2) 宗教とは何かB(2) 社会と宗教A(2) 社会と宗教B(2) 宗教をめぐる諸問題A(2) 宗教をめぐる諸問題B(2)	キリスト教とは何か(2) 宗教間の差異と対話A(2) 日本 の思想(2) イスラームとは何か(2) 宗教間の差異と対話B(2)		
選 択 科 目	関 連 領 域	心理学概論A(2) 日本美術文化史A(2) アメリカ思想史(2) 心理学概論B(2) 日本美術文化史B(2) 中国文化史概説(4) 西洋哲学史概説I(4) 西洋哲学史概説II(4) 倫理学概論(4) 東洋史概説(4) 哲学概論(4)	比較言語文化論A(2) 日本の古典籍A(2) 東洋史学特講(4) 比較言語文化論B(2) 日本の古典籍B(2)		
教 職 科 目		日本史A(2) 外国史A(2) 自然地理学A(2) 日本史B(2) 外国史B(2) 自然地理学B(2) 人文地理学A(2) 地誌学A(2) 人文地理学B(2) 地誌学B(2) 宗教科教育論(2) 社会科教育論(2) 政治学原論A(2) 政治学原論B(2) 国際法A(2) 国際法B(2)	宗教科指導法I(2) 宗教科指導法II(2) 社会・地歴指導法I(2) 社会・地歴指導法II(2) 社会・公民指導法I(2) 社会・公民指導法II(2)	教職実践演習(中・高)(2)	
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)		科目は別表に記載			

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
 2. () は該当科目の単位数。
 3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
 4. 「宗教科教育論」「社会科教育論」「宗教科指導法I」「宗教科指導法II」「社会・地歴指導法I」「社会・地歴指導法II」「社会・公民指導法I」「社会・公民指導法II」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
 5. 4年次の「卒論指導」「卒業論文(制作)」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。

外国人留学生の共通総合科目・国際コミュニケーション科目の履修について

外国人留学生に対しては、日本理解の助けとなる「日本事情」「日本語」の科目が共通総合科目と国際コミュニケーション科目にそれぞれ開設されている。

共通総合科目の「日本事情ⅠA」「日本事情ⅠB」「日本事情ⅡA」「日本事情ⅡB」「日本事情ⅢA」「日本事情ⅢB」、国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA」「日本語ⅠAB」「日本語ⅠBA」「日本語ⅠBB」は必修、「日本語と日本社会A」「日本語と日本社会B」「日本語と日本文化A」「日本語と日本文化B」は選択必修となっている。

原則として1・2年次で履修かつ修得すること。

教育課程表（共通総合科目・文学部共通科目）を参照して間違いのないように登録すること。

〈第1部外国人留学生用科目一覧〉

区分	科 目	単 位	履修年次	区 分
共通 総合 科目	日本事情ⅠA（自然）	2	1～4	必修
	日本事情ⅠB（自然）	2		
	日本事情ⅡA（人文）	2		
	日本事情ⅡB（人文）	2		
	日本事情ⅢA（社会）	2		
	日本事情ⅢB（社会）	2		
国際 コミュニ ケーション 科目	日 本 語 Ⅰ A A	1	1	必修
	日 本 語 Ⅰ A B	1		
	日 本 語 Ⅰ B A	1		
	日 本 語 Ⅰ B B	1		
	日本語と日本社会A	2	2	} 「日本語と日本社会A・B」、 「日本語と日本文化A・B」のうち どちらか一方の組合せ選択必修
	日本語と日本社会B	2		
	日本語と日本文化A	2		
	日本語と日本文化B	2		

※国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA・ⅠAB」「日本語ⅠBA・ⅠBB」「日本語と日本社会A・B」「日本語と日本文化A・B」は通年履修を原則とする。A・Bセットで履修すること。

第1部 中国哲学文学科

五千年の中国の知恵を学んで、豊かな人生の基礎作りを

21世紀に入ってから、私たちは前世紀に抱え込んだ課題を、なかなか解決できないでいる。環境問題・資源問題・人口問題・経済格差問題・温暖化問題・防災問題・戦争や民族紛争・暴力の連鎖と社会不安・倫理観の喪失・道徳の崩壊…等々、数えあげるだけでも気が滅入ってしまいそうである。

もっともこれらの問題には各々背景があり、また複雑に絡み合っているから、一朝のうちに解決を期待できそうにない。それだけに私たちを暗澹たる思いに沈めてしまったり、絶望的な気持ちにさせてしまったりする。

たしかに私たちひとりひとは無力かもしれないが、すぐに絶望したり諦めてしまうようでは、あまりにも大人気なく、無責任な態度といえるのではないだろうか。

中国の知恵を学んだ人は、こういう時に不思議と底力を発揮して、踏ん張ることができるのである。それは自分を支える術を知っているからだと思う。

たとえば中国近代文学の父といわれる魯迅のことは、「絶望の虚妄（きょもう）なることは、まさに希望と相（あい）同じい」（希望が虚ろに思えるのと同じように、絶望だって虚ろなものなんだ）を思い出すことができたなら、絶望を疑ってかかることになる。恐怖心に見切りをつけると、勇気がわいてくるものである。

あるいは『論語』に見える孔子のことは、「徳は孤ならず、必ず鄰あり」（地道に努力を積んでいけば、きっと仲間是可以するものだ）を思い出すことができたなら、孤独感に陥らなくて済むだろう。同じ思いを共有できる人たちの存在に思いを馳せることができたなら、挫（くじ）けてなんかおれなくなる。

このような先人のことは、いまでも生命力を保っていて、私たちに力を与えてくれ、心豊かにしてくれる。ただし、力を得るには前提がある。これら先人のことは、先ずは知っておくこと、学んでおくことである。知識がなければ、思い出すことすらできないから。

知るということは、知識を得ることである。知識は知恵となる。そして知恵は力となり、豊かさの源泉となる。

中国には、そんなビタミン剤が豊富にある。中国五千年の歴史と、空間の広がり背景となって、この地にはたくさんのドラマが生み出されてきた。その結果として、豊かなことばと知恵が蓄積されているのである。

このようなことばや知恵を学ぼうとするのが、私たちの学科での学習内容である。

中国哲学文学科は、東洋大学の前身である哲学館の創設当初から設置されており、以来120年以上の歴史を積み上げてきた。この歴史の長さは、伝統ある東洋大学のなかにあっても際立っているから、私たちの学科の誇りとするところである。またそのことは、私たちの取り組む学問が、歴史に堪え得るものであることを証明しているからである。

中国哲学文学科という名称は、私たちの学科で扱う教学内容を明確に示している。この学科では何を教えているのか、はっきりわかると思う。曖昧な名称でごまかしたりはしていない。そのことは、教学内容に対応できるスタッフ（教員）を、質量ともに揃えていることを示しているからである。

4年間の教育課程においては、時代や分野の偏りを排して、古代から現代までを対象に、中国哲学・中国文学を通して万遍なく学んでいけるように、カリキュラムが組まれている。もちろん哲学であれ、文学であれ、外国（中国）を対象として学ぶのであるから、初めて学ぶ外国語として、中国語に基礎から取り組むことになる。中国語をマスターすれば、文献理解が正確になる。もちろん中国を理解するためには欠かせぬものであるし、さらに中国旅行が格段に楽しくなるという副産物まで生まれる。

中国への正確な理解と深い知識が必要とされるのは、今も昔も変わらないし、またいつの世においても、中国を学ぶことを通して私たちは豊かな知識を身につけてきた。中国哲学文学科で中国五千年の知恵を学び、豊かな人生を歩んでいく基礎力の形成に努めてもらいたいと思っている。

区 分		文学部 第1部 中国哲学文学科 卒業要件					
		一般学生	留学生	中国語を母語とする 留学生			
共通総合科目 16単位以上	自然科学系科目	16単位以上					
	人文科学系科目						
	社会科学系科目						
	スポーツ健康科学系科目						
	情報系科目						
	総合科目						
	留学支援科目						
文学部共通科目 14単位以上	文学部演習科目	※国際コミュニケーション科目の単位を含む、 合計14単位以上					
	文学部基礎専門科目						
	国際コミュニケーション科目				4単位以上	8単位以上	14単位以上
	諸資格関連科目						
	インターンシップ・ボランティア活動						
	学習支援特別講座						
専門科目 78単位以上	必修科目	36単位	36単位	26単位			
	選択必修科目	42単位以上					
	選択科目						
教 職 科 目							
他学部他学科開放科目(専門開放科目)							
卒業必要単位数合計		124単位					

第1部中国哲学文学科

共通総合科目

自然科学系科目
人文科学系科目
社会科学系科目
スポーツ健康科学系科目
情報系科目
総合科目
留学支援科目

共通総合科目は、卒業までに16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ①スポーツ健康科学系科目の授業は、白山キャンパスと東洋大学総合スポーツセンター（板橋区清水町）の2か所で開講されます。
 - ・1限目（白山キャンパス）の実技は、教職課程履修者のみ履修可能であり、受講者多数で抽選になった場合、1年生が優先されます [1時限目のスポーツ健康科学実技の履修方法については、『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください]。
 - ・2～4限目（総合スポーツセンター）の授業は、白山6学部すべての1～4年生（教職課程履修者含む）が履修できます。
- ②「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、16単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

※「自然科学演習A・B」は、2年次以上でかつ講義科目または実験講義科目を合計8単位以上修得していなければ、履修することができない。

文学部共通科目

文学部演習科目
文学部基礎専門科目
国際コミュニケーション科目
諸資格関連科目
インターンシップ・
ボランティア活動
学習支援特別講座

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目4単位の卒業要件を充たし、合計14単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、14単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

文学部基礎専門科目

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インド仏教のあゆみ A(2) インド仏教のあゆみ B(2)	日本仏教のあゆみ A(2) 日本仏教のあゆみ B(2)
哲学特殊演習 A(1) 哲学特殊演習 B(1)	Verbal/Nonverbal Communication A(2) (言語・非言語コミュニケーションA) Verbal/Nonverbal Communication B(2) (言語・非言語コミュニケーションB)
Philosophy of Language A(2) (言語論A) Philosophy of Language B(2) (言語論B)	Japanese and American Cultural Studies A(2) (日米文化論A) Japanese and American Cultural Studies B(2) (日米文化論B)

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。
履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

古代インドの社会(2)	インドの風土と文化(2)
インドの芸能(2)	密教の思想(2)
インド・仏教の美術(2)	天台の思想(2)
華嚴の思想(2)	禪の思想(2)
念仏の思想(2)	

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。
履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能(歌舞伎)(2)	日本の伝統芸能(能・狂言)(2)
比較文学文化史A(2)	韓国文化事情A(2)
比較文学文化史B(2)	韓国文化事情B(2)

国際コミュニケーション科目

1年次の英語、ドイツ語、フランス語の3カ国語から1カ国語を選択し、
4単位以上を履修かつ修得しなければならない。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。
履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

Communicative English A(2)
Communicative English B(2)

◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー(英語・中国語)」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」

※中国哲学文学科在籍の学生は、中国語が必修科目となるため、中国語セミナーによる単位認定はしない。

※セミナーの詳細は、「Ⅴ 留学制度について」(P. 228)を参照すること。

インターンシップ・
ボランティア活動

文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、講義要項を参照すること。

専 門 科 目

中国哲学文学科専門科目は、卒業までに**78単位以上を履修かつ修得しなければならない**。この78単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、**78単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する**。

必修科目

必修科目に設置されている**全ての科目の単位を履修かつ修得しなければならない**。

なお、卒業論文は必修であるため、1年次から計画を立て研究室等の指示に注意すること。ただし、4年次の卒業論文の履修登録は、**3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る**。

選択必修科目

選択必修科目は、**42単位以上を履修かつ修得しなければならない**。この42単位のうち、3・4年次に演習科目群**4科目中3科目(6単位)**以上、特講科目群**4科目中3科目(12単位)**以上を履修かつ修得しなければならない。

選択科目

選択科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

中国仏教のあゆみ A(2)	宗教とは何か A(2)
中国仏教のあゆみ B(2)	宗教とは何か B(2)

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本出版文化史 A(2)	万葉文化論 A(2)
日本出版文化史 B(2)	万葉文化論 B(2)
王朝文化論 A(2)	室町文化論 A(2)
王朝文化論 B(2)	室町文化論 B(2)
江戸文化論 A(2)	近現代文化論 A(2)
江戸文化論 B(2)	近現代文化論 B(2)
比較言語文化論 A(2)	日本の古典籍 A(2)
比較言語文化論 B(2)	日本の古典籍 B(2)
日本民俗学 A(2)	
日本民俗学 B(2)	

教 職 科 目

中国哲学文学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

他学部他学科開放科目（専門開放科目）

別（P. 128）に定める他学部他学科開放科目（専門開放科目）を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

自 由 科 目

中国哲学文学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目（専門開放科目）として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、**卒業単位にならない自由科目として履修することができる**。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第2部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

2008年度以降入学生適用 文学部第1部中国哲学文学科 教育課程表（共通総合科目）

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
16 単 位 以 上 共 通 総 合 科 目	自然科学系科目	自然の数理 A(2) 生活の科学 A(2) エネルギーの科学 A(2) 物質の科学 A(2) 自然の数理 B(2) 生活の科学 B(2) エネルギーの科学 B(2) 物質の科学 B(2) 環境の科学 A(2) 地球の科学 A(2) 生物学 A(2) 天文学 A(2) 環境の科学 B(2) 地球の科学 B(2) 生物学 B(2) 天文学 B(2) 自然科学概論 A(2) 自然誌 A(2) 物理学実験講義 A(2) 生物学実験講義 A(2) 自然科学概論 B(2) 自然誌 B(2) 物理学実験講義 B(2) 生物学実験講義 B(2) 化学実験講義 A(2) 地球科学実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 A(2) 天文学実習講義 A(2) 化学実験講義 B(2) 地球科学実習講義 B(2) 数理・情報実習講義 B(2) 天文学実習講義 B(2) 日本事情 I A(2) (留学生用) 日本事情 I B(2) (留学生用) 自然科学演習 A(2) 自然科学演習 B(2)			
	人文科学系科目	哲学 A(2) 哲学史 A(2) 倫理学基礎論 A(2) 応用倫理学 A(2) 哲学 B(2) 哲学史 B(2) 倫理学基礎論 B(2) 応用倫理学 B(2) 科学思想史 A(2) 美術史 A(2) 音楽学 A(2) 宗教学 I A(2) 科学思想史 B(2) 美術史 B(2) 音楽学 B(2) 宗教学 I B(2) 宗教学 II A(2) 国際教育論 A(2) 多文化共生論 A(2) 地球倫理 A(2) 宗教学 II B(2) 国際教育論 B(2) 多文化共生論 B(2) 地球倫理 B(2) 百人一首の文化史 A(2) 日本の昔話 A(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本の詩歌 A(2) 百人一首の文化史 B(2) 日本の昔話 B(2) 日本文学文化と風土 B(2) 日本の詩歌 B(2) 西欧文学 A(2) 現代日本文学 A(2) 地域文化研究 I A(2) 地域文化研究 II A(2) 西欧文学 B(2) 現代日本文学 B(2) 地域文化研究 I B(2) 地域文化研究 II B(2) 地域文化研究 III A(2) 地域史 (日本) A(2) 地域史 (東洋) A(2) 地域史 (西洋) A(2) 地域文化研究 III B(2) 地域史 (日本) B(2) 地域史 (東洋) B(2) 地域史 (西洋) B(2) 歴史の諸問題 A(2) 論理学 A(2) 歴史の諸問題 B(2) 論理学 B(2) 日本事情 II A(2) (留学生用) 日本事情 II B(2) (留学生用)			
	社会科学系科目	経済学 A(2) 統計学 A(2) 経営学入門(2) ベーシック・マーケティング(2) 経済学 B(2) 統計学 B(2) 基礎経営学(2) 流通入門(2) 基礎会計学(2) 法学 A(2) 日本国憲法(2) 政治学 A(2) ビジネス社会と会計(2) 法学 B(2) 政治学 B(2) 社会学 A(2) 人類学 A(2) 地理学 A(2) 国際比較論 A(2) 社会学 B(2) 人類学 B(2) 地理学 B(2) 国際比較論 B(2) 心理学の基礎(2) 社会適応の心理学(2) 日本事情 III A(2) (留学生用) 日本事情 III B(2) (留学生用)			
	スポーツ健康科学系科目	スポーツ健康科学実技 I A(1) スポーツ健康科学実技 II A(1) スポーツ健康科学実技 III A(1) スポーツ健康科学実技 I B(1) スポーツ健康科学実技 II B(1) スポーツ健康科学実技 III B(1) スポーツ健康科学講義 I(2) スポーツ健康科学講義 II A(2) スポーツ健康科学演習 I(2) スポーツ健康科学講義 II B(2)			
	情報系科目	情報化社会と人間(2) 情報倫理(2) コンピュータ・リテラシー(2)			
	総合科目	総合 I A(2) 総合 II A(2) 総合 III A(2) 総合 IV A(2) 総合 V A(2) 総合 VI A(2) 総合 I B(2) 総合 II B(2) 総合 III B(2) 総合 IV B(2) 総合 V B(2) 総合 VI B(2) 総合 VII A(2) 総合 VIII A(2) 総合 IX A(2) 全学総合 I A(2) 全学総合 II A(2) 総合 VII B(2) 総合 VIII B(2) 総合 IX B(2) 全学総合 I B(2) 全学総合 II B(2)			
	留学支援科目	英語特別教育科目 Special Course in Advanced TOEFL I (4) Special Course in Advanced TOEFL II (4)			
	日本語科目	(協定校並びにISEP加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目) Integrated Japanese I (5) Japanese Reading and Composition I (2) Kanji Literacy I (1) Integrated Japanese II (5) Japanese Reading and Composition II (2) Kanji Literacy II (1) Project Work I (1) Japanese Listening Comprehension I (1) Japanese Culture I (1) Project Work II (1) Japanese Listening Comprehension II (1) Japanese Culture II (1)			

2008 年度以降入学生適用 文学部第 1 部中国哲学文学科 教育課程表 (文学部共通科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
文学部演習科目	文学部教養演習(2)		情報処理演習 A(1)	情報処理演習 B(1)
文学部 基 礎 専 門 科 目	論 理 学 概 論(4) 哲 学 基 礎 概 説(4) 日 本 史 概 説(4) 東 洋 史 概 説(4) 西 洋 史 概 説(4)	比 較 思 想(4) 英 文 学 特 講 I(4) 英 文 学 特 講 II(4) 英 文 学 特 講 III(4) 米 文 学 特 講 I(4) 米 文 学 特 講 II(4) 哲 学 と 科 学(4) イ ン ド の 芸 能(2) イ ン ド ・ 仏 教 の 美 術(2) 華 厳 の 思 想(2) 密 教 の 思 想(2) 日 本 仏 教 の あ ゆ み A(2) 日 本 仏 教 の あ ゆ み B(2) 文 芸 創 作(2)	哲 学 概 論(4) 英 文 学 特 講 II(4) 米 文 学 特 講 II(4) 応 用 倫 理 学 特 論(4) イ ン ド の 風 土 と 文 化(2) イ ン ド の 風 土 と 文 化(2) 禪 の 思 想(2) 念 仏 の 思 想(2) イ ン ド 仏 教 の あ ゆ み A(2) イ ン ド 仏 教 の あ ゆ み B(2) 児 童 文 学(2)	哲 学 と 宗 教 思 想(4) 古 代 イ ン ド の 社 会(2) 天 台 の 思 想(2)
	生 涯 学 習 概 論 I(2) 生 涯 学 習 概 論 II(2)	特 別 支 援 教 育 概 論 I(2) 特 別 支 援 教 育 概 論 II(2)	哲 学 特 殊 演 習 A(1) 哲 学 特 殊 演 習 B(1) 倫 理 学 概 論(4) イ ギ リ ス の 文 化 と 思 想(4)	ア メ リ カ の 文 化 と 思 想(4)
	英 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2) 英 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2) フ ラ ン ス 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2) フ ラ ン ス 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2)	ド イ ツ 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2) ド イ ツ 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2) 中 国 文 学 文 化 と 日 本 A(2) 中 国 文 学 文 化 と 日 本 B(2)		
	日 本 の 伝 統 行 事 A(2) 日 本 の 伝 統 行 事 B(2) 日 本 美 術 文 化 史 A(2) 日 本 美 術 文 化 史 B(2) 心 理 学 概 論 A(2) 心 理 学 概 論 B(2) V e r b a l / N o n v e r b a l C o m m u n i c a t i o n A(2) (言 語 ・ 非 言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン A) V e r b a l / N o n v e r b a l C o m m u n i c a t i o n B(2) (言 語 ・ 非 言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン B)	日 本 の 伝 統 芸 能 (歌 舞 伎) (2) 日 本 の 伝 統 芸 能 (能 ・ 狂 言) (2) 比 較 文 学 文 化 史 A(2) 比 較 文 学 文 化 史 B(2) 家 族 心 理 学(2) 女 性 問 題 と 学 習(2) P h i l o s o p h y o f L a n g u a g e A(2) (言 語 論 A) P h i l o s o p h y o f L a n g u a g e B(2) (言 語 論 B)	日 本 の 伝 統 芸 能 (歌 舞 伎) (2) 日 本 の 伝 統 芸 能 (能 ・ 狂 言) (2) 比 較 文 学 文 化 史 A(2) 比 較 文 学 文 化 史 B(2) 家 族 心 理 学(2) 女 性 問 題 と 学 習(2) P h i l o s o p h y o f L a n g u a g e A(2) (言 語 論 A) P h i l o s o p h y o f L a n g u a g e B(2) (言 語 論 B)	韓 国 文 化 事 情 A(2) 韓 国 文 化 事 情 B(2) 児 童 文 化 研 究(2) 家 庭 教 育 論(2) J a p a n e s e a n d A m e r i c a n C u l t u r a l S t u d i e s A(2) (日 米 文 化 論 A) J a p a n e s e a n d A m e r i c a n C u l t u r a l S t u d i e s B(2) (日 米 文 化 論 B)
	中国語			中 国 語 III A(2) 中 国 語 III B(2)
	英 語	検定英語(4) Practical Writing (2) Communicative English A(2) Communicative English B(2)		
	ドイツ語	英 語 I A(2) 英 語 I B(2)	英 語 II A(2) 英 語 II B(2)	英 語 III A(2) 英 語 III B(2)
	ドイツ語	ド イ ツ 語 I A(2) ド イ ツ 語 I B(2)	ド イ ツ 語 II A(2) ド イ ツ 語 II B(2)	ド イ ツ 語 III A(2) ド イ ツ 語 III B(2)
	フランス語	フ ラ ン ス 語 I A(2) フ ラ ン ス 語 I B(2)	フ ラ ン ス 語 II A(2) フ ラ ン ス 語 II B(2)	フ ラ ン ス 語 III A(2) フ ラ ン ス 語 III B(2)
	日本語 (留学生用)	1 カ国語 4 単位選択必修 (留 学 生 用) 必 修 日 本 語 I A A(1) 日 本 語 I A B(1) 日 本 語 I B A(1) 日 本 語 I B B(1) (留 学 生 用) 選 択 必 修 日 本 語 と 日 本 社 会 A(2) 日 本 語 と 日 本 社 会 B(2) 日 本 語 と 日 本 文 化 A(2) 日 本 語 と 日 本 文 化 B(2) ※ 留 学 生 は 日 本 語 8 単 位 必 修。		
諸 資 格 関 連 科 目	教 育 基 礎 論 I(2) 教 育 基 礎 論 II(2)			
	社 会 教 育 計 画 論 I(2) 社 会 教 育 計 画 論 II(2) 視 聴 覚 教 育 (視 聴 覚 メ デ ィ ア 論 を 含 む) (2)			
	博 物 館 概 論(2)	博 物 館 学 各 論(4)	博 物 館 実 習 I(2)	博 物 館 実 習 II(1)
	生 涯 学 習 概 論(2) 図 書 館 概 論(2)	情 報 サ ー ビ ス 概 説(2)		
	児 童 サ ー ビ ス 論(2) コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論(2)	図 書 及 び 図 書 館 史(2) 図 書 館 特 論(2)		
学 習 指 導 と 学 校 図 書 館(2) 読 書 と 豊 かな 人 間 性(2)	図 書 館 経 営 論(2) 図 書 館 サ ー ビ ス 論(2) 図 書 館 資 料 論(2) 専 門 資 料 論(2)	レ フ ェ レ ン ス サ ー ビ ス 演 習 ・ 情 報 検 索 演 習(2) 資 料 組 織 概 説(2) 資 料 組 織 演 習(2)	情 報 機 器 論(2) 学 校 図 書 館 メ デ ィ ア の 構 成(2) 情 報 メ デ ィ ア の 活 用(2)	
イ ン タ ー ン シ ッ プ ・ ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	イ ン タ ー ン シ ッ プ(2)		ボ ラ ン テ ィ ア 活 動(2)	
学 習 支 援 特 別 講 座	学 習 支 援 特 別 講 座 I A(2) 学 習 支 援 特 別 講 座 I B(2)		学 習 支 援 特 別 講 座 II A(2) 学 習 支 援 特 別 講 座 II B(2)	

2010年度以降入学生適用 文学部第1部中国哲学文学科 教育課程表(専門科目)

区 分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専 門 科 目 78 単 位 以 上	必修科目 36 単 位	中国哲学研究法(4) 中国文学研究法(4) 中国学概論(4)	中国哲学演習Ⅰ(2) 中国文学演習Ⅰ(2) 中国文献学概論(4)	卒業論文(6)
	選択必修科目 42 単 位 以 上	中国語ⅠA(2) 中国語ⅠB(2) 中国語ⅠC(2)	中国語ⅡA(2) 中国語ⅡB(2)	*中国語が母語の場合は、文学部共通科目国際コミュニケーション科目のうち1・2年次の英語・ドイツ語・フランス語から1カ国語6単位を選択必修。
		中国文献読解法(4) 中国文字学(4) 中国文化史概説(4)	中国哲学史概説(4) 中国文学史概説(4) 中国現代文学史概説(4)	日本漢学(4)
			中国哲学演習Ⅱ(2) 中国哲学演習Ⅲ(2) 中国文学演習Ⅱ(2) 中国文学演習Ⅲ(2)	4科目中3科目以上 選択必修
		中国哲学特講Ⅰ(4) 中国哲学特講Ⅱ(4) 中国文学特講Ⅰ(4) 中国文学特講Ⅱ(4)	4科目中3科目以上 選択必修	中国語学演習(2)
		宗教とは何かA(2) 宗教とは何かB(2)	日本出版文化史A(2) 日本出版文化史B(2)	
	選択科目	日本文学文化概説A(2) 日本文学文化概説B(2) 古代日本文学史A(2) 古代日本文学史B(2) 近世日本文学史A(2) 近世日本文学史B(2)	日本語概説A(2) 日本語概説B(2) 中世日本文学史A(2) 中世日本文学史B(2) 近現代日本文学史A(2) 近現代日本文学史B(2)	
		作家作品研究(上代)(4) 作家作品研究(近世)(4)	作家作品研究(中古)(4) 作家作品研究(近現代)(4)	作家作品研究(中世)(4)
		万葉文化論A(2) 万葉文化論B(2) 江戸文化論A(2) 江戸文化論B(2) 日本民俗学A(2) 日本民俗学B(2) 古典文法(4)	王朝文化論A(2) 王朝文化論B(2) 近現代文化論A(2) 近現代文化論B(2) 比較言語文化論A(2) 比較言語文化論B(2) 現代語文法(4)	室町文化論A(2) 室町文化論B(2) 日本の古典籍A(2) 日本の古典籍B(2) 中国仏教のあゆみA(2) 中国仏教のあゆみB(2) 日本語史(4)
		西洋哲学史概説Ⅰ(4) 書道Ⅰ(2)	西洋哲学史概説Ⅱ(4) 書道Ⅱ(2) 書道史A(2) 書道史B(2)	日本哲学特講(4) 書道Ⅲ(2) 書道Ⅳ(2) 書論A(2) 書論B(2)
教職科目		国語科教育論(2)	国語科指導法Ⅰ(2) 国語科指導法Ⅱ(2) 書道科指導法Ⅰ(2) 書道科指導法Ⅱ(2)	教職実践演習(中・高)(2)
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載			

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
 2. () は該当科目の単位数。
 3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
 4. 「国語科教育論」「国語科指導法Ⅰ」「国語科指導法Ⅱ」「書道科指導法Ⅰ」「書道科指導法Ⅱ」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
 5. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。

外国人留学生の共通総合科目・国際コミュニケーション科目の履修について

外国人留学生に対しては、日本理解の助けとなる「日本事情」「日本語」の科目が共通総合科目と国際コミュニケーション科目にそれぞれ開設されている。

共通総合科目の「日本事情ⅠA」「日本事情ⅠB」「日本事情ⅡA」「日本事情ⅡB」「日本事情ⅢA」「日本事情ⅢB」、国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA」「日本語ⅠAB」「日本語ⅠBA」「日本語ⅠBB」は必修、「日本語と日本社会A」「日本語と日本社会B」「日本語と日本文化A」「日本語と日本文化B」は選択必修となっている。

原則として1・2年次で履修かつ修得すること。

教育課程表（共通総合科目・文学部共通科目）を参照して間違いのないように登録すること。

〈第1部外国人留学生用科目一覧〉

区分	科 目	単 位	履修年次	区 分
共通 総合 科目	日本事情ⅠA（自然）	2	1～4	必修
	日本事情ⅠB（自然）	2		
	日本事情ⅡA（人文）	2		
	日本事情ⅡB（人文）	2		
	日本事情ⅢA（社会）	2		
	日本事情ⅢB（社会）	2		
国際 コミュニ ケーシ ョン 科目	日 本 語 Ⅰ A A	1	1	必修
	日 本 語 Ⅰ A B	1		
	日 本 語 Ⅰ B A	1		
	日 本 語 Ⅰ B B	1		
	日本語と日本社会A	2	2	「日本語と日本社会A・B」、 「日本語と日本文化A・B」のうち どちらか一方の組合せ選択必修
	日本語と日本社会B	2		
	日本語と日本文化A	2		
	日本語と日本文化B	2		

※国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA・ⅠAB」「日本語ⅠBA・ⅠBB」「日本語と日本社会A・B」「日本語と日本文化A・B」は通年履修を原則とする。A・Bセットで履修すること。

第1部 日本文学文化学科

日本を知ろう！ 日本人を知ろう！

日本文学文化学科は、新しい時代に適合した研究と教育を目標としている。学祖、井上円了は、明治前半期の西洋第一主義の風潮への反省として「東洋を本とし日本を主」とする哲学館・東洋大学を開設した。しかし、それは単なる狭い東洋主義ではなく、「東洋の学を主とし、西洋の学を客とし、彼我、主客を合わせて研究する主義」の提唱であり、教育であった。この主張は現代でも光を失わないものである。

現代日本社会が今後ますます国際化していく状況の中で、いずれの国家・民族にとっても、それぞれの固有の文化（アイデンティティー）をいかに確立継承し、創造するかということは、これからの新しい世紀に必須の課題となるに違いない。日本及び日本人を正しく知るとともに、伝統的な学問・日本文化を正しく継承し、新たに世界から日本を見るという視点を導入した日本文学文化学科の教育内容は、国際化時代にふさわしいものと言える。

◇教育課程（カリキュラム）の特色

日本文学文化学科のカリキュラムには、共通総合科目と文学部共通科目、専門科目、それに開放科目がある。共通総合科目は、各分野に応じて広く文化を学び、考察するものである。文学部共通科目には、図書館司書・学校図書館司書教諭、学芸員資格に関する科目が用意されており、各自の目的によって選択できるようになっている。

専門科目は1年次の「基礎演習」1・2年次の「日本文学文化概説A・B」「日本語概説A・B」が必修科目であり、2年次以降の専門的な演習と「卒業論文」への足がかりとなる。

選択必修科目には、専攻分野別の演習や多彩な講義等多くの科目群が用意されている。各科目群の指定がなされているものもあるが、学年に応じて選択できる。科目群と指定単位数に注意して選択すること。

演習（ゼミナール）は「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」と専門性を深めて展開し、4年次の「卒業論文」へと結実していくことになる。演習の目的は、みずから考え、みずから課題を発見することにある。

これらの演習科目は、日本文学文化学科のカリキュラムの中心である。2年次の「演習Ⅰ」の選択から、「日本語」「古典文学文化」「近現代文学文化」「比較文学文化」という四つの専攻分野が設置され、主としてそれに対応する選択をする。なお「演習Ⅲ」については3年次履修の専攻分野から選択することになる。

選択科目には、国語科、書道科各教員免許状取得のための科目（教職科目）が用意されている。各自の目的に応じて選択できる。

選択必修科目にかかわる専攻分野間は自由に横断的な学習ができるようになっているので、専門性を深めながら、日本文学文化を総合的、包括的に学習できる。いわばフレキシブルな履修システムであるから、各自がそれぞれの明確な学習目標に応じた選択科目を履修することにより、主体的で個性あふれるカリキュラムを作成することが可能である。

開放科目は、他学部・他学科の開放科目であり、日本文学文化学科では、各自の考えにより広範囲な学問分野の学習ができるようになっている。

◇四つの専攻分野

○日本語分野

日本語の過去から現在までのあり方を総合的に研究するとともに、言語学一般や他言語との比較考察も行いながら、これからの日本語のあるべき姿を考察する。そのうえで、日本語に対して深い愛情と適切な批判を注ぐことができる姿勢を養う。

○古典文学文化分野

古代から近世に至る古典文学を実証的な観点から考察し、そこに表れた日本人の心や文化のかたちを、より深くより豊かに理解していく。そして、日本の文化遺産である古典文学の価値を正しく継承し、さらに次代へ伝えていくことを使命とする。

○近現代文学文化分野

明治期から今日に至るさまざまな文学作品について、多種多様な方法論による分析と考察を試み、その文学の特質や作家の本質を究明する。その過程で、近現代文学文化の問題点や思想性を汲み取り、これからの日本文学や日本人の可能性を模索していく。

○比較文学文化分野

比較文学文化の概念や理念を学ぶとともに、「世界から日本を見る」という視点で、日本を相対化する姿勢を確立する。そして、既成の学問の枠にとらわれることなく、多様な「日本文学文化論」を展開し、国際社会における日本文学文化の意義や可能性を探る。

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

第1部日本文学文化学科と第2部日本文学文化学科で同一科目として設置しており、年度ごとに第1部か第2部のいずれかで開講する科目（P. 67参照）がある。履修を希望する場合は、開講曜日時限に注意すること。

◇第2部日本文学文化学科・通信教育課程日本文学文化学科の科目との相互聴講科目

第1部日本文学文化学科の学生は、40単位を限度として、第2部日本文学文化学科または通信教育課程での開講科目が受講できる。

3部間相互聴講制度による相互聴講科目（P. 68参照）によって手続きをし、聴講すること。

区 分		文学部 第1部 日本文学文化学科 卒業要件
共通総合科目 16単位以上	自然科学系科目	16単位以上
	人文科学系科目	
	社会科学系科目	
	スポーツ健康科学系科目	
	情報系科目	
	総合科目	
	留学支援科目	
文学部共通科目 18単位以上	文学部演習科目	
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	12単位以上
	諸資格関連科目	※国際コミュニケーション科目12単位を含む、 合計18単位以上
	インターンシップ・ボランティア活動	
	学習支援特別講座	
専門科目 70単位以上	必修科目	14単位
	選択必修科目	56単位以上
	選択科目	
教 職 科 目		
他学部他学科開放科目(専門開放科目)		
卒業必要単位数合計		124単位

第1部日本文学文化学科

共通総合科目

自然科学系科目
 人文科学系科目
 社会科学系科目
 スポーツ健康科学系科目
 情報系科目
 総合科目
 留学支援科目

共通総合科目は、卒業までに16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ①スポーツ健康科学系科目の授業は、白山キャンパスと東洋大学総合スポーツセンター（板橋区清水町）の2か所で開講されます。
 - ・1限目（白山キャンパス）の実技は、教職課程履修者のみ履修可能であり、受講者多数で抽選になった場合、1年生が優先されます [1時限目のスポーツ健康科学実技の履修方法については、『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください]。
 - ・2～4限目（総合スポーツセンター）の授業は、白山6学部すべての1～4年生（教職課程履修者含む）が履修できます。
- ②「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、16単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

※「自然科学演習A・B」は、2年次以上でかつ講義科目または実験講義科目を合計8単位以上修得していなければ、履修することができない。

文学部共通科目

文学部演習科目
 文学部基礎専門科目
 国際コミュニケーション科目
 諸資格関連科目
 インターンシップ・
 ボランティア活動
 学習支援特別講座

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目12単位の卒業要件を充たし、合計18単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、18単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

文学部基礎専門科目

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インド仏教のあゆみ A(2) インド仏教のあゆみ B(2)	中国仏教のあゆみ A(2) 中国仏教のあゆみ B(2)
哲学特殊演習 A(1) 哲学特殊演習 B(1)	Verbal/Nonverbal Communication A(2) (言語・非言語コミュニケーションA) Verbal/Nonverbal Communication B(2) (言語・非言語コミュニケーションB)
Philosophy of Language A(2) (言語論A) Philosophy of Language B(2) (言語論B)	Japanese and American Cultural Studies A(2) (日米文化論A) Japanese and American Cultural Studies B(2) (日米文化論B)

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。
履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

古代インドの社会(2)	インドの風土と文化(2)
インドの芸能(2)	密教の思想(2)
インド・仏教の美術(2)	天台の思想(2)
華嚴の思想(2)	禪の思想(2)
念仏の思想(2)	

国際コミュニケーション科目

1年次に英語、ドイツ語、フランス語、中国語の4カ国語から2カ国語を選択し8単位、2年次には1年次に履修した2カ国語から1カ国語を選択し4単位、合計12単位以上を履修かつ修得しなければならない。

2年次の語学選択は、1年次7月頃に希望調査を行う。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。
履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

Communicative English A(2)
Communicative English B(2)

◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」
「中国語ⅠA」「中国語ⅠB」「中国語ⅡA」「中国語ⅡB」

※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」(P. 228)を参照すること。

インターンシップ・
ボランティア活動

文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。
詳細は、講義要項を参照すること。

専 門 科 目

日本文学文化学科専門科目は、卒業までに**70単位以上を履修かつ修得しなければならない**。この70単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、**70単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する**。

必修科目

必修科目に設置されている**全ての科目の単位を履修かつ修得しなければならない**。

なお、卒業論文は必修であるため、1年次から計画を立て研究室等の指示に注意すること。ただし、4年次の卒業論文の履修登録は、**3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る**。

選択必修科目Ⅰ

選択必修科目Ⅰは、各科目群からそれぞれ定められた科目数以上を選択し、**合計36単位以上を履修かつ修得しなければならない**。

選択必修科目Ⅱ

選択必修科目Ⅱは、**20単位以上を履修かつ修得しなければならない**。

選択科目

選択科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

「創作書道」を履修する場合は、前年度までに「書道Ⅲ」または「書道Ⅳ」を修得していなければならない。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

日本仏教のあゆみ A(2)

日本仏教のあゆみ B(2)

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能(歌舞伎)(2)	日本の伝統芸能(能・狂言)(2)
日本文学文化実地研究(2)	
日本出版文化史 A(2)	比較文学文化史 A(2)
日本出版文化史 B(2)	比較文学文化史 B(2)
韓国文化事情 A(2)	万葉文化論 A(2)
韓国文化事情 B(2)	万葉文化論 B(2)
王朝文化論 A(2)	室町文化論 A(2)
王朝文化論 B(2)	室町文化論 B(2)
江戸文化論 A(2)	近現代文化論 A(2)
江戸文化論 B(2)	近現代文化論 B(2)
比較言語文化論 A(2)	日本の古典籍 A(2)
比較言語文化論 B(2)	日本の古典籍 B(2)
日本民俗学 A(2)	中国の古典(史記・孟子)(4)
日本民俗学 B(2)	

教 職 科 目

日本文学文化学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

他学部他学科開放科目（専門開放科目）

別（P. 128）に定める他学部他学科開放科目（専門開放科目）を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

自 由 科 目

日本文学文化学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目（専門開放科目）として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、卒業単位にならない自由科目として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第2部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

◇日本文学文化学科 3 部間相互聴講制度による相互聴講科目

日本文学文化学科第 1 部・第 2 部・通信教育部の 3 部間のみ聴講を認める。
同一年度で第 1 部と第 2 部、通信教育部で開講する。

履修条件は、以下の通りである。

- (1) 卒業までに 40 単位を超えて履修かつ修得することはできない。ただし、同一の部において 30 単位を超えて履修かつ修得することはできない。
- (2) 科目提供主体（第 2 部・通信教育部）の学年配当にしたがって履修しなければならない。
- (3) 年間履修最高単位数（48 単位）に算入する。
- (4) 履修かつ修得した単位は、専門科目として、卒業単位に算入する。
- (5) 履修方法
第 2 部提供科目の履修を希望する場合は、第 1 部の科目と同様に履修登録をすること。
通信教育部提供科目の履修を希望する場合は、通信教育課（浦水会館 1F）の説明を受けて、許可をもらい聴講すること。
- (6) 対象科目

1. 第 2 部日本文学文化学科提供科目群

日本文学文化概説 A(2)	日本語概説 A(2)	
日本文学文化概説 B(2)	日本語概説 B(2)	
日本語史(4)	古典文法(4)	現代語文法(4)
古代日本文学史 A(2)	中世日本文学史 A(2)	近世日本文学史 A(2)
古代日本文学史 B(2)	中世日本文学史 B(2)	近世日本文学史 B(2)
近現代日本文学史 A(2)	日本語学特講 A(2)	日本文学文化特講(古典) A(2)
近現代日本文学史 B(2)	日本語学特講 B(2)	日本文学文化特講(古典) B(2)
日本文学文化特講(近現代) A(2)	比較文学文化特講 A(2)	作家作品研究(上代)(4)
日本文学文化特講(近現代) B(2)	比較文学文化特講 B(2)	作家作品研究(中古)(4)
作家作品研究(中世)(4)	作家作品研究(近世)(4)	作家作品研究(近現代)(4)
英語圏文学文化と日本 A(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 A(2)	フランス語圏文学文化と日本 A(2)
英語圏文学文化と日本 B(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 B(2)	フランス語圏文学文化と日本 B(2)
中国文学文化と日本 A(2)	日本の伝統行事 A(2)	日本美術文化史 A(2)
中国文学文化と日本 B(2)	日本の伝統行事 B(2)	日本美術文化史 B(2)
中国の古典(唐詩選・論語)(4)	児童文学(2)	文芸創作(2)

2. 通信教育部日本文学文化学科提供科目群

日本文学文化概説 A(2)	日本語概説 A(2)	
日本文学文化概説 B(2)	日本語概説 B(2)	
日本語史(4)	古典文法(4)	現代語文法(4)
古代日本文学史 A(2)	中世日本文学史 A(2)	近世日本文学史 A(2)
古代日本文学史 B(2)	中世日本文学史 B(2)	近世日本文学史 B(2)
近現代日本文学史 A(2)	日本語学特講 A(2)	日本文学文化特講(古典) A(2)
近現代日本文学史 B(2)	日本語学特講 B(2)	日本文学文化特講(古典) B(2)
日本文学文化特講(近現代) A(2)	比較文学文化特講 A(2)	作家作品研究(上代)(4)
日本文学文化特講(近現代) B(2)	比較文学文化特講 B(2)	作家作品研究(中古)(4)
作家作品研究(中世)(4)	作家作品研究(近世)(4)	作家作品研究(近現代)(4)
英語圏文学文化と日本 A(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 A(2)	フランス語圏文学文化と日本 A(2)
英語圏文学文化と日本 B(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 B(2)	フランス語圏文学文化と日本 B(2)
中国文学文化と日本 A(2)	日本の伝統行事 A(2)	日本美術文化史 A(2)
中国文学文化と日本 B(2)	日本の伝統行事 B(2)	日本美術文化史 B(2)
日本出版文化史 A(2)	比較文学文化史 A(2)	韓国文化事情 A(2)
日本出版文化史 B(2)	比較文学文化史 B(2)	韓国文化事情 B(2)
中国の古典(唐詩選・論語)(4)		
万葉文化論 A(2)	王朝文化論 A(2)	室町文化論 A(2)
万葉文化論 B(2)	王朝文化論 B(2)	室町文化論 B(2)
江戸文化論 A(2)	近現代文化論 A(2)	比較言語文化論 A(2)
江戸文化論 B(2)	近現代文化論 B(2)	比較言語文化論 B(2)
日本の古典籍 A(2)	日本民俗学 A(2)	児童文学(2)
日本の古典籍 B(2)	日本民俗学 B(2)	文芸創作(2)
中国の古典(史記・孟子)(4)		

2008 年度以降入学生適用 文学部第 1 部日本文学文化学科 教育課程表(共通総合科目)

区 分		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
16 単 位 以 上 共 通 綜 合 科 目	自然科学系科目	自然の数理 A(2) 生活の科学 A(2) エネルギーの科学 A(2) 物質の科学 A(2) 自然の数理 B(2) 生活の科学 B(2) エネルギーの科学 B(2) 物質の科学 B(2) 環境の科学 A(2) 地球の科学 A(2) 生物学 A(2) 天文学 A(2) 環境の科学 B(2) 地球の科学 B(2) 生物学 B(2) 天文学 B(2) 自然科学概論 A(2) 自然誌 A(2) 物理学実験講義 A(2) 生物学実験講義 A(2) 自然科学概論 B(2) 自然誌 B(2) 物理学実験講義 B(2) 生物学実験講義 B(2) 化学実験講義 A(2) 地球科学実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 A(2) 天文学実習講義 A(2) 化学実験講義 B(2) 地球科学実習講義 B(2) 数理・情報実習講義 B(2) 天文学実習講義 B(2) 日本事情 I A(2) (留学生用) 日本事情 I B(2) (留学生用) 自然科学演習 A(2) 自然科学演習 B(2)			
	人文科学系科目	哲学 A(2) 哲学史 A(2) 倫理学基礎論 A(2) 応用倫理学 A(2) 哲学 B(2) 哲学史 B(2) 倫理学基礎論 B(2) 応用倫理学 B(2) 科学思想史 A(2) 美術史 A(2) 音楽学 A(2) 宗教学 I A(2) 科学思想史 B(2) 美術史 B(2) 音楽学 B(2) 宗教学 I B(2) 宗教学 II A(2) 国際教育論 A(2) 多文化共生論 A(2) 地球倫理 A(2) 宗教学 II B(2) 国際教育論 B(2) 多文化共生論 B(2) 地球倫理 B(2) 百人一首の文化史 A(2) 日本の昔話 A(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本の詩歌 A(2) 百人一首の文化史 B(2) 日本の昔話 B(2) 日本文学文化と風土 B(2) 日本の詩歌 B(2) 西欧文学 A(2) 現代日本文学 A(2) 地域文化研究 I A(2) 地域文化研究 II A(2) 西欧文学 B(2) 現代日本文学 B(2) 地域文化研究 I B(2) 地域文化研究 II B(2) 地域文化研究 III A(2) 地域史(日本) A(2) 地域史(東洋) A(2) 地域史(西洋) A(2) 地域文化研究 III B(2) 地域史(日本) B(2) 地域史(東洋) B(2) 地域史(西洋) B(2) 歴史の諸問題 A(2) 論理学 A(2) 歴史の諸問題 B(2) 論理学 B(2) 日本事情 II A(2) (留学生用) 日本事情 II B(2) (留学生用)			
	社会科学系科目	経済学 A(2) 統計学 A(2) 経営学入門(2) ベーシック・マーケティング(2) 経済学 B(2) 統計学 B(2) 基礎経営学(2) 流通入門(2) 基礎会計学(2) 法学 A(2) 日本国憲法(2) 政治学 A(2) ビジネス社会と会計(2) 法学 B(2) 政治学 B(2) 社会学 A(2) 人類学 A(2) 地理学 A(2) 国際比較論 A(2) 社会学 B(2) 人類学 B(2) 地理学 B(2) 国際比較論 B(2) 心理学の基礎(2) 社会適応の心理学(2) 日本事情 III A(2) (留学生用) 日本事情 III B(2) (留学生用)			
	スポーツ健康科学系科目	スポーツ健康科学実技 I A(1) スポーツ健康科学実技 II A(1) スポーツ健康科学実技 III A(1) スポーツ健康科学実技 I B(1) スポーツ健康科学実技 II B(1) スポーツ健康科学実技 III B(1) スポーツ健康科学講義 I (2) スポーツ健康科学講義 II A(2) スポーツ健康科学演習 I (2) スポーツ健康科学講義 II B(2)			
	情報系科目	情報化社会と人間(2) 情報倫理(2) コンピュータ・リテラシー(2)			
	総合科目	総合 I A(2) 総合 II A(2) 総合 III A(2) 総合 IV A(2) 総合 V A(2) 総合 VI A(2) 総合 I B(2) 総合 II B(2) 総合 III B(2) 総合 IV B(2) 総合 V B(2) 総合 VI B(2) 総合 VII A(2) 総合 VIII A(2) 総合 IX A(2) 全学総合 I A(2) 全学総合 II A(2) 総合 VII B(2) 総合 VIII B(2) 総合 IX B(2) 全学総合 I B(2) 全学総合 II B(2)			
	留学支援科目	英語特別教育科目 Special Course in Advanced TOEFL I(4) Special Course in Advanced TOEFL II(4)			
	日本語科目	(協定校並びにISEP加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目) Integrated Japanese I(5) Japanese Reading and Composition I(2) Kanji Literacy I(1) Integrated Japanese II(5) Japanese Reading and Composition II(2) Kanji Literacy II(1) Project Work I(1) Japanese Listening Comprehension I(1) Japanese Culture I(1) Project Work II(1) Japanese Listening Comprehension II(1) Japanese Culture II(1)			

2008 年度以降入学生適用 文学部第 1 部日本文学文化学科 教育課程表(文学部共通科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年		
文学部演習科目	文学部教養演習(2)		情報処理演習 A(1)	情報処理演習 B(1)		
文学部 基 礎 専 門 科 目	論 理 学 概 論(4)	比 較 思 想(4)	哲 学 概 論(4)			
	哲 学 基 礎 概 説(4)	英 文 学 特 講 I(4)	英 文 学 特 講 II(4)			
	日 本 史 概 説(4)	英 文 学 特 講 III(4)				
	東 洋 史 概 説(4)	米 文 学 特 講 I(4)	米 文 学 特 講 II(4)			
	西 洋 史 概 説(4)	哲 学 と 科 学(4)	応 用 倫 理 学 特 論(4)	哲 学 と 宗 教 思 想(4)		
		イ ン ド の 芸 能(2)	イ ン ド 文 学(2)	古 代 イ ン ド の 社 会(2)		
		イ ン ド ・ 仏 教 の 美 術(2)	イ ン ド の 風 土 と 文 化(2)	天 台 の 思 想(2)		
		華 嚴 の 思 想(2)	禪 の 思 想(2)			
		密 教 の 思 想(2)	念 仏 の 思 想(2)			
		中 国 仏 教 の あ ゆ み A(2)	イ ン ド 仏 教 の あ ゆ み A(2)			
	中 国 仏 教 の あ ゆ み B(2)	イ ン ド 仏 教 の あ ゆ み B(2)				
	中 国 学 概 論(4)	中 国 文 献 学 概 論(4)	哲 学 特 殊 演 習 A(1)			
	中 国 文 化 史 概 説(4)		哲 学 特 殊 演 習 B(1)			
	生 涯 学 習 概 論 I(2)	特 別 支 援 教 育 概 論 I(2)	倫 理 学 概 論(4)			
	生 涯 学 習 概 論 II(2)	特 別 支 援 教 育 概 論 II(2)	中 国 哲 学 史 概 説(4)	中 国 文 学 史 概 説(4)		
			中 国 現 代 文 学 史 概 説(4)	日 本 漢 学(4)		
			イ ギ リ ス の 文 化 と 思 想(4)	ア メ リ カ の 文 化 と 思 想(4)		
	心 理 学 概 論 A(2)	家 族 心 理 学(2)	見 童 文 化 研 究(2)			
	心 理 学 概 論 B(2)	女 性 問 題 と 学 習(2)	家 庭 教 育 論(2)			
	Verbal/Nonverbal Communication A(2)	Philosophy of Language A(2)	Japanese and American Cultural Studies A(2)			
	(言語・非言語コミュニケーションA)	(言語論A)	(日米文化論A)			
	Verbal/Nonverbal Communication B(2)	Philosophy of Language B(2)	Japanese and American Cultural Studies B(2)			
	(言語・非言語コミュニケーションB)	(言語論B)	(日米文化論B)			
文学部 共 通 科 目	英語	検定英語(4)	Practical Writing (2)	Communicative English A(2)	Communicative English B(2)	
		英 語 I A(2)	英 語 II A(2)	英 語 III A(2)		
		英 語 I B(2)	英 語 II B(2)	英 語 III B(2)		
	ドイツ語	ド イ ツ 語 I A(2)	ド イ ツ 語 II A(2)	ド イ ツ 語 III A(2)		
		ド イ ツ 語 I B(2)	ド イ ツ 語 II B(2)	ド イ ツ 語 III B(2)		
	フランス語	フ ラ ン ス 語 I A(2)	フ ラ ン ス 語 II A(2)	フ ラ ン ス 語 III A(2)		
		フ ラ ン ス 語 I B(2)	フ ラ ン ス 語 II B(2)	フ ラ ン ス 語 III B(2)		
	中国語	中 国 語 I A(2)	中 国 語 II A(2)	中 国 語 III A(2)		
		中 国 語 I B(2)	中 国 語 II B(2)	中 国 語 III B(2)		
		1 年次 2 カ国語 8 単位 選択必修	1 年次に履修した外国語から 1 カ国語 4 単位選択必修			
日本語 (留学生用)	(留 学 生 用) 必 修 日 本 語 I A A(1)	(留 学 生 用) 選 択 必 修 日 本 語 と 日 本 社 会 A(2)	※留学生は12単位中、日本語 8 単位必修。 残り 4 単位を 1 年次の英語・ドイツ語・フランス語・中国語の 4 カ国語より母語以外の 1 カ国語選択必修。			
	日 本 語 I A B(1)	日 本 語 と 日 本 社 会 B(2)				
	日 本 語 I B A(1)	日 本 語 と 日 本 文 化 A(2)				
	日 本 語 I B B(1)	日 本 語 と 日 本 文 化 B(2)				
諸 資 格 関 連 科 目	教 育 基 礎 論 I(2)					
	教 育 基 礎 論 II(2)					
		社 会 教 育 計 画 論 I(2)	社 会 教 育 計 画 論 II(2)	視 聴 覚 教 育 (視 聴 覚 メ デ ィ ア 論 を 含 む)(2)		
	博 物 館 概 論(2)	博 物 館 学 各 論(4)	博 物 館 実 習 I(2)	博 物 館 実 習 II(1)		
	生 涯 学 習 概 論(2)	図 書 館 概 論(2)	情 報 サ ー ビ ス 概 説(2)			
	児 童 サ ー ビ ス 論(2)	図 書 及 び 図 書 館 史(2)				
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論(2)	図 書 館 特 論(2)				
		図 書 館 経 営 論(2)	図 書 館 サ ー ビ ス 論(2)	レ フ ェ レ ン ス サ ー ビ ス 演 習 ・ 情 報 検 索 演 習(2)		
		図 書 館 資 料 論(2)	専 門 資 料 論(2)	資 料 組 織 概 説(2)	資 料 組 織 演 習(2)	情 報 機 器 論(2)
	学 習 指 導 と 学 校 図 書 館(2)	学 校 経 営 と 学 校 図 書 館(2)	学 校 図 書 館 メ デ ィ ア の 構 成(2)			
読 書 と 豊 か な 人 間 性(2)	情 報 メ デ ィ ア の 活 用(2)					
インターンシップ・ボランティア活動	イ ン タ ー ン シ ッ プ(2)		ボ ラ ン テ ィ ア 活 動(2)			
学習支援特別講座	学 習 支 援 特 別 講 座 I A(2)		学 習 支 援 特 別 講 座 II A(2)			
	学 習 支 援 特 別 講 座 I B(2)		学 習 支 援 特 別 講 座 II B(2)			

2010年度以降入学生適用 文学部第1部日本文学文化学科 教育課程表(専門科目)

区 分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
専 門 科 目 70 単 位 以 上	14 単 位 必 修 科 目	日本文学文化概説A(2) 日本文学文化概説B(2) 基礎演習(2)	日本語概説A(2) 日本語概説B(2)	卒業論文(4)	
	選 択 必 修 科 目 I 36 単 位 以 上		日本語学演習I(2) 古典文学文化演習I(2) 近現代文学文化演習I(2) 比較文学文化演習I(2) 1科目2単位選択必修 日本語史(4)	日本語学演習II(2) 古典文学文化演習II(2) 近現代文学文化演習II(2) 比較文学文化演習II(2) 2科目4単位選択必修 古典文法(4)	日本語学演習III(2) 古典文学文化演習III(2) 近現代文学文化演習III(2) 比較文学文化演習III(2) 1科目2単位選択必修 現代語文法(4) 1科目4単位以上選択必修
			古代日本文学史A(2) 古代日本文学史B(2) 近世日本文学史A(2) 近世日本文学史B(2) 2科目4単位以上選択必修	日本語学特講A(2) 日本語学特講B(2) 日本文学文化特講(近現代)A(2) 日本文学文化特講(近現代)B(2)	日本文学文化特講(古典)A(2) 日本文学文化特講(古典)B(2) 比較文学文化特講A(2) 比較文学文化特講B(2) 4科目8単位以上選択必修
			作家作品研究(上代)(4) 作家作品研究(近世)(4)	作家作品研究(中古)(4) 作家作品研究(近現代)(4) 2科目8単位以上選択必修	
		英語圏文学文化と日本A(2) 英語圏文学文化と日本B(2) フランス語圏文学文化と日本A(2) フランス語圏文学文化と日本B(2) 2科目4単位以上選択必修	ドイツ語圏文学文化と日本A(2) ドイツ語圏文学文化と日本B(2) 中国文学文化と日本A(2) 中国文学文化と日本B(2)		
	選 択 必 修 科 目 II 20 単 位 以 上		日本の伝統行事A(2) 日本の伝統行事B(2) 日本美術文化史A(2) 日本美術文化史B(2) 万葉文化論A(2) 万葉文化論B(2) 近現代文化論A(2) 近現代文化論B(2) 児童文学(2) 文芸創作(2) 中国の古典(唐詩選・論語)(4)	日本の伝統芸能(歌舞伎)(2) 日本の伝統芸能(能・狂言)(2) 日本出版文化史A(2) 日本出版文化史B(2) 王朝文化論A(2) 王朝文化論B(2) 比較言語文化論A(2) 比較言語文化論B(2) 中国の古典(史記・孟子)(4)	日本文学文化実地研究(2) 韓国文化事情A(2) 韓国文化事情B(2) 室町文化論A(2) 室町文化論B(2) 江戸文化論A(2) 江戸文化論B(2) 日本の古典籍A(2) 日本の古典籍B(2) 日本民俗学A(2) 日本民俗学B(2) 日本の思想(2)
		選 択 科 目	中国文字学(4) 書道I(2)	古文書学I(4) 書道II(2) 書道史A(2) 書道史B(2)	日本哲学特講(4) 日本仏教のあゆみA(2) 日本仏教のあゆみB(2) 書道III(2) 書道IV(2) 書論A(2) 書論B(2) 創作書道(2)
教職科目		国語科教育論(2)	国語科指導法I(2) 国語科指導法II(2) 書道科指導法I(2) 書道科指導法II(2)	教職実践演習(中・高)(2)	
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載				

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
 2. () は該当科目の単位数。
 3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
 4. 「国語科教育論」「国語科指導法I」「国語科指導法II」「書道科指導法I」「書道科指導法II」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
 5. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。
 6. 「創作書道」の履修は「書道III」または「書道IV」の単位を修得した学生に限る。

外国人留学生の共通総合科目・国際コミュニケーション科目の履修について

外国人留学生に対しては、日本理解の助けとなる「日本事情」「日本語」の科目が共通総合科目と国際コミュニケーション科目にそれぞれ開設されている。

共通総合科目の「日本事情ⅠA」「日本事情ⅠB」「日本事情ⅡA」「日本事情ⅡB」「日本事情ⅢA」「日本事情ⅢB」、国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA」「日本語ⅠAB」「日本語ⅠBA」「日本語ⅠBB」は必修、「日本語と日本社会A」「日本語と日本社会B」「日本語と日本文化A」「日本語と日本文化B」は選択必修となっている。

原則として1・2年次で履修かつ修得すること。

教育課程表（共通総合科目・文学部共通科目）を参照して間違いのないように登録すること。

〈第1部外国人留学生用科目一覧〉

区分	科 目	単 位	履修年次	区 分
共通 総合 科目	日本事情ⅠA（自然）	2	1～4	必修
	日本事情ⅠB（自然）	2		
	日本事情ⅡA（人文）	2		
	日本事情ⅡB（人文）	2		
	日本事情ⅢA（社会）	2		
	日本事情ⅢB（社会）	2		
国際 コミュニ ケーシ ョン 科目	日 本 語 Ⅰ A A	1	1	必修
	日 本 語 Ⅰ A B	1		
	日 本 語 Ⅰ B A	1		
	日 本 語 Ⅰ B B	1		
	日本語と日本社会A	2	2	「日本語と日本社会A・B」、 「日本語と日本文化A・B」のうち どちらか一方の組合せ選択必修
	日本語と日本社会B	2		
	日本語と日本文化A	2		
	日本語と日本文化B	2		

※国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA・ⅠAB」「日本語ⅠBA・ⅠBB」「日本語と日本社会A・B」「日本語と日本文化A・B」は通年履修を原則とする。A・Bセットで履修すること。

第1部 英 米 文 学 科

英語を「通して」知る、学ぶ

英米文学科では英文学、米文学、英語学の三分野の専門科目を提供しています。この三つはそれぞれ専門的な学問分野ですが、本学科では学生の皆さんに対して、まず英語の基礎力をしっかりと身につけ、その英語力を「使って」、それを「通して」専門の課題にアプローチして欲しいと考え、そのためのカリキュラムを組んでいます。文学作品というものは日常生活のこまごました描写から人間性の極限といえるような激烈きわまる感情の表現にいたるまで、人間のすること、感じること、考えることのすべてを含むものです。また英語という言語の性質や特質を研究する英語学は、英語によって表現できることすべてを扱います。ですから英米文学にせよ英語学にせよ、本学科の専門科目は皆さんが身につけた英語を実際に「使い」、それを「通して」学んでいくのに本当に適した方法なのです。

このような目標のために、まず1・2年生の間はしっかりした英語力を身につけることが中心になります。小人数クラスの専門科目、また文学部共通科目の「英語I・II」により、「読む」「聞く」「話す」「書く」面での高度の英語力を身につけます。これと平行して必修の講義科目「英文法概説」があり、英語力の基礎である文法の知識を学びます。また「英米文学基礎演習」「英語学基礎演習」（選択科目）があり、意欲のある人はさらに自分の英語力を高めることができます。そのほか「英文学史」「米文学史」（ともに必修）、「放送英語」「時事英語」「英語史」（いずれも選択）などがあり、さらに3年次科目である「英文学特講」「米文学特講」「英語学特講」も必要に応じて2年次から受講できるので、皆さんは必修科目と選択科目、実際に自分で英語を使う演習科目と英語英米文化についての広い基礎知識を与える講義科目を組み合わせ、自由に自分の関心を追求することができるでしょう。

3・4年次はこれまでに学んだ英語の力をさらに高めつつ、同時にそれを実際に活用して文学作品の研究、また英語の分析に取り組み、最後に皆さんの大学生活の総決算である卒業論文の制作に結びつけていく時期です。必修講義科目「英語学概論」、「英米文学演習」および「英語学演習」という演習科目、また英米文学、英語学の問題について詳しく論じる「英文学特講」「米文学特講」「英語学特講」という講義科目があり、そのほかに自分の英語力をもっと磨きたい、英米文化の背景をもっと知りたいという人のためには、選択科目として「英会話Ⅲ」「英語講読演習」「イギリスの文化と思想」「アメリカの文化と思想」「イギリス古典文学」が用意されています。このような準備の上に立って、4年次になると自分の選んだ研究題目（文学、語学）によって専任の先生が開設する「卒論セミナー」のどれか一つに所属し、その先生の指導を受けて卒業論文を書き上げることになります。

以上が英米文学科のカリキュラムです。このカリキュラムを十分に活用すれば、4年次が終わるまでには、TOEICなら700点、英検ならば準一級程度の英語力が身につくはずだと、私たちは確信しています。ただしカリキュラムというものはあくまで勉強の機会を提供するだけのものであり、ただ受動的に出席しているだけでは、英語が身につくことも、英語を活用して研究することも社会に出ていくこともできません。私たちは英米文学科の学生の皆さんに、徹底的に英語の勉強をして欲しいと望んでいますし、そのための助力を惜しみません。しかし最後には、皆さんがカリキュラムや教員の助けを自分から積極的に利用して、自分の努力によって英語を身につけていく以外にないのです。外国語の学習は集中力と持続の勝負です。どうか一杯学習に取り組んでください。英語を「通して」学ぶことで、皆さんの学習に目的と方向ができ、学習を助けてくれるはずですよ。

区 分		文学部 第1部 英米文学科 卒業要件
共通総合科目 14単位以上	自然科学系科目	14単位以上
	人文科学系科目	
	社会科学系科目	
	スポーツ健康科学系科目	
	情報系科目	
	総合科目	
	留学支援科目	
文学部共通科目 20単位以上	文学部演習科目	14単位以上 ※国際コミュニケーション科目14単位を含む、 合計20単位以上
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	
	諸資格関連科目	
	インターンシップ・ボランティア活動	
	学習支援特別講座	
専門科目 64単位以上	必修科目	30単位
	選択必修科目	18単位以上
	選択科目	16単位以上
教 職 科 目		
他学部他学科開放科目(専門開放科目)		
卒業必要単位数合計		124単位

第1部英米文学科

共通総合科目

自然科学系科目
 人文科学系科目
 社会科学系科目
 スポーツ健康科学系科目
 情報系科目
 総合科目
 留学支援科目

共通総合科目は、卒業までに14単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、14単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ① スポーツ健康科学系科目の授業は、白山キャンパスと東洋大学総合スポーツセンター（板橋区清水町）の2か所で開講されます。
 - ・ 1限目（白山キャンパス）の実技は、教職課程履修者のみ履修可能であり、受講者多数で抽選になった場合、1年生が優先されます [1時限目のスポーツ健康科学実技の履修方法については、『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください]。
 - ・ 2～4限目（総合スポーツセンター）の授業は、白山6学部すべての1～4年生（教職課程履修者含む）が履修できます。
- ② 「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、14単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

※ 「自然科学演習A・B」は、2年次以上でかつ講義科目または実験講義科目を合計8単位以上修得していなければ、履修することができない。

文学部共通科目

文学部演習科目
 文学部基礎専門科目
 国際コミュニケーション科目
 諸資格関連科目
 インターンシップ・
 ボランティア活動
 学習支援特別講座

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目14単位の卒業要件を充たし、合計20単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、20単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

文学部基礎専門科目

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インド仏教のあゆみ A(2)	中国仏教のあゆみ A(2)
インド仏教のあゆみ B(2)	中国仏教のあゆみ B(2)
日本仏教のあゆみ A(2)	哲学特殊演習 A(1)
日本仏教のあゆみ B(2)	哲学特殊演習 B(1)
Verbal/Nonverbal Communication A(2) (言語・非言語コミュニケーションA)	Philosophy of Language A(2) (言語論A)
Verbal/Nonverbal Communication B(2) (言語・非言語コミュニケーションB)	Philosophy of Language B(2) (言語論B)
Japanese and American Cultural Studies A(2) (日米文化論A)	
Japanese and American Cultural Studies B(2) (日米文化論B)	

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。
履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

古代インドの社会(2)	インドの風土と文化(2)
インドの芸能(2)	密教の思想(2)
インド・仏教の美術(2)	天台の思想(2)
華嚴の思想(2)	禪の思想(2)
念仏の思想(2)	

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。
履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能(歌舞伎)(2)	日本出版文化史 A(2)
日本の伝統芸能(能・狂言)(2)	日本出版文化史 B(2)
比較文学文化史 A(2)	韓国文化事情 A(2)
比較文学文化史 B(2)	韓国文化事情 B(2)

国際コミュニケーション科目

1年次に英語を4単位、ドイツ語、フランス語の2カ国語から1カ国語を選択し4単位、2年次には英語を4単位、1年次に履修したドイツ語、フランス語の2カ国語から1カ国語を選択し2単位、合計14単位以上を履修かつ修得しなければならない。

2年次の語学選択は、1年次7月頃に希望調査を行う。

◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」
「中国語ⅠA」「中国語ⅠB」「中国語ⅡA」「中国語ⅡB」

※英米文学科の学生が中国語の語学セミナーに参加し、単位認定を受ける場合は、その単位は卒業単位にならない自由科目（P.78）として認定される。

※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」（P.228）を参照すること。

インターンシップ・
ボランティア活動

文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、講義要項を参照すること。

専 門 科 目

英米文学科専門科目は、卒業までに**64単位以上を履修かつ修得しなければならない**。この64単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、**64単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する**。

必修科目

必修科目に設置されている**全ての科目の単位を履修かつ修得しなければならない**。

なお、卒業論文は必修であるため、1年次から計画を立て研究室等の指示に注意すること。ただし、4年次の卒業論文の履修登録は、**3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る**。

「フレッシュマン講読セミナー」、「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」、「英語音声学演習」は、コース指定をする。指定されたコースに従って履修すること。

選択必修科目

選択必修科目は、各科目群からそれぞれ定められた科目数以上を選択し、**合計18単位以上を履修かつ修得しなければならない**。

選択科目

選択科目は、**16単位以上を履修かつ修得しなければならない**。

教 職 科 目

英米文学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

他学部他学科開放科目(専門開放科目)

別(P.128)に定める他学部他学科開放科目(専門開放科目)を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

自 由 科 目

英米文学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目(専門開放科目)として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、**卒業単位にならない自由科目として履修することができる**。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第2部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

2008 年度以降入学生適用 文学部第 1 部英米文学科 教育課程表(共通総合科目)

区 分		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
14 単 位 以 上 共 通 総 合 科 目	自然科学系科目	自然の数理 A(2) 生活の科学 A(2) エネルギーの科学 A(2) 物質の科学 A(2) 自然の数理 B(2) 生活の科学 B(2) エネルギーの科学 B(2) 物質の科学 B(2) 環境の科学 A(2) 地球の科学 A(2) 生物学 A(2) 天文学 A(2) 環境の科学 B(2) 地球の科学 B(2) 生物学 B(2) 天文学 B(2) 自然科学概論 A(2) 自然誌 A(2) 物理学実験講義 A(2) 生物学実験講義 A(2) 自然科学概論 B(2) 自然誌 B(2) 物理学実験講義 B(2) 生物学実験講義 B(2) 化学実験講義 A(2) 地球科学実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 A(2) 天文学実習講義 A(2) 化学実験講義 B(2) 地球科学実習講義 B(2) 数理・情報実習講義 B(2) 天文学実習講義 B(2) 日本事情 I A(2)(留学生用) 日本事情 I B(2)(留学生用) 自然科学演習 A(2) 自然科学演習 B(2)			
	人文科学系科目	哲学 A(2) 哲学史 A(2) 倫理学基礎論 A(2) 応用倫理学 A(2) 哲学 B(2) 哲学史 B(2) 倫理学基礎論 B(2) 応用倫理学 B(2) 科学思想史 A(2) 美術史 A(2) 音楽学 A(2) 宗教学 I A(2) 科学思想史 B(2) 美術史 B(2) 音楽学 B(2) 宗教学 I B(2) 宗教学 II A(2) 国際教育論 A(2) 多文化共生論 A(2) 地球倫理 A(2) 宗教学 II B(2) 国際教育論 B(2) 多文化共生論 B(2) 地球倫理 B(2) 百人一首の文化史 A(2) 日本の昔話 A(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本の詩歌 A(2) 百人一首の文化史 B(2) 日本の昔話 B(2) 日本文学文化と風土 B(2) 日本の詩歌 B(2) 西欧文学 A(2) 現代日本文学 A(2) 地域文化研究 I A(2) 地域文化研究 II A(2) 西欧文学 B(2) 現代日本文学 B(2) 地域文化研究 I B(2) 地域文化研究 II B(2) 地域文化研究 III A(2) 地域史(日本) A(2) 地域史(東洋) A(2) 地域史(西洋) A(2) 地域文化研究 III B(2) 地域史(日本) B(2) 地域史(東洋) B(2) 地域史(西洋) B(2) 歴史の諸問題 A(2) 論理学 A(2) 歴史の諸問題 B(2) 論理学 B(2) 日本事情 II A(2)(留学生用) 日本事情 II B(2)(留学生用)			
	社会科学系科目	経済学 A(2) 統計学 A(2) 経営学入門(2) ベーシック・マーケティング(2) 経済学 B(2) 統計学 B(2) 基礎経営学(2) 流通入門(2) 基礎会計学(2) 法学 A(2) 日本国憲法(2) 政治学 A(2) ビジネス社会と会計(2) 法学 B(2) 政治学 B(2) 社会学 A(2) 人類学 A(2) 地理学 A(2) 国際比較論 A(2) 社会学 B(2) 人類学 B(2) 地理学 B(2) 国際比較論 B(2) 心理学の基礎(2) 社会適応の心理学(2) 日本事情 III A(2)(留学生用) 日本事情 III B(2)(留学生用)			
	スポーツ健康科学系科目	スポーツ健康科学実技 I A(1) スポーツ健康科学実技 II A(1) スポーツ健康科学実技 III A(1) スポーツ健康科学実技 I B(1) スポーツ健康科学実技 II B(1) スポーツ健康科学実技 III B(1) スポーツ健康科学講義 I(2) スポーツ健康科学講義 II A(2) スポーツ健康科学演習 I(2) スポーツ健康科学講義 II B(2)			
	情報系科目	情報化社会と人間(2) 情報倫理(2) コンピュータ・リテラシー(2)			
	総合科目	総合 I A(2) 総合 II A(2) 総合 III A(2) 総合 IV A(2) 総合 V A(2) 総合 VI A(2) 総合 I B(2) 総合 II B(2) 総合 III B(2) 総合 IV B(2) 総合 V B(2) 総合 VI B(2) 総合 VII A(2) 総合 VIII A(2) 総合 IX A(2) 全学総合 I A(2) 全学総合 II A(2) 総合 VII B(2) 総合 VIII B(2) 総合 IX B(2) 全学総合 I B(2) 全学総合 II B(2)			
	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I(4) Special Course in Advanced TOEFL II(4)			
	日本語科目	(協定校並びにISEP加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目) Integrated Japanese I(5) Japanese Reading and Composition I(2) Kanji Literacy I(1) Integrated Japanese II(5) Japanese Reading and Composition II(2) Kanji Literacy II(1) Project Work I(1) Japanese Listening Comprehension I(1) Japanese Culture I(1) Project Work II(1) Japanese Listening Comprehension II(1) Japanese Culture II(1)			

2008 年度以降入学生適用 文学部第 1 部英米文学科 教育課程表(文学部共通科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
文学部演習科目	文学部教養演習(2)		情報処理演習 A(1)	情報処理演習 B(1)
文学部基礎専門科目	論理学概論(4)	比較思想(4)	哲学概論(4)	
	哲学基礎概説(4)	哲学と科学(4)	応用倫理学特論(4)	哲学と宗教思想(4)
	日本史概説(4)	インドの芸能(2)	インド文学(2)	古代インドの社会(2)
	東洋史概説(4)	インド・仏教の美術(2)	インドの風土と文化(2)	天台の思想(2)
	西洋史概説(4)	華嚴の思想(2)	禅の思想(2)	
		密教の思想(2)	念仏の思想(2)	
		中国仏教のあゆみ A(2)	日本仏教のあゆみ A(2)	インド仏教のあゆみ A(2)
		中国仏教のあゆみ B(2)	日本仏教のあゆみ B(2)	インド仏教のあゆみ B(2)
		文芸創作(2)	児童文学(2)	
		中国学概論(4)	中国文献学概論(4)	哲学特殊演習 A(1)
	中国文化史概説(4)		哲学特殊演習 B(1)	
	生涯学習概論 I(2)	特別支援教育概論 I(2)	倫理学概論(4)	
	生涯学習概論 II(2)	特別支援教育概論 II(2)	中国哲学史概説(4)	中国文学史概説(4)
			中国現代文学史概説(4)	日本漢学(4)
	英語圏文学文化と日本 A(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 A(2)		
	英語圏文学文化と日本 B(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 B(2)		
	フランス語圏文学文化と日本 A(2)	中国文学文化と日本 A(2)		
	フランス語圏文学文化と日本 B(2)	中国文学文化と日本 B(2)		
	日本の伝統行事 A(2)	日本の伝統芸能(歌舞伎)(2)		日本美術文化史 A(2)
	日本の伝統行事 B(2)	日本の伝統芸能(能・狂言)(2)		日本美術文化史 B(2)
	日本出版文化史 A(2)	比較文学文化史 A(2)		韓国文化事情 A(2)
	日本出版文化史 B(2)	比較文学文化史 B(2)		韓国文化事情 B(2)
	心理学概論 A(2)	家族心理学(2)		児童文化研究(2)
	心理学概論 B(2)	女性問題と学習(2)		家庭教育論(2)
	Verbal/Nonverbal Communication A(2)	Philosophy of Language A(2)	Japanese and American Cultural Studies A(2)	
	(言語・非言語コミュニケーション A)	(言語論 A)	(日米文化論 A)	
	Verbal/Nonverbal Communication B(2)	Philosophy of Language B(2)	Japanese and American Cultural Studies B(2)	
	(言語・非言語コミュニケーション B)	(言語論 B)	(日米文化論 B)	
国際コミュニケーション科目 20 単位以上	英語 8 単位	英語 I A(2) 英語 I B(2) 4 単位必修	英語 II A(2) 英語 II B(2) 4 単位必修	英語 III A(2) 英語 III B(2)
		検定英語(4)		Practical Writing(2)
	ドイツ語	ドイツ語 I A(2) ドイツ語 I B(2)	ドイツ語 II A(2) ドイツ語 II B(2)	ドイツ語 III A(2) ドイツ語 III B(2)
	フランス語	フランス語 I A(2) フランス語 I B(2)	フランス語 II A(2) フランス語 II B(2)	フランス語 III A(2) フランス語 III B(2)
		ドイツ語・フランス語のうち 1 カ国語 4 単位選択必修		1 年次履修した外国語から 1 科目 2 単位選択必修
	日本語 (留学生用)	(留学生用) 必修 日本語 I A A(1) 日本語 I A B(1) 日本語 I B A(1) 日本語 I B B(1)	(留学生用) 選択必修 日本語と日本社会 A(2) 日本語と日本社会 B(2) 日本語と日本文化 A(2) 日本語と日本文化 B(2)	※留学生は日本語 8 単位、英語 1 年次 4 単位、2 年次 2 単位必修。 (英語が母語の場合はドイツ語・フランス語から 1 カ国語 1 年次 4 単位、2 年次 2 単位選択必修)
		教育基礎論 I(2) 教育基礎論 II(2)		
		社会教育計画論 I(2)	社会教育計画論 II(2)	視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)
		博物館概論(2)	博物館学各論(4)	博物館実習 I(2) 博物館実習 II(1)
		生涯学習概論(2) 図書館概論(2)	情報サービス概説(2)	
	児童サービス論(2)	図書及び図書館史(2)		
	コミュニケーション論(2)	図書館特論(2)		
		図書館経営論(2) 図書館サービス論(2)	レファレンスサービス演習・情報検索演習(2)	
		図書館資料論(2) 専門資料論(2)	資料組織概説(2) 資料組織演習(2) 情報機器論(2)	
	学習指導と学校図書館(2)	学校経営と学校図書館(2)	学校図書館メディアの構成(2)	
	読書と豊かな人間性(2)	情報メディアの活用(2)		
インターンシップ・ボランティア活動	インターンシップ(2)		ボランティア活動(2)	
学習支援特別講座	学習支援特別講座 I A(2) 学習支援特別講座 I B(2)		学習支援特別講座 II A(2) 学習支援特別講座 II B(2)	

2010年度以降入学生適用 文学部第1部英米文学科 教育課程表(専門科目)

区 分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専 門 科 目 64 単 位 以 上	必修科目 30単位	フレッシュマン講読セミナー(2) 英 文 学 史(4) 英 文 学 史(4) 英 文 学 史(4) 英 文 学 史(4)	英 語 学 概 論(4)	卒 業 論 文(6)
	選 択 必 修 科 目 18 単 位 以 上		英米文学演習Ⅰ(2) 英米文学演習Ⅱ(2) 英米文学演習Ⅲ(2) 英米文学演習Ⅳ(2) 英米文学演習Ⅴ(2) 1科目以上選択必修	卒論セミナーⅠ(2) 卒論セミナーⅡ(2) 卒論セミナーⅢ(2) 卒論セミナーⅣ(2) 卒論セミナーⅤ(2) 卒論セミナーⅥ(2) 卒論セミナーⅦ(2) 卒論セミナーⅧ(2) 卒論セミナーⅨ(2) 卒論セミナーⅩ(2) 卒論セミナーⅪ(2)
			英語学演習Ⅰ(2) 英語学演習Ⅱ(2) 英語学演習Ⅲ(2) 英語学演習Ⅳ(2) 英語学演習Ⅴ(2) 1科目以上選択必修	1科目選択必修
			英 文 学 特 講 Ⅰ(4) 英 文 学 特 講 Ⅱ(4) 英 文 学 特 講 Ⅲ(4) 米 文 学 特 講 Ⅰ(4) 米 文 学 特 講 Ⅱ(4) 英 語 学 特 講 Ⅰ(4) 英 語 学 特 講 Ⅱ(4) 3科目以上選択必修	
選 択 科 目 16 単 位 以 上	英米文学基礎演習Ⅰ(4) 英米文学基礎演習Ⅱ(4) 英語学基礎演習Ⅰ(4) 英語学基礎演習Ⅱ(4) 時 事 英 語(4) 放 送 英 語(4) 英 語 史(4)	英 会 話 Ⅲ(2) 英 語 講 読 演 習(4) イギリスの文化と思想(4) アメリカの文化と思想(4) イギリス古典文学(4)		
教職科目		英語科教育論Ⅰ(2) 英語科教育論Ⅱ(2)	英語科指導法Ⅰ(2) 英語科指導法Ⅱ(2)	教職実践演習(中・高)(2)
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載			

- 備考 1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
 2. () は該当科目の単位数。
 3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
 4. 「英語科教育論Ⅰ」「英語科教育論Ⅱ」「英語科指導法Ⅰ」「英語科指導法Ⅱ」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
 5. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。

外国人留学生の共通総合科目・国際コミュニケーション科目の履修について

外国人留学生に対しては、日本理解の助けとなる「日本事情」「日本語」の科目が共通総合科目と国際コミュニケーション科目にそれぞれ開設されている。

共通総合科目の「日本事情ⅠA」「日本事情ⅠB」「日本事情ⅡA」「日本事情ⅡB」「日本事情ⅢA」「日本事情ⅢB」、国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA」「日本語ⅠAB」「日本語ⅠBA」「日本語ⅠBB」は必修、「日本語と日本社会A」「日本語と日本社会B」「日本語と日本文化A」「日本語と日本文化B」は選択必修となっている。

原則として1・2年次で履修かつ修得すること。

教育課程表（共通総合科目・文学部共通科目）を参照して間違いのないように登録すること。

〈第1部外国人留学生用科目一覧〉

区分	科 目	単 位	履修年次	区 分
共通 総合 科目	日本事情ⅠA（自然）	2	1～4	必修
	日本事情ⅠB（自然）	2		
	日本事情ⅡA（人文）	2		
	日本事情ⅡB（人文）	2		
	日本事情ⅢA（社会）	2		
	日本事情ⅢB（社会）	2		
国際 コミュニ ケーシ ョン 科目	日 本 語 Ⅰ A A	1	1	必修
	日 本 語 Ⅰ A B	1		
	日 本 語 Ⅰ B A	1		
	日 本 語 Ⅰ B B	1		
	日本語と日本社会A	2	2	「日本語と日本社会A・B」、 「日本語と日本文化A・B」のうち どちらか一方の組合せ選択必修
	日本語と日本社会B	2		
	日本語と日本文化A	2		
	日本語と日本文化B	2		

※国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA・ⅠAB」「日本語ⅠBA・ⅠBB」「日本語と日本社会A・B」「日本語と日本文化A・B」は通年履修を原則とする。A・Bセットで履修すること。

第 1 部 史 学 科

史料・原典から事実を証明する

激動する国際情勢や日本の現状を理解するためには、過去に遡ってその歴史を学ぶことが、今やより一層要請されているといえよう。史学科は1938（昭和13）年に創設された歴史と伝統を有する学科である。常に新しい歴史学の研究と教育に努力しており、勉学の意欲に燃える学生諸君を歓迎する。

本学科は各種の史料や原典をもとに歴史を科学的に実証・研究していくことを目的としている。入学後は日本史学・東洋史学・西洋史学の3専攻に分かれる（※1・2）。それぞれの専攻では、原始・古代から現代に至る政治史・法制史・対外関係史・社会史・経済史、あるいは文化史・思想史など多方面にわたって講義・演習が行われる。しかし歴史を実証するだけでなく、その歴史的事実の中から人類の知恵を汲み取り、現代および未来に役立てることも学問的使命と考えている。

2004（平成16）年度から施行されているカリキュラムは、従来の朝霞・白山の2キャンパスを前提としたものを改め、2005（平成17）年度からの白山校舎一貫教育に対応したものである。史学科の学生は、共通総合科目、文学部共通科目とともに専門科目を履修していく。専門科目のうち、必修科目として、まず1年次に日本史・東洋史・西洋史3専攻に分かれた基礎演習、2年次に3専攻それぞれの地域や時代に応じた日本史史料研究・東洋史史料研究・西洋史史料研究を履修し、歴史研究の方法や史料読解の技法の基礎を学ぶ。また従来3・4年に配当されていた日本史学特講・東洋史学特講・西洋史学特講、および日本史学演習・東洋史学演習・西洋史学演習は2～4年次に配置されて、2年次から専門的な授業を履修できるようになった。3年次には史学概論が開講され歴史学の課題や方法について学ぶ。3・4年次には卒論演習が開かれ、各専攻それぞれに時代や地域、テーマに応じた論文作成のための指導がはじまり、4年次には卒業論文の作成に取りかかる。以上の必修科目のほか、1年次には、選択必修科目として各専攻の概説（日本史概説・東洋史概説・西洋史概説）が開講され、うち2科目以上の履修が義務づけられる。そのほか、古文書学I・II、考古学研究などの選択科目も設けられている。

中学校社会、および高等学校地理歴史、公民の教員免許が得られるが、さらに博物館概論・博物館学各論・博物館実習I・IIなどの履修によって、学芸員の資格を取得することができる。学生は地域・時代によって、考古学・古代・中世・近世・近現代・東洋史・西洋史などいくつかの研究グループを組織し、教員の指導のもとに研究会・史跡見学・史料調査や、そのための合宿などを行っている。

本学科では各分野の権威と新進気鋭の少壮の学者を揃え、研究・教育を行っている。その研究成果は『東洋大学文学部紀要・史学科篇』として毎年公刊されている。また、学生および教員・卒業生などによって「白山史学会」が組織され、総会・大会・研究会・卒業論文発表会などが開催され、会誌『白山史学』が毎年定期発行されている。会員の投稿により掲載される論文は、学界でも高く評価され、1996年度からは日本学術会議の登録団体として認められ、学界に貢献するところも少なくない。

卒業生は、教員をはじめ博物館学芸員・文化財行政担当者など、歴史に関わる分野で活躍するほか、最近では公務員や民間企業などへも進出している。

- ※1. 史学科に入学した学生諸君は、1年次の開始時に日本史学専攻・東洋史学専攻・西洋史学専攻から一つの専攻を選択する。
- 2. やむをえず、専攻を変更する場合は、1年次の終了時までには史学科の専任教員に申し出て、所定の手続きをとらなければならない。

区 分		文学部 第1部 史学科 卒業要件
共通総合科目 16単位以上	自然科学系科目	16単位以上
	人文科学系科目	
	社会科学系科目	
	スポーツ健康科学系科目	
	情報系科目	
	総合科目	
	留学支援科目	
文学部共通科目 18単位以上	文学部演習科目	12単位以上 ※国際コミュニケーション科目12単位を含む、 合計18単位以上
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	
	諸資格関連科目	
	インターンシップ・ボランティア活動	
	学習支援特別講座	
専門科目 70単位以上	必修科目	38単位以上
	選択必修科目	8単位以上
	選択科目	24単位以上
教 職 科 目		
他学部他学科開放科目(専門開放科目)		
卒業必要単位数合計		124単位

第1部史学科

共通総合科目

自然科学系科目
人文科学系科目
社会科学系科目
スポーツ健康科学系科目
情報系科目
総合科目
留学支援科目

共通総合科目は、卒業までに16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ①スポーツ健康科学系科目の授業は、白山キャンパスと東洋大学総合スポーツセンター（板橋区清水町）の2か所で開講されます。
 - ・1限目（白山キャンパス）の実技は、教職課程履修者のみ履修可能であり、受講者多数で抽選になった場合、1年生が優先されます [1時限目のスポーツ健康科学実技の履修方法については、『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください]。
 - ・2～4限目（総合スポーツセンター）の授業は、白山6学部すべての1～4年生（教職課程履修者含む）が履修できます。
- ②「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、16単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

※「自然科学演習A・B」は、2年次以上でかつ講義科目または実験講義科目を合計8単位以上修得していなければ、履修することができない。

文学部共通科目

文学部演習科目
文学部基礎専門科目
国際コミュニケーション科目
諸資格関連科目
インターンシップ・
ボランティア活動
学習支援特別講座

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目12単位の卒業要件を充たし、合計18単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、18単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

文学部基礎専門科目

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インド仏教のあゆみ A(2) インド仏教のあゆみ B(2)	哲学特殊演習 A(1) 哲学特殊演習 B(1)
Verbal/Nonverbal Communication A(2) (言語・非言語コミュニケーションA) Verbal/Nonverbal Communication B(2) (言語・非言語コミュニケーションB)	Philosophy of Language A(2) (言語論A) Philosophy of Language B(2) (言語論B)
Japanese and American Cultural Studies A(2) (日米文化論A) Japanese and American Cultural Studies B(2) (日米文化論B)	

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。
履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

古代インドの社会(2)	インドの風土と文化(2)
インドの芸能(2)	密教の思想(2)
インド・仏教の美術(2)	天台の思想(2)
華嚴の思想(2)	禪の思想(2)
念仏の思想(2)	

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。
履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能(歌舞伎)(2)	日本出版文化史 A(2)
日本の伝統芸能(能・狂言)(2)	日本出版文化史 B(2)
比較文学文化史 A(2)	韓国文化事情 A(2)
比較文学文化史 B(2)	韓国文化事情 B(2)

国際コミュニケーション科目

1年次に英語4単位、ドイツ語、フランス語、中国語の3カ国語から1カ国語を選択し4単位、2年次には1年次に履修した2カ国語から1カ国語を選択し4単位、合計12単位以上を履修かつ修得しなければならない。

西洋史学を専攻する場合は、ドイツ語、フランス語を選択することが望ましい。

2年次の語学選択は、1年次7月頃に希望調査を行う。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。
履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

Communicative English A(2)
Communicative English B(2)

◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

- 「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」
- 「中国語ⅠA」「中国語ⅠB」「中国語ⅡA」「中国語ⅡB」

※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」(P.228)を参照すること。

インターンシップ・
ボランティア活動

文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、講義要項を参照すること。

専 門 科 目

史学科各専攻コース専門科目は、卒業までに**70単位以上を履修かつ修得しなければならない**。この70単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、**70単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する**。

必修科目

各専攻コースの必修科目に設置されている**全ての科目の単位を履修かつ修得しなければならない**。

2年次から4年次までに特講は3科目12単位、演習は3科目6単位を履修かつ修得しなければならない。特講、演習は、異なる年次において同じコースを重複履修し、単位を修得することができる。

なお、卒業論文は必修であるため、1年次から計画を立て研究室等の指示に注意すること。ただし、4年次の卒業論文の履修登録は、**3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る**。

選択必修科目

各専攻コースの選択必修科目は、3科目から2科目以上を選択し、**合計8単位以上を履修かつ修得しなければならない**。

選択科目

各専攻コースの選択科目は、**24単位以上を履修かつ修得しなければならない**。

他専攻コースの特講、演習は、異なる年次において同じコースを重複履修し、単位を修得することができる。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インドの宗教 A(2)	中国仏教のあゆみ A(2)
インドの宗教 B(2)	中国仏教のあゆみ B(2)
日本仏教のあゆみ A(2)	
日本仏教のあゆみ B(2)	

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

王朝文化論 A(2)	室町文化論 A(2)
王朝文化論 B(2)	室町文化論 B(2)
日本民俗学 A(2)	
日本民俗学 B(2)	

教 職 科 目

史学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位**として算入する。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

他学部他学科開放科目(専門開放科目)

別（P. 128）に定める他学部他学科開放科目（専門開放科目）を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位**として算入する。

自 由 科 目

史学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目（専門開放科目）として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、**卒業単位にならない自由科目**として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第2部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

2008年度以降入学生適用 文学部第1部史学科 教育課程表(共通総合科目)

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
16 単 位 以 上 共 通 総 合 科 目	自然科学系科目	自然の数理 A(2) 生活の科学 A(2) エネルギーの科学 A(2) 物質の科学 A(2) 自然の数理 B(2) 生活の科学 B(2) エネルギーの科学 B(2) 物質の科学 B(2) 環境の科学 A(2) 地球の科学 A(2) 生物学 A(2) 天文学 A(2) 環境の科学 B(2) 地球の科学 B(2) 生物学 B(2) 天文学 B(2) 自然科学概論 A(2) 自然誌 A(2) 物理学実験講義 A(2) 生物学実験講義 A(2) 自然科学概論 B(2) 自然誌 B(2) 物理学実験講義 B(2) 生物学実験講義 B(2) 化学実験講義 A(2) 地球科学実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 A(2) 天文学実習講義 A(2) 化学実験講義 B(2) 地球科学実習講義 B(2) 数理・情報実習講義 B(2) 天文学実習講義 B(2) 日本事情 I A(2)(留学生用) 日本事情 I B(2)(留学生用) 自然科学演習 A(2) 自然科学演習 B(2)			
	人文科学系科目	哲学 A(2) 哲学史 A(2) 倫理学基礎論 A(2) 応用倫理学 A(2) 哲学 B(2) 哲学史 B(2) 倫理学基礎論 B(2) 応用倫理学 B(2) 科学思想史 A(2) 美術史 A(2) 音楽学 A(2) 宗教学 I A(2) 科学思想史 B(2) 美術史 B(2) 音楽学 B(2) 宗教学 I B(2) 宗教学 II A(2) 国際教育論 A(2) 多文化共生論 A(2) 地球倫理 A(2) 宗教学 II B(2) 国際教育論 B(2) 多文化共生論 B(2) 地球倫理 B(2) 百人一首の文化史 A(2) 日本の昔話 A(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本の詩歌 A(2) 百人一首の文化史 B(2) 日本の昔話 B(2) 日本文学文化と風土 B(2) 日本の詩歌 B(2) 西欧文学 A(2) 現代日本文学 A(2) 地域文化研究 I A(2) 地域文化研究 II A(2) 西欧文学 B(2) 現代日本文学 B(2) 地域文化研究 I B(2) 地域文化研究 II B(2) 地域文化研究 III A(2) 地域史(日本) A(2) 地域史(東洋) A(2) 地域史(西洋) A(2) 地域文化研究 III B(2) 地域史(日本) B(2) 地域史(東洋) B(2) 地域史(西洋) B(2) 歴史の諸問題 A(2) 論理学 A(2) 歴史の諸問題 B(2) 論理学 B(2) 日本事情 II A(2)(留学生用) 日本事情 II B(2)(留学生用)			
	社会科学系科目	経済学 A(2) 統計学 A(2) 経営学入門(2) ベーシック・マーケティング(2) 経済学 B(2) 統計学 B(2) 基礎経営学(2) 流通入門(2) 基礎会計学(2) 法学 A(2) 日本国憲法(2) 政治学 A(2) ビジネス社会と会計(2) 法学 B(2) 政治学 B(2) 社会学 A(2) 人類学 A(2) 地理学 A(2) 国際比較論 A(2) 社会学 B(2) 人類学 B(2) 地理学 B(2) 国際比較論 B(2) 心理学の基礎(2) 社会適応の心理学(2) 日本事情 III A(2)(留学生用) 日本事情 III B(2)(留学生用)			
	スポーツ健康科学系科目	スポーツ健康科学実技 I A(1) スポーツ健康科学実技 II A(1) スポーツ健康科学実技 III A(1) スポーツ健康科学実技 I B(1) スポーツ健康科学実技 II B(1) スポーツ健康科学実技 III B(1) スポーツ健康科学講義 I(2) スポーツ健康科学講義 II A(2) スポーツ健康科学演習 I(2) スポーツ健康科学講義 II B(2)			
	情報系科目	情報化社会と人間(2) 情報倫理(2) コンピュータ・リテラシー(2)			
	総合科目	総合 I A(2) 総合 II A(2) 総合 III A(2) 総合 IV A(2) 総合 V A(2) 総合 VI A(2) 総合 I B(2) 総合 II B(2) 総合 III B(2) 総合 IV B(2) 総合 V B(2) 総合 VI B(2) 総合 VII A(2) 総合 VIII A(2) 総合 IX A(2) 全学総合 I A(2) 全学総合 II A(2) 総合 VII B(2) 総合 VIII B(2) 総合 IX B(2) 全学総合 I B(2) 全学総合 II B(2)			
	留学支援科目	英語特別教育科目 Special Course in Advanced TOEFL I (4) Special Course in Advanced TOEFL II (4) 日本語科目 (協定校並びに ISEP 加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目) Integrated Japanese I (5) Japanese Reading and Composition I (2) Kanji Literacy I (1) Integrated Japanese II (5) Japanese Reading and Composition II (2) Kanji Literacy II (1) Project Work I (1) Japanese Listening Comprehension I (1) Japanese Culture I (1) Project Work II (1) Japanese Listening Comprehension II (1) Japanese Culture II (1)			

2008 年度以降入学生適用 文学部第 1 部史学科 教育課程表(文学部共通科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
文学部演習科目	文学部教養演習(2)		情報処理演習 A(1)	情報処理演習 B(1)	
文学部 基礎 専門 科目	論 理 学 概 論(4) 哲 学 基 礎 概 説(4)	比 較 思 想(4) 英 文 学 特 講 I(4) 英 文 学 特 講 II(4) 英 文 学 特 講 III(4) 米 文 学 特 講 I(4) 米 文 学 特 講 II(4)	英 文 学 特 講 I(4) 英 文 学 特 講 II(4) 英 文 学 特 講 III(4) 米 文 学 特 講 I(4) 米 文 学 特 講 II(4)	哲 学 と 宗 教 思 想(4) イ ン ド の 芸 能(2) イ ン ド の 風 土 と 文 化(2) 天 台 の 思 想(2) 華 嚴 の 思 想(2) 密 教 の 思 想(2) 念 仏 の 思 想(2) イ ン ド 仏 教 の あ ゆ み A(2) イ ン ド 仏 教 の あ ゆ み B(2)	
	中 国 学 概 論(4) 中 国 文 化 史 概 説(4) 生 涯 学 習 概 論 I(2) 生 涯 学 習 概 論 II(2)	中 国 文 献 学 概 論(4) 特 別 支 援 教 育 概 論 I(2) 特 別 支 援 教 育 概 論 II(2)	哲 学 特 殊 演 習 A(1) 哲 学 特 殊 演 習 B(1) 中 国 哲 学 史 概 説(4) 中 国 現 代 文 学 史 概 説(4) イ ギ リ ス の 文 化 と 思 想(4)	中 国 文 学 史 概 説(4) 日 本 漢 学(4) ア メ リ カ の 文 化 と 思 想(4)	
	英 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2) 英 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2) フ ラ ン ス 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2) フ ラ ン ス 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2)	ド イ ツ 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2) ド イ ツ 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2) 中 国 文 学 文 化 と 日 本 A(2) 中 国 文 学 文 化 と 日 本 B(2)			
	日 本 の 伝 統 行 事 A(2) 日 本 の 伝 統 行 事 B(2) 日 本 出 版 文 化 史 A(2) 日 本 出 版 文 化 史 B(2) 心 理 学 概 論 A(2) 心 理 学 概 論 B(2)	日 本 の 伝 統 芸 能 (歌 舞 伎)(2) 日 本 の 伝 統 芸 能 (能・狂 言)(2) 比 較 文 学 文 化 史 A(2) 比 較 文 学 文 化 史 B(2) 家 族 心 理 学(2) 女 性 問 題 と 学 習(2)	日 本 美 術 文 化 史 A(2) 日 本 美 術 文 化 史 B(2) 韓 国 文 化 事 情 A(2) 韓 国 文 化 事 情 B(2) 兄 童 文 学 研 究(2) 家 庭 教 育 論(2)		
	Verbal/Nonverbal Communication A(2) (言 語・非 言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン A) Verbal/Nonverbal Communication B(2) (言 語・非 言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン B)	Philosophy of Language A(2) (言 語 論 A) Philosophy of Language B(2) (言 語 論 B)	Japanese and American Cultural Studies A(2) (日 米 文 化 論 A) Japanese and American Cultural Studies B(2) (日 米 文 化 論 B)		
	英 語	検 定 英 語(4) 英 語 I A(2) 英 語 I B(2) 4 単 位 必 修	Practical Writing (2) 英 語 II A(2) 英 語 II B(2)	Communicative English A(2) 英 語 III A(2) 英 語 III B(2)	Communicative English B(2)
	ド イ ツ 語	ド イ ツ 語 I A(2) ド イ ツ 語 I B(2)	ド イ ツ 語 II A(2) ド イ ツ 語 II B(2)	ド イ ツ 語 III A(2) ド イ ツ 語 III B(2)	
	フ ラ ン ス 語	フ ラ ン ス 語 I A(2) フ ラ ン ス 語 I B(2)	フ ラ ン ス 語 II A(2) フ ラ ン ス 語 II B(2)	フ ラ ン ス 語 III A(2) フ ラ ン ス 語 III B(2)	
	中 国 語	中 国 語 I A(2) 中 国 語 I B(2) 1 カ 国 語 4 単 位 選 択 必 修	中 国 語 II A(2) 中 国 語 II B(2) 1 年 次 履 修 し た 2 カ 国 語 よ り 1 カ 国 語 4 単 位 選 択 必 修	中 国 語 III A(2) 中 国 語 III B(2)	
	日 本 語 (留 学 生 用)	(留 学 生 用) 必 修 日 本 語 I A A(1) 日 本 語 I A B(1) 日 本 語 I B A(1) 日 本 語 I B B(1)	(留 学 生 用) 選 択 必 修 日 本 語 と 日 本 社 会 A(2) 日 本 語 と 日 本 社 会 B(2) 日 本 語 と 日 本 文 化 A(2) 日 本 語 と 日 本 文 化 B(2)	*留 学 生 は 12 単 位 中、日 本 語 8 単 位 必 修。 残 り 4 単 位 を 1 年 次 の 英 語・ド イ ツ 語・フ ラ ン ス 語・中 国 語 の 4 カ 国 語 よ り 母 語 以 外 の 1 カ 国 語 4 単 位 選 択 必 修。	
諸 資 格 関 連 科 目	教 育 基 礎 論 I(2) 教 育 基 礎 論 II(2)				
	社 会 教 育 計 画 論 I(2) 社 会 教 育 計 画 論 II(2)	社 会 教 育 計 画 論 II(2)	視 聴 覚 教 育 (視 聴 覚 メ デ ィ ア 論 を 含 む)(2)		
	生 涯 学 習 概 論(2) 兄 童 サ ー ビ ス 論(2) コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論(2)	図 書 館 概 論(2) 図 書 及 び 図 書 館 史(2) 図 書 館 特 論(2)	情 報 サ ー ビ ス 概 説(2) 図 書 及 び 図 書 館 史(2) 図 書 館 特 論(2)		
	学 習 指 導 と 学 校 図 書 館(2) 読 書 と 豊 かな 人 間 性(2)	学 校 経 営 と 学 校 図 書 館(2) 情 報 メ デ ィ ア の 活 用(2)	レ フ ェ ラ ン ス サ ー ビ ス 演 習・情 報 検 索 演 習(2) 図 書 館 資 料 論(2) 専 門 資 料 論(2) 資 料 組 織 概 説(2) 資 料 組 織 演 習(2) 情 報 機 器 論(2)		
イ ン タ ー ン シ ョ ン・ ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	イ ン タ ー ン シ ョ ン(2)		ボ ラ ン テ ィ ア 活 動(2)		
学 習 支 援 特 別 講 座	学 習 支 援 特 別 講 座 I A(2) 学 習 支 援 特 別 講 座 I B(2)		学 習 支 援 特 別 講 座 II A(2) 学 習 支 援 特 別 講 座 II B(2)		

2010年度以降入学生適用 文学部第1部史学科 教育課程表(専門科目)

日本史学専攻コース

区 分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専 門 科 目 70 単 位 以 上	必修科目 38 単 位 以 上	日本史学基礎演習(2)	日本史史料研究(4)	史学概論(4) 日本史学卒論演習(2) 卒業論文(6) 日本史学卒論演習(2)
				日本史学特講(4) 日本史学特講(4) 日本史学特講(4) 日本史学演習(2) 日本史学演習(2) 日本史学演習(2)
	8 選 択 必 修 科 目 以 上	日本史概説(4) 東洋史概説(4) 西洋史概説(4) 2科目8単位以上選択必修		
24 選 択 科 目 以 上		東洋史学特講(4) 東洋史学演習(2) 西洋史学特講(4) 西洋史学演習(2) 日本民俗学A(2) 王朝文化論A(2) 室町文化論A(2) 日本仏教のあゆみA(2) 中国仏教のあゆみA(2) 日本民俗学B(2) 王朝文化論B(2) 室町文化論B(2) 日本仏教のあゆみB(2) 中国仏教のあゆみB(2) 古文書学Ⅱ(4)	考古学研究(4) 法制史(西洋)A(2) 法制史(西洋)B(2) 倫理学概論(4)	
教職科目		古文書学Ⅰ(4) 古代日本文学史A(2) 中世日本文学史A(2) 古代日本文学史B(2) 中世日本文学史B(2) 近世日本文学史A(2) 近現代日本文学史A(2) 近世日本文学史B(2) 近現代日本文学史B(2) 人文地理学A(2) 自然地理学A(2) 人文地理学B(2) 自然地理学B(2) 地誌学A(2) 地誌学B(2) 法制史(日本)A(2) 法制史(東洋)A(2) 法制史(日本)B(2) 法制史(東洋)B(2) 自然誌概論(4) 西洋哲学史概説Ⅰ(4) 経済史ⅠA(2) 経済史ⅠB(2) 西洋哲学史概説Ⅱ(4) インドの宗教A(2) 経済史ⅡA(2) インドの宗教B(2) 経済史ⅡB(2) 博物館概論(2) 博物館学各論(4)	アメリカ思想史(2) 宗教とは何かA(2) 宗教とは何かB(2) 社会・地歴指導法Ⅰ(2) 社会・地歴指導法Ⅱ(2) 社会・公民指導法Ⅰ(2) 社会・公民指導法Ⅱ(2) 哲学概論(4) 博物館実習Ⅰ(2) 博物館実習Ⅱ(1)	
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載			

- 備考 1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
 2. () は該当科目の単位数。
 3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目については履修することができる。
 4. 「社会科教育論」「社会・地歴指導法Ⅰ」「社会・地歴指導法Ⅱ」「社会・公民指導法Ⅰ」「社会・公民指導法Ⅱ」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
 5. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。

2010 年度以降入学生適用 文学部第 1 部史学科 教育課程表(専門科目)

東洋史学専攻コース

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
専 門 科 目 70 単 位 以 上	必修科目 38 単 位 以 上	東洋史学基礎演習(2)	東洋史史料研究(4)	史学概論(4) 東洋史学卒論演習(2) 東洋史学特講(4) 東洋史学特講(4) 東洋史学特講(4) 東洋史学演習(2) 東洋史学演習(2) 東洋史学演習(2)	卒業論文(6) 東洋史学卒論演習(2)
		東洋史概説(4) 西洋史概説(4) 日本史概説(4) 2科目8単位以上選択必修			
	8 選 択 必 修 科 目 単 位 以 上		日本史学特講(4) 日本史学演習(2) 西洋史学特講(4) 西洋史学演習(2) 古文書学Ⅱ(4) 日本仏教のあゆみA(2) 中国仏教のあゆみA(2) 日本仏教のあゆみB(2) 中国仏教のあゆみB(2)	考古学研究(4) 法制史(西洋)A(2) 法制史(西洋)B(2) 倫理学概論(4)	
選 択 科 目 24 単 位 以 上	古文書学Ⅰ(4) 人文地理学A(2) 自然地理学A(2) 人文地理学B(2) 自然地理学B(2) 地誌学A(2) 地誌学B(2) 法制史(日本)A(2) 法制史(東洋)A(2) 法制史(日本)B(2) 法制史(東洋)B(2) 自然誌概論(4) 西洋哲学史概説Ⅰ(4) 経済史ⅠA(2) 経済史ⅠB(2) インドの宗教A(2) インドの宗教B(2) 博物館概論(2)	西洋哲学史概説Ⅱ(4) 経済史ⅡA(2) 経済史ⅡB(2) 博物館学各論(4)	哲学概論(4) 博物館実習Ⅰ(2)	博物館実習Ⅱ(1)	
教職科目	日本史A(2) 日本史B(2)	アメリカ思想史(2) 外国史A(2) 外国史B(2) 政治学原論A(2) 政治学原論B(2) 現代思想論(4) 社会科教育論(2)	宗教とは何かA(2) 宗教とは何かB(2) 社会・地歴指導法Ⅰ(2) 社会・地歴指導法Ⅱ(2) 社会・公民指導法Ⅰ(2) 社会・公民指導法Ⅱ(2)	教職実践演習(中・高)(2)	
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載				

- 備考 1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
 2. () は該当科目の単位数。
 3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目については履修することができる。
 4. 「社会科教育論」「社会・地歴指導法Ⅰ」「社会・地歴指導法Ⅱ」「社会・公民指導法Ⅰ」「社会・公民指導法Ⅱ」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
 5. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。

2010 年度以降入学生適用 文学部第 1 部史学科 教育課程表(専門科目)

西洋史学専攻コース

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
専 門 科 目 70 単 位 以 上	必修科目 38 単 位 以 上	西洋史学基礎演習(2)	西洋史史料研究(4)	史学概論(4) 西洋史学卒論演習(2)
				西洋史学特講(4) 西洋史学特講(4) 西洋史学特講(4) 西洋史学演習(2) 西洋史学演習(2) 西洋史学演習(2)
	8 選 択 必 修 科 目 以 上	西洋史概説(4) 日本史概説(4) 東洋史概説(4) 2科目8単位以上選択必修		
選 択 科 目 24 単 位 以 上		日本史学特講(4) 日本史学演習(2) 日本仏教のあゆみA(2) 中国仏教のあゆみA(2) 日本仏教のあゆみB(2) 中国仏教のあゆみB(2)	東洋史学特講(4) 東洋史学演習(2) 古文書学Ⅱ(4) ラテン語(2) ギリシア語(2)	東洋史学演習(2) 考古学研究(4) 法制史(西洋)A(2) 法制史(西洋)B(2) 倫理学概論(4)
教 職 科 目		古 文 書 学 I(4) 人文地理学 A(2) 自然地理学 A(2) 人文地理学 B(2) 自然地理学 B(2) 地 誌 学 A(2) 地 誌 学 B(2) 法制史(日本)A(2) 法制史(東洋)A(2) 法制史(日本)B(2) 法制史(東洋)B(2) 自然誌概論(4) 西洋哲学史概説Ⅰ(4) 経 済 史 I A(2) 経 済 史 I B(2) インドの宗教 A(2) インドの宗教 B(2) 博物館概論(2)	古 文 書 学 II(4) ラテン語(2) ギリシア語(2) 考古学研究(4) 法制史(西洋)A(2) 法制史(西洋)B(2) 倫理学概論(4) 西洋哲学史概説Ⅱ(4) 経 済 史 II A(2) 経 済 史 II B(2) 哲学概論(4) 博物館学各論(4)	博物館実習Ⅰ(2) 博物館実習Ⅱ(1)
		アメリカ思想史(2) 日本史 A(2) 外国史 A(2) 日本史 B(2) 外国史 B(2) 政治学原論 A(2) 政治学原論 B(2) 現代思想論(4) 社会科教育論(2)	宗教とは何か A(2) 宗教とは何か B(2) 社会・地歴指導法Ⅰ(2) 社会・地歴指導法Ⅱ(2) 社会・公民指導法Ⅰ(2) 社会・公民指導法Ⅱ(2)	教職実践演習(中・高)(2)
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載			

- 備考 1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
 2. () は該当科目の単位数。
 3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目については履修することができる。
 4. 「社会科教育論」「社会・地歴指導法Ⅰ」「社会・地歴指導法Ⅱ」「社会・公民指導法Ⅰ」「社会・公民指導法Ⅱ」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
 5. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。

外国人留学生の共通総合科目・国際コミュニケーション科目の履修について

外国人留学生に対しては、日本理解の助けとなる「日本事情」「日本語」の科目が共通総合科目と国際コミュニケーション科目にそれぞれ開設されている。

共通総合科目の「日本事情ⅠA」「日本事情ⅠB」「日本事情ⅡA」「日本事情ⅡB」「日本事情ⅢA」「日本事情ⅢB」、国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA」「日本語ⅠAB」「日本語ⅠBA」「日本語ⅠBB」は必修、「日本語と日本社会A」「日本語と日本社会B」「日本語と日本文化A」「日本語と日本文化B」は選択必修となっている。

原則として1・2年次で履修かつ修得すること。

教育課程表（共通総合科目・文学部共通科目）を参照して間違いのないように登録すること。

〈第1部外国人留学生用科目一覧〉

区分	科 目	単 位	履修年次	区 分
共通 総合 科目	日本事情ⅠA（自然）	2	1～4	必修
	日本事情ⅠB（自然）	2		
	日本事情ⅡA（人文）	2		
	日本事情ⅡB（人文）	2		
	日本事情ⅢA（社会）	2		
	日本事情ⅢB（社会）	2		
国際 コミュニ ケーシ ョン 科目	日 本 語 Ⅰ A A	1	1	必修
	日 本 語 Ⅰ A B	1		
	日 本 語 Ⅰ B A	1		
	日 本 語 Ⅰ B B	1		
	日本語と日本社会A	2	2	} 「日本語と日本社会A・B」、 「日本語と日本文化A・B」のうち どちらか一方の組合せ選択必修
	日本語と日本社会B	2		
	日本語と日本文化A	2		
	日本語と日本文化B	2		

※国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA・ⅠAB」「日本語ⅠBA・ⅠBB」「日本語と日本社会A・B」「日本語と日本文化A・B」は通年履修を原則とする。A・Bセットで履修すること。

第 1 部 教 育 学 科

明日のための教育学 ―ともに学び、ともに育つ―

教育学とは、人間が学び、生涯にわたって「よりよく生きる」ことを支える学問です。学校教育や特別支援教育、社会教育などの研究領域で、「人間にとって学びとは何か」「発達とは何か」「学びや発達をどう支えるか」など、さまざまな問いが立てられ、研究が進められています。

東洋大学文学部教育学科は、これまで「人間の発達」を生涯にわたるものとしてとらえ、人々の豊かな暮らしや住みよい社会の実現に貢献する学生を育ててきました。そして、現代社会が抱える諸問題の解決に他者と協働しながら創造的に取り組むことのできる21世紀のリーダーを送り出すため、2008年4月に「人間発達専攻」と「初等教育専攻」の2専攻を設置し、あらたなスタートを切りました。

「人間発達専攻」では、「人間の発達」を総合的にとらえ、人間の発達と社会の発展に貢献できる力量の獲得をめざします。これは、従来の教育学科の理念を受け継ぎ「生涯にわたる教育」のあり方を追究するものです。

「初等教育専攻」では、急激に変化する環境のなかで成長・発達する子どもについて深く理解する力と豊かな人間性を備えた小学校教員の養成をめざします。

こうした考えのもと、両専攻では、次のような目標を設定し、カリキュラムを用意しました。

I. 人間発達専攻

1. 課題を主体的に解決するための「生涯学習基礎力」

「人間の発達」を、直線的な心身の成長だけではなく、生涯にわたる人間の変化そのものとしてとらえ、研究の対象とする。人や社会、文化に対する理解を深め、現代社会が直面する課題を主体的に解決する力を身につける。一元的な考え方にとられない開かれた感覚と知性、つまり「生涯学習基礎力」の獲得をめざす。

2. 5つの領域に対応する専門的力量

- (1) 教育の基礎
- (2) 心理学と発達臨床
- (3) 社会教育
- (4) 学校教育
- (5) 特別支援教育

II. 初等教育専攻

1. 確かな授業力

各教科の指導法や教材研究の力量、「音楽」や「図工」など芸術系教科の実践的指導力、科学実験などを通じた理数系教科の指導力を身につける。

2. 国際化への対応と英語の指導力

多文化共生社会への理解を深めるとともに、児童を対象とした英語の指導力を養う。

3. 特別なニーズをもつ子どもたちへの支援とそのための専門的力量

4. 学校・地域・家庭の協力や連携を進めるコーディネート力

区 分		文学部 第1部 教育学科人間発達専攻 卒業要件
共通総合科目 16単位以上	自然科学系科目	16単位以上
	人文科学系科目	
	社会科学系科目	
	スポーツ健康科学系科目	
	情報系科目	
	総合科目	
	留学支援科目	
文学部共通科目 16単位以上	文学部演習科目	12単位以上 ※国際コミュニケーション科目12単位を含む、 合計16単位以上
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	
	諸資格関連科目	
	インターンシップ・ボランティア活動	
	学習支援特別講座	
74 専門科目 単位以上	必修科目	32単位
	選択科目	42単位以上
教 職 科 目		
他学部他学科開放科目(専門開放科目)		
卒業必要単位数合計		124単位

区 分		文学部 第1部 教育学科初等教育専攻 卒業要件
共通総合科目 16単位以上	自然科学系科目	16単位以上
	人文科学系科目	
	社会科学系科目	
	スポーツ健康科学系科目	
	情報系科目	
	総合科目	
	留学支援科目	
文学部共通科目 16単位以上	文学部演習科目	12単位以上 ※国際コミュニケーション科目12単位を含む、 合計16単位以上
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	
	諸資格関連科目	
	インターンシップ・ボランティア活動	
	学習支援特別講座	
専門科目 82単位以上	必修科目	48単位
	選択必修科目	14単位以上
	選択科目	20単位以上
教 職 科 目		
他学部他学科開放科目(専門開放科目)		
卒業必要単位数合計		124単位

第1部教育学科

共通総合科目

人間 (初等)

自然科学系科目

人文科学系科目

社会科学系科目

スポーツ健康科学系科目

情報系科目

総合科目

留学支援科目

共通総合科目は、卒業までに16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ①スポーツ健康科学系科目の授業は、白山キャンパスと東洋大学総合スポーツセンター（板橋区清水町）の2か所で開講されます。
 - ・1限目（白山キャンパス）の実技は、教職課程履修者のみ履修可能であり、受講者多数で抽選になった場合、1年生が優先されます [1時限目のスポーツ健康科学実技の履修方法については、『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください]。
 - ・2～4限目（総合スポーツセンター）の授業は、白山6学部すべての1～4年生（教職課程履修者含む）が履修できます。
- ②「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、16単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

※「自然科学演習A・B」は、2年次以上でかつ講義科目または実験講義科目を合計8単位以上修得していなければ、履修することができない。

初等

初等教育専攻において、下表の左欄の科目は、右欄の教育学科専門科目と対応している。なお、履修を希望する者は、教育学科履修ガイダンスにて詳細を説明するので、参加すること。

共通総合科目名	教育学科専門科目名
物理学実験講義A(2)	科学実験講義A 1コース(2)
数理・情報実習講義A(2)	科学実験講義A 2コース(2)
化学実験講義A(2)	科学実験講義B(2)
生物学実験講義A(2)	科学実験講義C(2)
地球科学実習講義A(2)	科学実験講義D 1コース(2)
天文学実習講義A(2)	科学実験講義D 2コース(2)

文学部共通科目

人間 (初等)

文学部演習科目

文学部基礎専門科目

国際コミュニケーション科目

諸資格関連科目

インターンシップ・

ボランティア活動

学習支援特別講座

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目12単位の卒業要件を充たし、合計16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

文学部基礎専門科目

人間 初等

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インド仏教のあゆみ A(2) インド仏教のあゆみ B(2)	中国仏教のあゆみ A(2) 中国仏教のあゆみ B(2)
日本仏教のあゆみ A(2) 日本仏教のあゆみ B(2)	哲学特殊演習 A(1) 哲学特殊演習 B(1)
Verbal/Nonverbal Communication A(2) (言語・非言語コミュニケーションA) Verbal/Nonverbal Communication B(2) (言語・非言語コミュニケーションB)	Philosophy of Language A(2) (言語論A) Philosophy of Language B(2) (言語論B)
Japanese and American Cultural Studies A(2) (日米文化論A) Japanese and American Cultural Studies B(2) (日米文化論B)	

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

古代インドの社会(2) インドの芸能(2) インド・仏教の美術(2) 華嚴の思想(2) 念仏の思想(2)	インドの風土と文化(2) 密教の思想(2) 天台の思想(2) 禅の思想(2)
--	---

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能(歌舞伎)(2) 日本の伝統芸能(能・狂言)(2) 比較文学文化史 A(2) 比較文学文化史 B(2)	日本出版文化史 A(2) 日本出版文化史 B(2) 韓国文化事情 A(2) 韓国文化事情 B(2)
---	--

国際コミュニケーション科目

人間 初等

1・2年次に英語8単位、1年次にドイツ語、フランス語、中国語の3カ国語から1カ国語を選択し4単位、合計12単位以上を履修かつ修得しなければならない。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

Communicative English A(2) Communicative English B(2)
--

インターンシップ・
ボランティア活動

人間 初等

専 門 科 目

人間 初等

必修科目

人間 初等

選択必修科目

初等

選択科目

人間 初等

◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」

「中国語ⅠA」「中国語ⅠB」「中国語ⅡA」「中国語ⅡB」

※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」(P.228)を参照すること。

文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、講義要項を参照すること。

教育学科専門科目は、卒業までに人間発達専攻では74単位以上、初等教育専攻では82単位以上を履修かつ修得しなければならない。これらは、各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、人間発達専攻では74単位、初等教育専攻では82単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する。

必修科目に設置されている全ての科目の単位を履修かつ修得しなければならない。

なお、卒業論文は必修である。ただし、4年次の卒業論文の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。

初等教育共通科目における選択必修科目は、9科目の中から7科目以上を選択して、合計14単位以上を履修かつ修得しなければならない。

選択科目は、人間発達専攻は42単位以上、初等教育専攻は20単位以上を履修かつ修得しなければならない。

選択科目の科目群は、将来の進路選択に関連づけて科目を選びやすいように分類してある。教育職員免許状取得希望者は、「教職課程を学ぶにあたって」(P.178)、社会教育主事資格取得希望者は、「諸資格」(P.217)を参照すること。

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

倫理と教育(2)	病弱児の病理と臨床(2)
病弱児の指導法(2)	視覚障害教育総論(2)
聴覚障害教育総論(2)	肢体不自由教育総論(2)

教職に関する科目の読替

人間

下表の左欄の教育学科専門科目は、履修かつ修得した後、右欄の教職に関する科目に読み替えることができ、卒業単位としても認められる。

ただし、下表の右欄の教職に関する科目を履修かつ修得しても、左欄の教育学科専門科目に読み替えることはできない。また、卒業単位としても認められない。

教育学科の専門科目 (卒業単位に認められる)	単位数	読替となる教職に関する科目 (卒業単位に認められない)	単位数
教職論	2	教職概論	2
教育学概論	2	教育基礎論I	2
学校教育社会学	2	教育基礎論II	2
教育心理学概論	2	教育心理学	2
道徳教育論	2	道徳教育の研究	2
特別活動の理論と方法	2	特別活動の研究	2
教育方法論 (情報機器及び教材の活用を含む)	2	教育方法研究 (情報機器の活用を含む)	2
教育評価論	2	教育評価	2
生徒指導研究 (進路指導論を含む)	2	生徒指導論 (進路指導論を含む)	2
教育相談の理論と方法	2	教育相談	2

教 職 科 目

人間

教育学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

他学部他学科開放科目(専門開放科目)

人間

初等

別（P.128）に定める他学部他学科開放科目（専門開放科目）を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

自由科目

人間

初等

教育学科教育課程表にない科目で、かつ、前項の他学部他学科開放科目（専門開放科目）として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、卒業単位にならない自由科目として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第2部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

◇文学部第1部・第2部相互聴講実施要領

第1部教育学科と第2部教育学科の両方で、同一年度で開講されている下表の科目についてのみ、相互聴講を認める。

履修条件は、以下の通りである。

- (1) 卒業までに30単位を超えて履修かつ修得することはできない。
- (2) 第2部教育学科教育課程表の学年配当にしたがって履修しなければならない。
- (3) 年間履修最高単位数(48単位)に算入する。
- (4) 履修かつ修得した単位は、専門科目として、卒業単位に算入する。
- (5) 履修方法
第2部開講科目の履修を希望する場合は、第1部の科目と同様に、履修登録をすること。
- (6) 対象科目

心理学概論 A(2)	特別支援教育概論Ⅱ(2)	社会教育課題研究Ⅰ(2)
心理学概論 B(2)	知的障害教育総論(2)	社会教育課題研究Ⅱ(2)
社会文化史(日本)(2)		社会教育計画論Ⅰ(2)
社会文化史(西洋)(2)		社会教育計画論Ⅱ(2)
文化地誌学(2)		視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)
比較社会論(2)		家庭教育論(2)
アメリカ思想史(2)		女性問題と学習(2)
		情報化と社会教育(2)

2008年度以降入学生適用 文学部第1部教育学科(人間発達専攻・初等教育専攻) 教育課程表(共通総合科目)

区分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
16 単位以上 共通総合科目	自然科学系科目	自然の数理 A(2) 生活の科学 A(2) エネルギーの科学 A(2) 物質の科学 A(2)	自然の数理 B(2) 生活の科学 B(2) エネルギーの科学 B(2) 物質の科学 B(2)	環境の科学 A(2) 地球の科学 A(2) 生物学 A(2) 天文学 A(2)	環境の科学 B(2) 地球の科学 B(2) 生物学 B(2) 天文学 B(2)
		自然科学概論 A(2) 自然誌 A(2) 物理学実験講義 A(2) 生物学実験講義 A(2)	自然科学概論 B(2) 自然誌 B(2) 物理学実験講義 B(2) 生物学実験講義 B(2)	化学実験講義 A(2) 地球科学実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 A(2) 天文学実習講義 A(2)	化学実験講義 B(2) 地球科学実習講義 B(2) 数理・情報実習講義 B(2) 天文学実習講義 B(2)
		日本事情 I A(2)(留学生用)	日本事情 I B(2)(留学生用)	自然科学演習 A(2) 自然科学演習 B(2)	
		哲学 A(2) 哲学史 A(2) 倫理学基礎論 A(2) 応用倫理学 A(2)	哲学 B(2) 哲学史 B(2) 倫理学基礎論 B(2) 応用倫理学 B(2)	科学思想史 A(2) 美術史 A(2) 音楽学 A(2) 宗教学 I A(2)	科学思想史 B(2) 美術史 B(2) 音楽学 B(2) 宗教学 I B(2)
		宗教学 II A(2) 国際教育論 A(2) 多文化共生論 A(2) 地球倫理 A(2)	宗教学 II B(2) 国際教育論 B(2) 多文化共生論 B(2) 地球倫理 B(2)	百人一首の文化史 A(2) 日本の昔話 A(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本の詩歌 A(2)	百人一首の文化史 B(2) 日本の昔話 B(2) 日本文学文化と風土 B(2) 日本の詩歌 B(2)
		西欧文学 A(2) 現代日本文学 A(2) 地域文化研究 I A(2) 地域文化研究 II A(2)	西欧文学 B(2) 現代日本文学 B(2) 地域文化研究 I B(2) 地域文化研究 II B(2)	地域文化研究 III A(2) 地域史(日本) A(2) 地域史(東洋) A(2) 地域史(西洋) A(2)	地域文化研究 III B(2) 地域史(日本) B(2) 地域史(東洋) B(2) 地域史(西洋) B(2)
		歴史の諸問題 A(2) 論理学 A(2)	歴史の諸問題 B(2) 論理学 B(2)	日本事情 II A(2)(留学生用) 日本事情 II B(2)(留学生用)	
		経済学 A(2) 統計学 A(2) 経営学入門(2) ベーシック・マーケティング(2)	経済学 B(2) 統計学 B(2) 基礎経営学(2) 流通入門(2)	基礎会計学(2) 法学 A(2) 日本国憲法(2) 政治学 A(2)	ビジネス社会と会計(2) 法学 B(2) 政治学 B(2)
		社会学 A(2) 人類学 A(2) 地理学 A(2) 国際比較論 A(2)	社会学 B(2) 人類学 B(2) 地理学 B(2) 国際比較論 B(2)	心理学の基礎(2) 社会適応の心理学(2)	
		日本事情 III A(2)(留学生用)	日本事情 III B(2)(留学生用)		
スポーツ健康科学系科目	スポーツ健康科学実技 I A(1) スポーツ健康科学実技 II A(1) スポーツ健康科学実技 III A(1)	スポーツ健康科学実技 I B(1) スポーツ健康科学実技 II B(1) スポーツ健康科学実技 III B(1)	スポーツ健康科学講義 I(2) スポーツ健康科学講義 II A(2)		
情報系科目	情報化社会と人間(2)	情報倫理(2)	コンピュータ・リテラシー(2)		
総合科目	総合 I A(2) 総合 II A(2) 総合 III A(2) 総合 IV A(2) 総合 V A(2) 総合 VI A(2)	総合 I B(2) 総合 II B(2) 総合 III B(2) 総合 IV B(2) 総合 V B(2) 総合 VI B(2)	総合 VII A(2) 総合 VIII A(2) 総合 IX A(2) 全学総合 I A(2) 全学総合 II A(2)	総合 VII B(2) 総合 VIII B(2) 総合 IX B(2) 全学総合 I B(2) 全学総合 II B(2)	
留学支援科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I(4)			
	日本語科目	(協定校並びにISEP加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目)			
		Integrated Japanese I(5) Japanese Reading and Composition I(2) Kanji Literacy I(1)	Integrated Japanese II(5) Japanese Reading and Composition II(2) Kanji Literacy II(1)		
		Project Work I(1) Japanese Listening Comprehension I(1) Japanese Culture I(1)	Project Work II(1) Japanese Listening Comprehension II(1) Japanese Culture II(1)		

2008 年度以降入学生適用 文学部第 1 部教育学科(人間発達専攻・初等教育専攻) 教育課程表(文学部共通科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
文学部 共通科目	文学部演習科目	文学部教養演習(2)		情報処理演習 A(1)	情報処理演習 B(1)
	文学部 基礎 専門 科目	論 理 学 概 論(4)	比 較 思 想(4)	哲 学 概 論(4)	
		哲 学 基 礎 概 説(4)	英 文 学 特 講 I(4)	英 文 学 特 講 II(4)	
		日 本 史 概 説(4)	英 文 学 特 講 III(4)		
		東 洋 史 概 説(4)	米 文 学 特 講 I(4)	米 文 学 特 講 II(4)	
		西 洋 史 概 説(4)	哲 学 と 科 学(4)	応 用 倫 理 学 特 論(4)	哲 学 と 宗 教 思 想(4)
			イ ン ド の 芸 能(2)	イ ン ド の 風 土 と 文 化(2)	古 代 イ ン ド の 社 会(2)
			華 厳 の 思 想(2)	禪 の 思 想(2)	天 台 の 思 想(2)
			密 教 の 思 想(2)	念 仏 の 思 想(2)	
			中 国 仏 教 の あ ゆ み A(2)	日 本 仏 教 の あ ゆ み A(2)	イ ン ド 仏 教 の あ ゆ み A(2)
			中 国 仏 教 の あ ゆ み B(2)	日 本 仏 教 の あ ゆ み B(2)	イ ン ド 仏 教 の あ ゆ み B(2)
		文 芸 創 作(2)	児 童 文 学(2)		
		中 国 学 概 論(4)	哲 学 特 殊 演 習 A(1)		
		中 国 文 献 学 概 論(4)	哲 学 特 殊 演 習 B(1)		
		中 国 文 化 史 概 説(4)	倫 理 学 概 論(4)		
			中 国 哲 学 史 概 説(4)	中 国 文 学 史 概 説(4)	
		中 国 現 代 文 学 史 概 説(4)	日 本 漢 学(4)		
		イ ギ リ ス の 文 化 と 思 想(4)	ア メ リ カ の 文 化 と 思 想(4)		
	英 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2)	ド イ ツ 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2)			
	英 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2)	ド イ ツ 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2)			
	フ ラ ン ス 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2)	中 国 文 学 文 化 と 日 本 A(2)			
	フ ラ ン ス 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2)	中 国 文 学 文 化 と 日 本 B(2)			
	日 本 の 伝 統 行 事 A(2)	日 本 の 伝 統 芸 能 (歌 舞 伎) (2)	日 本 美 術 文 化 史 A(2)		
	日 本 の 伝 統 行 事 B(2)	日 本 の 伝 統 芸 能 (能・狂 言) (2)	日 本 美 術 文 化 史 B(2)		
	日 本 出 版 文 化 史 A(2)	比 較 文 学 文 化 史 A(2)	韓 国 文 化 事 情 A(2)		
	日 本 出 版 文 化 史 B(2)	比 較 文 学 文 化 史 B(2)	韓 国 文 化 事 情 B(2)		
	Verbal/Nonverbal Communication A(2)	Philosophy of Language A(2)	Japanese and American Cultural Studies A(2)		
	(言 語・非 言 語 コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン A)	(言 語 論 A)	(日 米 文 化 論 A)		
	Verbal/Nonverbal Communication B(2)	Philosophy of Language B(2)	Japanese and American Cultural Studies B(2)		
	(言 語・非 言 語 コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン B)	(言 語 論 B)	(日 米 文 化 論 B)		
16 単 位 以 上	英 語 8 単 位 以 上	検 定 英 語(4)	Practical Writing (2)	Communicative English A(2)	Communicative English B(2)
		英 語 I A(2)	英 語 II A(2)	英 語 III A(2)	
		英 語 I B(2)	英 語 II B(2)	英 語 III B(2)	
		4 単 位 必 修	4 単 位 必 修		
	ド イ ツ 語	ド イ ツ 語 I A(2)	ド イ ツ 語 II A(2)	ド イ ツ 語 III A(2)	
		ド イ ツ 語 I B(2)	ド イ ツ 語 II B(2)	ド イ ツ 語 III B(2)	
	フ ラ ン ス 語	フ ラ ン ス 語 I A(2)	フ ラ ン ス 語 II A(2)	フ ラ ン ス 語 III A(2)	
		フ ラ ン ス 語 I B(2)	フ ラ ン ス 語 II B(2)	フ ラ ン ス 語 III B(2)	
	中 国 語	中 国 語 I A(2)	中 国 語 II A(2)	中 国 語 III A(2)	
		中 国 語 I B(2)	中 国 語 II B(2)	中 国 語 III B(2)	
日 本 語 (留 学 生 用)	(留 学 生 用) 必 修	(留 学 生 用) 選 択 必 修	※ 留 学 生 は 12 単 位 中、日 本 語 8 単 位 必 修。残 り 4 単 位 は 1 年 次 に 英 語・ド イ ツ 語・フ ラ ン ス 語・中 国 語 の 4 カ 国 語 より 母 語 以 外 の 1 カ 国 語 選 択 必 修。		
	日 本 語 I A A(1)	日 本 語 と 日 本 社 会 A(2)			
	日 本 語 I A B(1)	日 本 語 と 日 本 社 会 B(2)			
	日 本 語 I B A(1)	日 本 語 と 日 本 文 化 A(2)			
	日 本 語 I B B(1)	日 本 語 と 日 本 文 化 B(2)			
諸 資 格 関 連 科 目	博 物 館 概 論(2)	博 物 館 学 各 論(4)	博 物 館 実 習 I(2)	博 物 館 実 習 II(1)	
	生 涯 学 習 概 論(2)	図 書 館 概 論(2)	情 報 サービス 概 説(2)		
	児 童 サービス 論(2)	図 書 及 び 図 書 館 史(2)			
	コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 論(2)	図 書 館 特 論(2)			
		図 書 館 経 営 論(2)	図 書 館 サービス 論(2)	レ フ ェ ラ ン ス サービス 演 習・情 報 検 索 演 習(2)	
		図 書 館 資 料 論(2)	専 門 資 料 論(2)	資 料 組 織 概 説(2)	
			資 料 組 織 演 習(2)	情 報 機 器 論(2)	
	学 習 指 導 と 学 校 図 書 館(2)	学 校 経 営 と 学 校 図 書 館(2)	学 校 図 書 館 メ デ ィ ア の 構 成(2)		
	読 書 と 豊 かな 人 間 性(2)	情 報 メ デ ィ ア の 活 用(2)			
イ ン タ ー ン シ ョ ン プ 活 動	イ ン タ ー ン シ ョ ン プ(2)		ボ ラ ン テ ィ ア 活 動(2)		
学 習 支 援 特 別 講 座	学 習 支 援 特 別 講 座 I A(2)		学 習 支 援 特 別 講 座 II A(2)		
	学 習 支 援 特 別 講 座 I B(2)		学 習 支 援 特 別 講 座 II B(2)		

2010 年度以降入学生適用 文部第 1 部教育学科 人間発達専攻 教育課程表(専門科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
専 門 科 目 74 単 位 以 上	必修科目 32 単 位	教育 学 概 論 (2) 教 育 心 理 学 概 論 (2) 生 涯 学 習 概 論 I (2) 教 職 職 業 論 (2) 生 涯 発 達 心 理 学 (2) 特 別 支 援 教 育 概 論 I (2)	教育学ゼミナールⅡ(4)	教育学卒論ゼミナール(2) 卒 業 論 文(6)	
		教育学入門ゼミナール(2) 教職総合ゼミナール(2)			教育学ゼミナールⅠ(4)
	選 択 科 目 42 単 位 以 上	基礎 教育の 倫理と教育(2) 比較政策論(2)	学校教育社会学(2) 社会文化史(日本)(2) 社会文化史(西洋)(2)	比較社会論(2) アメリカ思想史(2) 文化地誌学(2)	
		発達 心理学と 臨床	家族心理学(2) 心理学概論 A(2) 心理学概論 B(2)	教育相談の理論と方法(2) カウンセリングの理論と実際(2) 発達障害児・者の心理(2)	
		社会 教育	生涯学習概論Ⅱ(2) 女性問題と学習(2) 情報化と社会教育(2) 家庭教育論(2) 視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)	社会教育課題研究Ⅰ(2) 社会教育課題研究Ⅱ(2) 社会教育計画論Ⅰ(2) 社会教育計画論Ⅱ(2)	
		学校 教育	授業論(2) 教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2) 特別活動の理論と方法(2) 児童文化研究(2)	道徳教育論(2) 生徒指導研究(進路指導論を含む)(2) 教育評価論(2) 教育課程論(2)	
		特別 支援 教育	特別支援教育概論Ⅱ(2) 知的障害教育総論(2) 視覚障害教育総論(2) 聴覚障害教育総論(2) 肢体不自由教育総論(2) 病弱児の指導法(2) 知的障害児・者の心理と臨床(2)	知的障害教育課程論(2) 病弱児の病理と臨床(2) 肢体不自由教育課程論(2) 肢体不自由児・者の教育臨床(2) 肢体不自由児の指導法(2)	特別支援学校教育実習 (事前・事後指導を含む)(4)
	教 職 科 目	経 済 史 I A(2) 経 済 史 I B(2)	国 際 公 共 経 済 A(2) 国 際 公 共 経 済 B(2)	民 法 A(2) 民 法 B(2)	
			経 済 史 II A(2) 経 済 史 II B(2) 政 治 学 原 論 A(2) 政 治 学 原 論 B(2) 国 際 法 A(2) 国 際 法 B(2)	哲 学 概 説 A(2) 哲 学 概 説 B(2) 倫 理 学 概 説 A(2) 倫 理 学 概 説 B(2)	
		日 本 史 A(2) 外 国 史 A(2) 人文地理学 A(2) 日 本 史 B(2) 外 国 史 B(2) 人文地理学 B(2) 地 誌 学 A(2) 自然地理学 A(2) 地 誌 学 B(2) 自然地理学 B(2)			教 育 実 習 I (事前・事後指導を含む)(5) 教 育 実 習 II (事前・事後指導を含む)(3) 教職実践演習(中・高)(2)
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載				

- 備考 1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
 2. () は該当科目の単位数。
 3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
 4. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。

2010年度以降入学生適用 文学部第1部教育学科 初等教育専攻 教育課程表(専門科目)

区 分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
専門科目 82単位以上	必修科目 30単位	教育学概論(2) 教育心理学概論(2) 教育職論(2) 生涯学習概論Ⅰ(2) 特別支援教育概論Ⅰ(2)		教育学ゼミナールⅡ(4) 教育学卒論ゼミナール(2) 卒業論文(6)	
		教育学入門ゼミナール(2) 教職総合ゼミナール(2)	教育学ゼミナールⅠ(4)		
	選択科目 20単位以上	基礎 教育の 倫理と教育(2) 比較政策論(2)	学校教育社会学(2) 社会文化史(日本)(2) 社会文化史(西洋)(2)	比較社会論(2) アメリカ思想史(2) 文化地誌学(2)	
		発達 心理学と 臨床	生涯発達心理学(2) 家族心理学(2) 心理学概論A(2) 心理学概論B(2)	教育相談の理論と方法(2) カウンセリングの理論と実際(2) 発達障害児・者の心理(2)	
		社会 教育	生涯学習概論Ⅱ(2) 女性問題と学習(2) 情報化と社会教育(2) 家庭教育論(2) 視覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)	社会教育課題研究Ⅰ(2) 社会教育課題研究Ⅱ(2) 社会教育計画論Ⅰ(2) 社会教育計画論Ⅱ(2)	
		学校 教育	授業論(2) 教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2) 特別活動の理論と方法(2) 児童文化研究(2)	道徳教育論(2) 生徒指導研究(進路指導論を含む)(2) 教育評価論(2) 教育課程論(2)	
		特別 支援 教育	特別支援教育概論Ⅱ(2) 知的障害教育総論(2) 肢体不自由教育総論(2)	聴覚障害教育総論(2) 視覚障害教育総論(2)	
	初等教育 共通科目 32単位以上	18 必修 科目	初等教科教育法(国語)(2) 初等教科教育法(社会)(2) 初等教科教育法(算数)(2) 初等教科教育法(理科)(2) 初等教科教育法(生活)(2)	初等教科教育法(家庭)(2) 初等教科教育法(音楽)(2) 初等教科教育法(図画工作)(2) 初等教科教育法(体育)(2)	
		14 選択 必修 科目	初等科国語(2) 初等科社会(2) 初等科算数(2) 初等科理科(2) 初等科生活(2)	初等科家庭(2) 初等科音楽(2) 初等科図画工作(2) 初等科体育(2)	
		選択		初等英語教育法(2) 科学実験講義A(2) 科学実験講義C(2) 初等科英語(2) 科学実験講義B(2) 科学実験講義D(2)	初等教育実習(事前・事後指導を含む)(5) 教職実践演習(小学校)(2)
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載				

- 備考 1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
 2. () は該当科目の単位数。
 3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
 4. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。

外国人留学生の共通総合科目・国際コミュニケーション科目の履修について

外国人留学生に対しては、日本理解の助けとなる「日本事情」「日本語」の科目が共通総合科目と国際コミュニケーション科目にそれぞれ開設されている。

共通総合科目の「日本事情ⅠA」「日本事情ⅠB」「日本事情ⅡA」「日本事情ⅡB」「日本事情ⅢA」「日本事情ⅢB」、国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA」「日本語ⅠAB」「日本語ⅠBA」「日本語ⅠBB」は必修、「日本語と日本社会A」「日本語と日本社会B」「日本語と日本文化A」「日本語と日本文化B」は選択必修となっている。

原則として1・2年次で履修かつ修得すること。

教育課程表（共通総合科目・文学部共通科目）を参照して間違いのないように登録すること。

〈第1部外国人留学生用科目一覧〉

区分	科 目	単 位	履修年次	区 分
共通 総合 科目	日本事情ⅠA（自然）	2	1～4	必修
	日本事情ⅠB（自然）	2		
	日本事情ⅡA（人文）	2		
	日本事情ⅡB（人文）	2		
	日本事情ⅢA（社会）	2		
	日本事情ⅢB（社会）	2		
国際 コミュニ ケーション 科目	日 本 語 Ⅰ A A	1	1	必修
	日 本 語 Ⅰ A B	1		
	日 本 語 Ⅰ B A	1		
	日 本 語 Ⅰ B B	1		
	日本語と日本社会A	2	2	「日本語と日本社会A・B」、 「日本語と日本文化A・B」のうち どちらか一方の組合せ選択必修
	日本語と日本社会B	2		
	日本語と日本文化A	2		
	日本語と日本文化B	2		

※国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA・ⅠAB」「日本語ⅠBA・ⅠBB」「日本語と日本社会A・B」「日本語と日本文化A・B」は通年履修を原則とする。A・Bセットで履修すること。

第1部 英語コミュニケーション学科

Embark upon a New Journey! 「旅立とう、新しい世界へ」

グローバル化、情報化の時代に入った今日、地球次元の視野から各自の生き方を問うことが求められている。異なった価値観、異なった行動様式の間人同士が理解を深めていくためには、異文化を受容する広い視野と柔軟な判断力、そして国際社会で自由にコミュニケーションができる外国語能力の育成が必要である。そのような時代に「生きる力=問題解決能力」となるのが、世界共通語（Global Language）の地位を確立した英語によるコミュニケーション能力である。日本社会のグローバル化、情報化に必要なスキルとして、このような運用能力を持った人材が強く要望されている。英語コミュニケーション学科の設立目的は、運用型の英語教育・学習を通してこうした社会的要請に応えていくことである。

英語コミュニケーション学科のカリキュラムは、大別して4つの科目群から構成されている。生きた英語運用能力を育成するための4スキルの科目群が、基礎必修科目として1年次から3年次まで用意されている。コミュニケーション・スキルには、自分の考えを論理的に組み立て相手に伝え話す技術だけでなく、異文化を受容する広い視野と柔軟な判断力が含まれる。内容のある正確なコミュニケーションを支える柱として、専門選択必修科目には、コミュニケーション系科目群、英語学系科目群、そして国際文化系科目群が用意されている。

豊かなコミュニケーションの構築、すなわち、人と人を繋ぎ、その輪を広げていくために、本学科は共通総合科目（教養科目）を重視している。アイデンティティの確立を支援し、ものごとを総合的かつクリティカルに眺める目を養うのが教養教育の目的である。わが国固有の歴史や文化の理解に努め、21世紀の日本、世界そして地球を見渡し、グローバルな諸問題を自らの問題として捉え、積極的に社会と関わり行動していく人材育成のために、教養教育の重要性は強調してもし過ぎることはない。そのために本学科は、共通総合科目の人文科学系に、多文化共生論、地球倫理、国際教育論の3科目を開講している。また、国際的に活躍し得る人材を育成するために、学生の自主的・自覚的学習として、長期、短期留学（協定校・認定校）、語学研修（協定校・認定機関）そして、各種のボランティア活動や体験学習を卒業単位として認定している。

言語はもともとコミュニケーションの手段である。その言語本来の使命に帰れば、英語学習も、コミュニケーションの手段として「分かること」、「分からせること」を目指さなくてはならない。世界で通用する“good English”を身につけることは無論だが、われわれは、得てしてパーフェクトな英語を求めるあまり、英語という言葉の奴隷になりがちである。言葉は通じることが至上命令ではあるが、しかし内容が伴わない言葉は空しいものである。話す人の教養、人柄、識見が反映されてはじめて言葉は、人と人とを「繋ぐ」全人格的なコミュニケーションの有効手段となることができる。英語でのコミュニケーションを学ぶことは、自分の考え方、感じ方、ものの見方の筋道をより豊かにし、ひいては日本語をも豊かにしてくれるはずである。

英語コミュニケーション学科は、2000年に開設されました。その間、幼木が若木、今では大きな夢のある樹に育ちつつあります。そして、2011年、英語コミュニケーション学科は開設12年目を迎えます。気分一新、新しい旅立ちの年です。

区 分		文学部 第1部 英語コミュニケーション学科 卒業要件
共通総合科目 16単位以上	自然科学系科目	16単位以上
	人文科学系科目	
	社会科学系科目	
	スポーツ健康科学系科目	
	情報系科目	
	総合科目	
	留学支援科目	
文学部共通科目 14単位以上	文学部演習科目	10単位以上 ※国際コミュニケーション科目10単位を含む、 合計14単位以上
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	
	諸資格関連科目	
	インターンシップ・ボランティア活動	
	学習支援特別講座	
82専門科目 以上	必修科目	42単位
	選択必修科目	40単位以上
教 職 科 目		
他学部他学科開放科目(専門開放科目)		
卒業必要単位数合計		124単位

共通総合科目

自然科学系科目
 人文科学系科目
 社会科学系科目
 スポーツ健康科学系科目
 情報系科目
 総合科目
 留学支援科目

共通総合科目は、卒業までに16単位以上を履修かつ修得しなければならない。この16単位のうち、「国際教育論A」、「国際教育論B」、「多文化共生論A」、「多文化共生論B」、「地球倫理A」、「地球倫理B」から2科目4単位を選択し、履修かつ修得することが望ましい。また、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ①スポーツ健康科学系科目の授業は、白山キャンパスと東洋大学総合スポーツセンター（板橋区清水町）の2か所で開講されます。
 - ・1限目（白山キャンパス）の実技は、教職課程履修者のみ履修可能であり、受講者多数で抽選になった場合、1年生が優先されます〔1時限目のスポーツ健康科学実技の履修方法については、『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください〕。
 - ・2～4限目（総合スポーツセンター）の授業は、白山6学部すべての1～4年生（教職課程履修者含む）が履修できます。
- ②「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、16単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

※「自然科学演習A・B」は、2年次以上でかつ講義科目または実験講義科目を合計8単位以上修得していなければ、履修することができない。

文学部共通科目

文学部演習科目
 文学部基礎専門科目
 国際コミュニケーション科目
 諸資格関連科目
 インターンシップ・
 ボランティア活動
 学習支援特別講座
 文学部基礎専門科目

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目10単位の卒業要件を充たし、合計14単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、14単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インド仏教のあゆみ A(2)	中国仏教のあゆみ A(2)
インド仏教のあゆみ B(2)	中国仏教のあゆみ B(2)
日本仏教のあゆみ A(2)	哲学特殊演習 A(1)
日本仏教のあゆみ B(2)	哲学特殊演習 B(1)

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

古代インドの社会(2)	インドの風土と文化(2)
インドの芸能(2)	密教の思想(2)
インド・仏教の美術(2)	天台の思想(2)
華嚴の思想(2)	禅の思想(2)
念仏の思想(2)	

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能(歌舞伎)(2)	日本出版文化史 A(2)
日本の伝統芸能(能・狂言)(2)	日本出版文化史 B(2)
比較文学文化史 A(2)	韓国文化事情 A(2)
比較文学文化史 B(2)	韓国文化事情 B(2)

国際コミュニケーション科目

英語を10単位、履修かつ修得しなければならない。

下記科目は、クラス分け対象科目なので、自由に履修登録することはできない。

	1年	2年
英語必修	Oral Communication I AA(1) (オーラルコミュニケーション I AA)	Oral Communication II AA(1) (オーラルコミュニケーション II AA)
	Oral Communication I AB(1) (オーラルコミュニケーション I AB)	Oral Communication II AB(1) (オーラルコミュニケーション II AB)
	Oral Communication I BA(1) (オーラルコミュニケーション I BA)	Oral Communication II BA(1) (オーラルコミュニケーション II BA)
	Oral Communication I BB(1) (オーラルコミュニケーション I BB)	Oral Communication II BB(1) (オーラルコミュニケーション II BB)

◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより、英語コミュニケーション学科開講科目・国際コミュニケーション科目から1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「British Culture and Literature B（イギリス文化・文学研究B）」

「American Culture and Literature B（アメリカ文化・文学研究B）」

「Japanese and American Cultural Studies B（日米文化論B）」

「中国語 I A」「中国語 I B」「中国語 II A」「中国語 II B」

※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」(P.228)を参照すること。

インターンシップ・
ボランティア活動

文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、講義要項を参照すること。

専 門 科 目

英語コミュニケーション学科専門科目は、卒業までに**82単位以上**を履修かつ修得しなければならない。この82単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、**82単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目の単位数も、卒業単位として算入する。**

英語コミュニケーション学科専門科目は、全てA・Bセットで履修すること。

必修科目

必修科目に設置されている**全ての科目の単位を履修かつ修得しなければならない**。1年次および2年次にクラス指定をするので、指定されたクラスを履修すること（ただし、「Research Studies A・B（リサーチスタディーズA・B）」はクラス指定しない）。

なお、卒業論文は必修であるため、1年次から計画を立て研究室等の指示に注意すること。ただし、4年次の卒業論文の履修登録は、**3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下**の学生に限る。

選択必修科目

選択必修科目は、3つの科目群からそれぞれ定められた単位数を履修し、**合計40単位以上を修得しなければならない**。

単位認定について

(1) 認定語学セミナー

認定語学セミナーとは、「東洋大学語学セミナー（英語）」以外の語学セミナーで、英語コミュニケーション学科の認定を得たものをいう。「東洋大学語学セミナー（英語）」と同様の要領で、英語コミュニケーション学科開講科目から1科目の単位を認定する。単位認定科目は以下の通りである。

「British Culture and Literature B（イギリス文化・文学研究B）」

「American Culture and Literature B（アメリカ文化・文学研究B）」

「Japanese and American Cultural Studies B（日米文化論B）」

※単位修得方法

- ① 参加者は、当該年度に単位認定希望科目を履修登録し、その春学期科目Aを履修すること。
- ② 参加者は、セミナー終了後にレポートを提出すること。
- ③ 合格の評価を受けた者は、単位認定する。

(2) 認定留学

英語コミュニケーション学科では、協定校および ISEP との交換留学制度の他に、本人の出願により、本学科の認定を得た留学を認定留学として認める。交換留学および ISEP と同様、休学することなく本学に在学したまま留学することができる。認定された大学（もしくは大学付属機関）で修得した単位は 30 単位まで卒業単位として認定を受けることが可能である。

※単位認定、在学年数の取り扱い、履修に関する特別措置（履修継続）等については、本学認定留学制度の規定に準じる。

(3) 体験学習

学生の自主的、自覚的学習として本学科は各種インターンシップおよびボランティア活動への参加を奨励する。本学科の認定する機関での活動であり、なおかつ単位認定の条件を充たしている場合、実習期間、実習内容により以下の 2 科目

「Global Understanding I B（国際理解 I B）」

「Global Understanding II B（国際理解 II B）」

のうち 1 科目、または、以下の 3 科目

「多文化共生論B」、「地球倫理B」、「国際教育論B」

のうち 1 科目を単位認定する。

※単位修得方法

- ① 参加者は、当該年度に単位認定希望科目を履修登録し、その春学期科目Aを履修すること。
- ② 参加者は、実習・活動終了後にレポートを提出すること。
- ③ 参加者は、実習・活動終了後に実習・活動先の機関から出される報告書等を本学科に提出すること。

(4) 英語検定試験

実用英語検定試験（英検）、TOEIC、TOEFL、TOEFLiBT、ケンブリッジ英検の4つの試験において本学科が定めた級あるいはスコアを取得し、それを証明する書類を提出すれば、以下の基準に基づいて単位認定する。

レベル		A	B	C	D
	認定単位・科目数	1 科目 (2 単位)	2 科目 (4 単位)	3 科目 (6 単位)	4 科目 (8 単位)
英語 検 定 試 験 種 類	実用英語技能検定試験	—	準 1 級	1 級	—
	TOEIC	—	600～729点	730～859点	860点～
	TOEFL TOEFLiBT	480～519点 54～67	520～559点 67～82	560～599点 83～99	600点～ 100～
	ケンブリッジ 英検	—	—	FCE	CPE,CAE

以下の認定対象科目群から、その成績（級あるいはスコア）に応じて、(A)は1科目2単位、(B)は2科目4単位、(C)は3科目6単位、(D)は4科目8単位まで、卒業単位として認定する。

(A,B,C,D)

Listening Comprehension Practice B

(英語聴解練習B) (2単位)

Extensive Reading Practice B (英語講読・多読B) (2単位)

Oral Composition B (ライティングⅠ B) (2単位)

(B,C,D)

English for Qualifying Examinations AB

(資格検定英語AB) (2単位)

Interpretation Practice B (通訳練習B) (2単位)

Intensive Reading Practice B (英語講読・精読B) (2単位)

Technical Writing B (ライティングⅡ B) (2単位)

(C,D)

English for Qualifying Examinations BB

(資格検定英語BB) (2単位)

Speech Communication B

(スピーチコミュニケーションB) (1単位)

(D)

Research Studies B (リサーチスタディーズB) (2単位)

Academic Writing B (ライティングⅢ B) (2単位)

教 職 科 目

※単位修得方法

- ①単位認定希望者は、当該年度に単位認定希望科目を履修登録し、その春学期科目Aを履修すること。
- ②単位認定申請時期（6月及び10月の年2回）や必要書類等の詳細については、すべて学科掲示板の指示に従うこと。

英語コミュニケーション学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

他学部他学科開放科目(専門開放科目)

別（P.128）に定める他学部他学科開放科目（専門開放科目）を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

自 由 科 目

英語コミュニケーション学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目（専門開放科目）として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、**卒業単位にならない自由科目**として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第2部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

2008年度以降入学生適用 文学部第1部英語コミュニケーション学科 教育課程表（共通総合科目）

区 分		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
16 単 位 以 上 共 通 総 合 科 目	自然科学系科目	自然の数理 A(2) 生活の科学 A(2) エネルギーの科学 A(2) 物質の科学 A(2)	自然の数理 B(2) 生活の科学 B(2) エネルギーの科学 B(2) 物質の科学 B(2)	環境の科学 A(2) 地球の科学 A(2) 生物学 A(2) 天文学 A(2)	環境の科学 B(2) 地球の科学 B(2) 生物学 B(2) 天文学 B(2)
		自然科学概論 A(2) 自然誌 A(2) 物理学実験講義 A(2) 生物学実験講義 A(2)	自然科学概論 B(2) 自然誌 B(2) 物理学実験講義 B(2) 生物学実験講義 B(2)	化学実験講義 A(2) 地球科学実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 A(2) 天文学実習講義 A(2)	化学実験講義 B(2) 地球科学実習講義 B(2) 数理・情報実習講義 B(2) 天文学実習講義 B(2)
		日本事情 I A(2) (留学生用)	日本事情 I B(2) (留学生用)	自然科学演習 A(2) 自然科学演習 B(2)	
		哲学 A(2) 哲学史 A(2) 倫理学基礎論 A(2) 応用倫理学 A(2)	哲学 B(2) 哲学史 B(2) 倫理学基礎論 B(2) 応用倫理学 B(2)	科学思想史 A(2) 美術史 A(2) 音楽学 A(2) 宗教学 I A(2)	科学思想史 B(2) 美術史 B(2) 音楽学 B(2) 宗教学 I B(2)
		宗教学 II A(2) 国際教育論 A(2) 多文化共生論 A(2) 地球倫理 A(2)	宗教学 II B(2) 国際教育論 B(2) 多文化共生論 B(2) 地球倫理 B(2)	百人一首の文化史 A(2) 日本の昔話 A(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本の詩歌 A(2)	百人一首の文化史 B(2) 日本の昔話 B(2) 日本文学文化と風土 B(2) 日本の詩歌 B(2)
		西欧文学 A(2) 現代日本文学 A(2) 地域文化研究 I A(2) 地域文化研究 II A(2)	西欧文学 B(2) 現代日本文学 B(2) 地域文化研究 I B(2) 地域文化研究 II B(2)	地域文化研究 III A(2) 地域史 (日本) A(2) 地域史 (東洋) A(2) 地域史 (西洋) A(2)	地域文化研究 III B(2) 地域史 (日本) B(2) 地域史 (東洋) B(2) 地域史 (西洋) B(2)
		歴史の諸問題 A(2) 論理学 A(2)	歴史の諸問題 B(2) 論理学 B(2)	日本事情 II A(2) (留学生用) 日本事情 II B(2) (留学生用)	
		経済学 A(2) 統計学 A(2) 経営学入門(2) ベーシック・マーケティング(2)	経済学 B(2) 統計学 B(2) 基礎経営学(2) 流通入門(2)	基礎会計学(2) 法学 A(2) 日本国憲法(2) 政治学 A(2)	ビジネス社会と会計(2) 法学 B(2) 政治学 B(2)
		社会学 A(2) 人類学 A(2) 地理学 A(2) 国際比較論 A(2)	社会学 B(2) 人類学 B(2) 地理学 B(2) 国際比較論 B(2)	心理学の基礎(2) 社会適応の心理学(2)	
		日本事情 III A(2) (留学生用)	日本事情 III B(2) (留学生用)		
スポーツ健康 科学系科目	スポーツ健康科学実技 I A(1) スポーツ健康科学実技 II A(1) スポーツ健康科学実技 III A(1)	スポーツ健康科学実技 I B(1) スポーツ健康科学実技 II B(1) スポーツ健康科学実技 III B(1)	スポーツ健康科学講義 I(2) スポーツ健康科学講義 II A(2)		
	スポーツ健康科学演習 I(2) スポーツ健康科学講義 II B(2)				
	情報系科目	情報化社会と人間(2) 情報倫理(2) コンピュータ・リテラシー(2)			
総合科目	総合 I A(2) 総合 II A(2) 総合 III A(2) 総合 IV A(2) 総合 V A(2) 総合 VI A(2)	総合 I B(2) 総合 II B(2) 総合 III B(2) 総合 IV B(2) 総合 V B(2) 総合 VI B(2)	総合 VII A(2) 総合 VIII A(2) 総合 IX A(2) 全学総合 I A(2) 全学総合 II A(2)		
	総合 VII B(2) 総合 VIII B(2) 総合 IX B(2) 全学総合 I B(2) 全学総合 II B(2)				
留学支援 科目	英語特別 教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I(4)	Special Course in Advanced TOEFL II(4)		
	日本語 科目	(協定校並びに ISEP 加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目)	Integrated Japanese I(5) Japanese Reading and Composition I(2) Kanji Literacy I(1)	Integrated Japanese II(5) Japanese Reading and Composition II(2) Kanji Literacy II(1)	
		Project Work I(1) Japanese Listening Comprehension I(1) Japanese Culture I(1)	Project Work II(1) Japanese Listening Comprehension II(1) Japanese Culture II(1)		

2008 年度以降入学生適用 文学部第 1 部英語コミュニケーション学科 教育課程表 (文学部共通科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
文学部演習科目	文学部教養演習(2)		情報処理演習 A(1)	情報処理演習 B(1)
文学部 基礎 専門 科目	論 理 学 概 論(4)	比 較 思 想(4)	哲 学 概 論(4)	
	哲 学 基 礎 概 説(4)	英 文 学 特 講 I(4)	英 文 学 特 講 II(4)	
	日 本 史 概 説(4)	英 文 学 特 講 III(4)		
	東 洋 史 概 説(4)	米 文 学 特 講 I(4)	米 文 学 特 講 II(4)	
	西 洋 史 概 説(4)	哲 学 と 科 学(4)	応 用 倫 理 学 特 論(4)	哲 学 と 宗 教 思 想(4)
		イ ン ド の 芸 能(2)	イ ン ド 文 学(2)	古 代 イ ン ド の 社 会(2)
		イ ン ド ・ 仏 教 の 美 術(2)	イ ン ド の 風 土 と 文 化(2)	天 台 の 思 想(2)
		華 嚴 の 思 想(2)	禪 の 思 想(2)	
		密 教 の 思 想(2)	念 仏 の 思 想(2)	
		中 国 仏 教 の あ ゆ み A(2)	日 本 仏 教 の あ ゆ み A(2)	イ ン ド 仏 教 の あ ゆ み A(2)
	中 国 仏 教 の あ ゆ み B(2)	日 本 仏 教 の あ ゆ み B(2)	イ ン ド 仏 教 の あ ゆ み B(2)	
	文 芸 創 作(2)	児 童 文 学(2)		
	中 国 学 概 論(4)	中 国 文 献 学 概 論(4)	哲 学 特 殊 演 習 A(1)	
	中 国 文 化 史 概 説(4)		哲 学 特 殊 演 習 B(1)	
	生 涯 学 習 概 論 I(2)	特 別 支 援 教 育 概 論 I(2)	倫 理 学 概 論(4)	
	生 涯 学 習 概 論 II(2)	特 別 支 援 教 育 概 論 II(2)	中 国 哲 学 史 概 説(4)	中 国 文 学 史 概 説(4)
			中 国 現 代 文 学 史 概 説(4)	日 本 漢 学(4)
			イ ギ リ ス の 文 化 と 思 想(4)	ア メ リ カ の 文 化 と 思 想(4)
	英 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2)	ド イ ツ 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2)		
	英 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2)	ド イ ツ 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2)		
	フ ラ ン ス 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2)	中 国 文 学 文 化 と 日 本 A(2)		
	フ ラ ン ス 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2)	中 国 文 学 文 化 と 日 本 B(2)		
	日 本 の 伝 統 行 事 A(2)	日 本 の 伝 統 芸 能(歌 舞 伎)(2)	日 本 美 術 文 化 史 A(2)	
	日 本 の 伝 統 行 事 B(2)	日 本 の 伝 統 芸 能(能・狂 言)(2)	日 本 美 術 文 化 史 B(2)	
	日 本 出 版 文 化 史 A(2)	比 較 文 学 文 化 史 A(2)	韓 国 文 化 事 情 A(2)	
	日 本 出 版 文 化 史 B(2)	比 較 文 学 文 化 史 B(2)	韓 国 文 化 事 情 B(2)	
	心 理 学 概 論 A(2)	家 族 心 理 学(2)	児 童 文 化 研 究(2)	
	心 理 学 概 論 B(2)	女 性 問 題 と 学 習(2)	家 庭 教 育 論(2)	
文学部 共通 科目 14 単位 以上	英語 10 単位	Oral Communication I AA(1) (オーラルコミュニケーション I AA)	Oral Communication II AA(1) (オーラルコミュニケーション II AA)	Speech Communication A(1) (スピーチコミュニケーション A)
		Oral Communication I AB(1) (オーラルコミュニケーション I AB)	Oral Communication II AB(1) (オーラルコミュニケーション II AB)	Speech Communication B(1) (スピーチコミュニケーション B)
		Oral Communication I BA(1) (オーラルコミュニケーション I BA)	Oral Communication II BA(1) (オーラルコミュニケーション II BA)	
		Oral Communication I BB(1) (オーラルコミュニケーション I BB)	Oral Communication II BB(1) (オーラルコミュニケーション II BB)	
	ドイツ語	ド イ ツ 語 I A(2)	ド イ ツ 語 II A(2)	ド イ ツ 語 III A(2)
		ド イ ツ 語 I B(2)	ド イ ツ 語 II B(2)	ド イ ツ 語 III B(2)
	フランス語	フ ラ ン ス 語 I A(2)	フ ラ ン ス 語 II A(2)	フ ラ ン ス 語 III A(2)
		フ ラ ン ス 語 I B(2)	フ ラ ン ス 語 II B(2)	フ ラ ン ス 語 III B(2)
中国語	中 国 語 I A(2)	中 国 語 II A(2)	中 国 語 III A(2)	
	中 国 語 I B(2)	中 国 語 II B(2)	中 国 語 III B(2)	
日本語 (留学生用)	(留 学 生 用) 必 修 日 本 語 I AA(1)	(留 学 生 用) 選 択 必 修 日 本 語 と 日 本 社 会 A(2)	※留学生は、日本語 8 単位、英語 2 単位必修。 (英語が母語の場合は、1・2 年次のドイツ語・ フランス語・中国語より 1 カ国語 2 単位選択必修)	
	日 本 語 I AB(1)	日 本 語 と 日 本 社 会 B(2)		
	日 本 語 I BA(1)	日 本 語 と 日 本 文 化 A(2)		
	日 本 語 I BB(1)	日 本 語 と 日 本 文 化 B(2)		
諸 資 格 関 連 科 目	教 育 基 礎 論 I(2)			
	教 育 基 礎 論 II(2)			
		社 会 教 育 計 画 論 I(2)	社 会 教 育 計 画 論 II(2)	視 聴 覚 教 育 (視 聴 覚 メ デ ィ ア 論 を 含 む) (2)
	博 物 館 概 論(2)	博 物 館 学 各 論(4)	博 物 館 実 習 I(2)	博 物 館 実 習 II(1)
	生 涯 学 習 概 論(2)	図 書 館 概 論(2)	情 報 サ ー ビ ス 概 説(2)	
	児 童 サ ー ビ ス 論(2)		図 書 及 び 図 書 館 史(2)	
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論(2)		図 書 館 特 論(2)	
	図 書 館 経 営 論(2)	図 書 館 サ ー ビ ス 論(2)	レ フ ェ レ ン ス サ ー ビ ス 演 習 ・ 情 報 検 索 演 習(2)	
	図 書 館 資 料 論(2)	専 門 資 料 論(2)	資 料 組 織 概 説(2)	
			資 料 組 織 演 習(2)	
			情 報 機 器 論(2)	
	学 習 指 導 と 学 校 図 書 館(2)	学 校 経 営 と 学 校 図 書 館(2)	学 校 図 書 館 メ デ ィ ア の 講 成(2)	
	読 書 と 豊 かな 人 間 性(2)	情 報 メ デ ィ ア の 活 用(2)		
インターンシップ・ ボランティア活動	イ ン タ ー ン シ ッ プ(2)		ボ ラ ン テ ィ ア 活 動(2)	
学習支援 特別講座	学 習 支 援 特 別 講 座 I A(2) 学 習 支 援 特 別 講 座 I B(2)		学 習 支 援 特 別 講 座 II A(2) 学 習 支 援 特 別 講 座 II B(2)	

2010年度以降入学生適用 文学部第1部英語コミュニケーション学科 教育課程表（専門科目）

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
専 門 科 目 82 単 位 以 上	必 修 科 目 42 単 位	Listening Comprehension Practice A (英語聴解練習A) (2)	Interpretation Practice A (通訳練習A) (2)	Research Studies A (リサーチスタディーズA) (2)	Seminar (4)
		Listening Comprehension Practice B (英語聴解練習B) (2)	Interpretation Practice B (通訳練習B) (2)	Research Studies B (リサーチスタディーズB) (2)	Graduation Thesis (卒業論文) (6)
		Extensive Reading Practice A (英語講読・多読A) (2)	Intensive Reading Practice A (英語講読・精読A) (2)	Academic Writing A (ライティングⅢA) (2)	
専 門 科 目 82 単 位 以 上	選 択 必 修 科 目 40 単 位 以 上	Extensive Reading Practice B (英語講読・多読B) (2)	Intensive Reading Practice B (英語講読・精読B) (2)	Academic Writing B (ライティングⅢB) (2)	
		Oral Composition A (ライティングⅠA) (2)	Technical Writing A (ライティングⅡA) (2)		
		Oral Composition B (ライティングⅠB) (2)	Technical Writing B (ライティングⅡB) (2)		
		Intercultural Communication IA (文化間コミュニケーション IA) (2)	Computer Assisted Language Learning A (コンピュータ支援英語学習A) (2)		
		Intercultural Communication IB (文化間コミュニケーション IB) (2)	Computer Assisted Language Learning B (コンピュータ支援英語学習B) (2)		
		Verbal/Nonverbal Communication A (言語・非言語コミュニケーション A) (2)	Newspaper English A (新聞英語A) (2)		
		Verbal/Nonverbal Communication B (言語・非言語コミュニケーション B) (2)	Newspaper English B (新聞英語B) (2)		
		Broadcast English A (放送英語A) (2)	English for Qualifying Examinations AA (資格検定英語AA) (2)		
		Broadcast English B (放送英語B) (2)	English for Qualifying Examinations AB (資格検定英語AB) (2)		
		Communicative English A (2)			
		Communicative English B (2)			
		English-Japanese Contrastive Studies A (日英語対照研究A) (2)	Intercultural Communication II A (文化間コミュニケーション II A) (2)		
		English-Japanese Contrastive Studies B (日英語対照研究B) (2)	Intercultural Communication II B (文化間コミュニケーション II B) (2)		
		Negotiation Skills and Theory A (交渉英語A) (2)	Business Communication A (ビジネスコミュニケーションA) (2)		
		Negotiation Skills and Theory B (交渉英語B) (2)	Business Communication B (ビジネスコミュニケーションB) (2)		
		English for Qualifying Examinations BA (資格検定英語BA) (2)	Debate A (ディベートA) (2)		
		English for Qualifying Examinations BB (資格検定英語BB) (2)	Debate B (ディベートB) (2)		
		24単位以上選択必修			
		Advanced English Grammar A (高等英文法A) (2)	English Stylistics A (英語文体論A) (2)		
		Advanced English Grammar B (高等英文法B) (2)	English Stylistics B (英語文体論B) (2)		
		English Linguistics A (英語学A) (2)	Sociolinguistics A (言語と社会A) (2)		
		English Linguistics B (英語学B) (2)	Sociolinguistics B (言語と社会B) (2)		
		Philosophy of Language A (言語論A) (2)			
		Philosophy of Language B (言語論B) (2)			
		8 単位以上選択必修			
		British Culture and Literature A (イギリス文化・文学研究A) (2)	Japanese and American Cultural Studies A (日米文化論A) (2)		
		British Culture and Literature B (イギリス文化・文学研究B) (2)	Japanese and American Cultural Studies B (日米文化論B) (2)		
		American Culture and Literature A (アメリカ文化・文学研究A) (2)	Special Lecture I (特別講義I) (2)		
		American Culture and Literature B (アメリカ文化・文学研究B) (2)	Special Lecture II (特別講義II) (2)		
		Global Understanding IA (国際理解IA) (2)	Special Lecture III (特別講義III) (2)		
		Global Understanding IB (国際理解IB) (2)	Special Lecture IV (特別講義IV) (2)		
		Global Understanding II A (国際理解II A) (2)			
		Global Understanding II B (国際理解II B) (2)			
		8 単位以上選択必修			
教職科目		英語科教育論Ⅰ(2) 英語科教育論Ⅱ(2)	英語科指導法Ⅰ(2) 英語科指導法Ⅱ(2)	教職実践演習(中・高)(2)	
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載				

備考1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。

2. () は該当科目の単位数。

3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。

4. 「英語科教育論Ⅰ」「英語科教育論Ⅱ」「英語科指導法Ⅰ」「英語科指導法Ⅱ」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。

5. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。

外国人留学生の共通総合科目・国際コミュニケーション科目の履修について

外国人留学生に対しては、日本理解の助けとなる「日本事情」「日本語」の科目が共通総合科目と国際コミュニケーション科目にそれぞれ開設されている。

共通総合科目の「日本事情ⅠA」「日本事情ⅠB」「日本事情ⅡA」「日本事情ⅡB」「日本事情ⅢA」「日本事情ⅢB」、国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA」「日本語ⅠAB」「日本語ⅠBA」「日本語ⅠBB」は必修、「日本語と日本社会A」「日本語と日本社会B」「日本語と日本文化A」「日本語と日本文化B」は選択必修となっている。

原則として1・2年次で履修かつ修得すること。

教育課程表（共通総合科目・文学部共通科目）を参照して間違いのないように登録すること。

〈第1部外国人留学生用科目一覧〉

区分	科 目	単 位	履修年次	区 分
共通 総合 科目	日本事情ⅠA（自然）	2	1～4	必修
	日本事情ⅠB（自然）	2		
	日本事情ⅡA（人文）	2		
	日本事情ⅡB（人文）	2		
	日本事情ⅢA（社会）	2		
	日本事情ⅢB（社会）	2		
国際 コミュニ ケーション 科目	日 本 語 Ⅰ A A	1	1	必修
	日 本 語 Ⅰ A B	1		
	日 本 語 Ⅰ B A	1		
	日 本 語 Ⅰ B B	1		
	日本語と日本社会A	2	2	「日本語と日本社会A・B」、 「日本語と日本文化A・B」のうち どちらか一方の組合せ選択必修
	日本語と日本社会B	2		
	日本語と日本文化A	2		
	日本語と日本文化B	2		

※国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA・ⅠAB」「日本語ⅠBA・ⅠBB」「日本語と日本社会A・B」「日本語と日本文化A・B」は通年履修を原則とする。A・Bセットで履修すること。

第1部 他学部他学科開放科目
(専門開放科目) について

第 1 部他学部他学科開放科目（専門開放科目）

〈第 1 部学生用〉

開放科目は、他学部および文学部他学科指定科目より自由に選択し、履修することができる。履修にあたっては、下記の点に注意すること。

1. 他学部他学科開放科目（専門開放科目）は次表に定める科目以外を履修することはできない。
他学部他学科開放科目（専門開放科目）として次表に提示されていない科目を履修する場合は、担当教員の許可を得た上で卒業単位にならない自由科目として履修することができる。
2. 配当学年はその学部学科の配当学年に従うこと。
3. 所属する学科の教育課程表にある科目と同一名称の科目は履修できない。
4. 以前修得した科目については、再度履修することができない。
5. 原則として第 1 部時間帯開講科目のみ履修すること（日本文学文化学科開講科目を除く）。
6. 科目によっては、通年履修科目、隔年開講科目、第 1 部・第 2 部いずれかで開講する科目があるので注意すること（下表参照）。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インドの宗教 A(2) インドの宗教 B(2)	ブッダの思想とその展開 A(2) ブッダの思想とその展開 B(2)
宗教とは何か A(2) 宗教とは何か B(2)	宗教間の差異と対話 A(2) 宗教間の差異と対話 B(2)

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

ヨーガとアーユルヴェーダ(2) 仏教と社会福祉(2)	現代のインド(2) 現代に生きる仏教(2)	インド現代思想(2)
-------------------------------	--------------------------	------------

◇第 1 部・第 2 部いずれかで開講する科目

下記科目は、第 1 部・第 2 部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

万葉文化論 A(2)	王朝文化論 A(2)	室町文化論 A(2)
万葉文化論 B(2)	王朝文化論 B(2)	室町文化論 B(2)
江戸文化論 A(2)	近現代文化論 A(2)	比較言語文化論 A(2)
江戸文化論 B(2)	近現代文化論 B(2)	比較言語文化論 B(2)
日本の古典籍 A(2)	日本民俗学 A(2)	
日本の古典籍 B(2)	日本民俗学 B(2)	

2010年度以降入学生適用 第1部 他学部他学科開放科目(専門開放科目)一覧

区分	学部/学科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
文学・文化系科目	文学部 インド哲学科	インドの宗教 A(2) インドの宗教 B(2) ブッダの思想とその展開 A(2) ブッダの思想とその展開 B(2) 宗教とは何か A(2) 宗教とは何か B(2)	ヨーガとアーユルヴェーダ(2) 現代のインド(2) インド現代思想(2) 仏教と社会福祉(2)	現代に生きる仏教(2) 宗教間の差異と対話 A(2) 宗教間の差異と対話 B(2)	キリスト教とは何か(2) イスラームとは何か(2) 日本の思想(2)	
	文学部 日本文学文化学科	古代日本文学史 A(2) 古代日本文学史 B(2) 中世日本文学史 A(2) 中世日本文学史 B(2)	近世日本文学史 A(2) 近世日本文学史 B(2) 近現代日本文学史 A(2) 近現代日本文学史 B(2) 万葉文化論 A(2) 万葉文化論 B(2) 王朝文化論 A(2) 王朝文化論 B(2) 王室文化論 A(2) 王室文化論 B(2)	江戸文化論 A(2) 江戸文化論 B(2) 近現代文化論 A(2) 近現代文化論 B(2) 比較言語文化論 A(2) 比較言語文化論 B(2)	日本の古典籍 A(2) 日本の古典籍 B(2) 日本の民俗学 B(2)	
	文学部 史学科	古文書学 I(4)		考古学研究(4) 古文書学 II(4) 東洋史学特講(4) 日本史学特講(4) 西洋史学特講(4) 史学概論(4)		
	文学部 教育学科	比較社会論(2) 比較政策論(2)	社会文化史(日本)(2) 社会文化史(西洋)(2)	社会教育課題研究 I(2) 社会教育課題研究 II(2)	アメリカ思想史(2)	
	文学部 類コミュニケーション類	Special Lecture I (特別講義 I) (2)	Special Lecture II (特別講義 II) (2)	Special Lecture III (特別講義 III) (2)	Special Lecture IV (特別講義 IV) (2)	
	国際地域学部 国際地域学科	アジアの地誌と文化(2)	日本の地誌と文化(2) 文化人類学(2)	ヨーロッパの地誌と文化 A(2)	ヨーロッパの地誌と文化 B(2)	
	国際地域学部 国際観光学科		西洋美術史(2)			
	国際地域学部 一般教養的科目	地域と生活(2) 日本の文化と社会(2)	旅と言語(2) 世界の文化と社会(2)	言語と文化 A(2) ヨーロッパの歴史と文化(2)	言語と文化 B(2) 歴史と郷土文化(2)	
	経済学部 経済学科		経済哲学 A(2) 経済哲学 B(2) 現代産業論 A(2) 現代産業論 B(2) 人口経済学 A(2) 人口経済学 B(2)	政治経済学 A(2) 政治経済学 B(2) 現代中小企業論 A(2) 現代中小企業論 B(2)		
	経済学部 国際経済学科	国際関係論 A(2) 国際地域研究(ヨーロッパ) A(2) 国際地域研究(中国) A(2) 国際地域研究(アメリカ) A(2) 国際地域研究(アジア) A(2) 国際関係論 B(2) 国際地域研究(ヨーロッパ) B(2) 国際地域研究(中国) B(2) 国際地域研究(アメリカ) B(2) 国際地域研究(アジア) B(2)	国際貿易論 A(2) 国際貿易論 B(2) 国際公共経済論 A(2) 国際公共経済論 B(2) 開発経済論 A(2) 開発経済論 B(2) 多国籍企業論 A(2) 多国籍企業論 B(2)	日本経済論 A(2) 日本経済論 B(2) 経済発展論 A(2) 経済発展論 B(2) 国際経済システム論 A(2) 国際経済システム論 B(2)	国際金融論 A(2) 国際金融論 B(2) 世界の食料・農業経済 A(2) 世界の食料・農業経済 B(2) 企業の発展と社会 A(2) 企業の発展と社会 B(2)	
経済学部 総合政策学科	市民社会と国家(2)		教育・家族・雇用システム(2)			
国際・社会系科目	経営学部 経営学科		社会政策 A(2) 社会政策 B(2) 現代の産業政策(2)	公民連携と地域政策(2) 環境の制度と政策(2) 廃棄物政策(2)	生き方と働き方の経済(2) 雇用・労働政策(2)	
	経営学部 マーケティング学科		経営財務決定論(2) 投資決定論(2) 国際経営基礎論(2)	国際経営論(2) 意思決定論(2) 公共経営論(2)	企業評価論(2) コーポレートガバナンス論(2) コンプライアンス経営論(2)	
	経営学部 会計ファイナンス学科	金融論(2) 金融システム論(2) ファイナンス論(2)		広告論(2) 現代の広告(2) チェーンストア経営論(2)	マーチャンダイジング論(2) サービス・マーケティング論(2) リレーションシップ・マーケティング(2)	ファッション・マーケティング論(2) 現代のファッション・マーケティング(2)
	経営学部 会計ファイナンス学科		経営監査論(2) 会計監査論(2)	経営分析論(2) 証券投資論(2)		
	法学部 法律学科	法哲学 A(2) 法思想史 A(2)	法哲学 B(2) 政治学原論 A(2) 政治学原論 B(2)	法哲学 B(2)		
	法学部 企業法学科		刑法 A(2) 刑法 B(2)			
	社会学部 社会学科	社会統計学(2)		国際社会学(2)		
	社会学部 社会文化システム学科		日本社会文化論 A(2) 日本社会文化論 B(2)	犯罪社会学 A(2) 犯罪社会学 B(2)		
	社会学部 社会心理学科	社会心理学概論 A(2)		社会心理学概論 B(2)		
	社会学部 社会心理学科		産業組織心理学(2)	環境心理学(2)		

区分	学部/学科	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
国際・社会系科目	国際地域学部 国際地域学科	国際協力論(2) 地域システム論(2) 社会システム哲学(2) アジア・太平洋地域論(2) 映像社会学(2)	都市地理学(2) 社会基盤論(2) 地域産業論 I(2) 経済協力論(2)	社会システム論 I(2) 地域データ分析 I(2) 現代社会論(2)	
	国際地域学部 国際地域学科	国際リビング事情(2) アジアの都市と交通(2) 地域行政サービス(2) 外国語で学ぶ専門科目 I(2) 外国語で学ぶ専門科目 II(2)	地域と国際交流(2) 開発と N G O(2) 商品開発論(2) 地域データ分析 II(2) アジア経済論(2) 地域経済学 I(2) 都市計画(2) 民 事 法(2) 地域金融論(2)	プロジェクト実施・評価(2) 国際技術移転(2) 地域産業論 II(2) 経済地理学(2) 社会システム論 II(2) 地域経済学 II(2) 土地・住宅政策(2) 社会基盤計画・政策(2)	農村地域開発論(2) 国際食糧問題論(2) コミュニティ開発論(2) 外国地誌(2) 安全と危機管理(2) まちづくり手法論(2) 企業法(2) 福祉経済論(2)
	国際地域学部 国際観光学科	歴史と観光(2) ホスピタリティ論(2) 観光マーケティング(2)	環太平洋ツーリズム論(2) 欧州ツーリズム論(2) コンベンション論(2) セレモニー経営論(2) 食品衛生論(2) 顧客マネジメント(2) 余暇・レクリエーション論(2) 環日本海観光文化論(2) 観光行動論(2) 環境法規・政策論(2)	観光行政・政策論(2) レストラン経営論(2) 店舗設計・管理論(2) イベント企画論(2)	北米ツーリズム論(2) ホテル開発論(2) エコツーリズム(2) テーマパーク論(2)
			観光調査・予測理論(2) 観光経済学(2) 経営コンサルタント論(2)	地理情報システム(2) 観光行動モデル(2) 地域財政と観光(2) 国際観光情報論(2)	
	国際地域学部 一般教養の科目	国際政治学入門(2) 日本外交史(2)	観光の歴史(2) キャリアデザイン(2)	都 市 論(2) 日 本 の 近 代 化(2)	
自然・環境系科目	経済学部 総合政策学科			地球環境保全の理論・制度・政策(2) 地球温暖化防止の制度と政策(2)	
	社会学部 社会学科			自然環境論講義(2) 人口居住論講義(2)	
	国際地域学部 国際地域学科	国際環境計画入門(2) エネルギー資源・環境管理(2) 環境システム論(2) 国際エネルギー資源論(2)	地 域 計 画(2) 環境管理適正技術論(2) 環 境 産 業 論(2) 都 市 環 境 論(2)	水 辺 と 環 境(2) 水 と 国 土(2) 資 源 管 理 計 画(2) 環 境 産 業 論(2) 都 市 環 境 論(2)	国土利用と法律(2) 科学技術倫理(2)
	国際地域学部 一般教養の科目			科 学 技 術 論(2) 情 報 社 会 論(2) 技 術 と 産 業 の 社 会 史(2)	
言語・情報系科目	文学部 教育学科			情報化と社会教育(2)	
	社会学部 メディアコミュニケーション科		メディアコミュニケーション学概論A(2) メディアコミュニケーション学概論B(2)	マス・コミュニケーション概論A(2) マス・コミュニケーション概論B(2) 情報学基礎論 A(2) 情報学基礎論 B(2)	
	国際地域学部 国際地域学科			情 報 計 画 法(2) 情 報 マ ネ ジ メ ン ト I(2) 情 報 マ ネ ジ メ ン ト II(2)	
健康・福祉系科目	経済学部 経済学科			医療経済学A(2) 医療経済学B(2)	
	社会学部 社会福祉学科		社会福祉発達史A(2)	社会福祉発達史B(2) 社会 保 障 論 A(2) 社会 保 障 論 B(2) 公 的 扶 助 論(2) 地 域 福 祉 論(2)	
	社会学部 社会心理学科			ス ト レ ス と 健 康 の 科 学 (2)	

文学部副専攻について

文学部副専攻 (2008年度以降第1部入学生適用)

副専攻は、一般教養的科目を系統的に学ぶことで、基礎知識を確立し、学術的見地から考察できる能力や実践的応用力を身に付けるためのコースである。コースごとに教育目標を設定しているため、どのコースを選択するか自ら考え、1年次より計画的に履修し、修得すること。専門課程に留まることなく、より幅広い知識を得ようとする意欲的な学生が多数登録することを期待する。履修方法は、以下の通りである。

1. 全5コースが開設されているが、登録できるのは1人1コースである。登録後のコースの変更はできない。
2. 各コースの登録は2年次以降に行う。「自然の認識コース」の登録は、自然科学演習の登録と同時あるいは、それ以前に行わなければならない。希望者は注意すること。
3. 1年次において既に履修した科目については、さかのぼって副専攻単位として認定する。
4. 副専攻の所定の単位を修得した学生には卒業時に修了証を発行する。
なお、単位修得見込証明書は4年次履修登録終了後、発行することができる。
5. 副専攻の履修を希望する場合は、授業時間割表の学年配当に従って履修すること。

文学部副専攻課程表

日本文化コース(全学科学学生用)

[教育目標]

日本文化コースは、日本の歴史を学び、歴史の流れの中に文学や思想を位置づけ、日本文化の基礎的な知識を身に付けることを目指す。このため、必修科目では、教養演習を履修することで文化を研究するための学術的方法を身に付け、日本史の概観を把握し、文化との結びつきを理解するように科目を配している。選択必修科目では、文化や思想の科目を配し、自ら興味のある分野をより深めるようになっている。「哲学」を配しているのは、哲学の持つ論理性や思考性を学ぶことで、ものの正しさを評価し得る能力を高めるためである。

	区分	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年
認定の要件(30)	必修科目(22)	日本史概説(4) 文学部教養演習(2) 日本文学文化と風土A(2) 日本文学文化と風土B(2) 日本の伝統行事 A(2) 日本の伝統行事 B(2)	地域史(日本) A(2) 地域史(日本) B(2) 日本美術文化史A(2) 日本美術文化史B(2)		
	選択必修科目(8)	哲学A(2) 哲学B(2) 日本の詩歌 A(2) 日本の詩歌 B(2)	百人一首の文化史A(2) 百人一首の文化史B(2) 現代日本文学 A(2) 現代日本文学 B(2)		日本の昔話 A(2) 日本の昔話 B(2)
				日本漢学(4)	

東洋文化コース(全学科学学生用)

[教育目標]

東洋文化コースは、東洋史の概観を把握し、代表的文化である中国およびインドの文化を学び、東洋文化の背景とその展開を理解するよう目指す。このため、必修科目では、教養演習を履修することで文化を研究するための学術的方法を身につけ、中国およびインドの文化史を理解するよう科目を配している。選択必修科目では、専門性を重視した内容になっているので、中国文化かインド文化の選択を自ら行って履修することが望ましい。「哲学」を配しているのは、哲学の持つ論理性や思考性を学ぶことで、ものの正しさを評価し得る能力を高めるためである。

	区分	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年	
認定の要件 (30)	必修科目 (18)	文学部教養演習(2)		地域史(東洋) A(2) 地域史(東洋) B(2)		
		中国文化史概説(2)				
		東洋史概説(4) インドの宗教A(2) インドの宗教B(2)				
		哲 学 A(2)			哲 学 B(2)	
	選択必修科目 (12)	中国文学文化と日本A(2) 中国文学文化と日本B(2)				
		中国学概論(4)		中国哲学史概説(4) 中国文学史概説(4) 中国現代文学史概説(4)		
				インドの芸能(2) インド・仏教の美術(2) 華厳の思想(2) 密教の思想(2)	古代インドの社会(2) インドの風土と文化(2) 禅の思想(2) 念仏の思想(2)	

※1 「インドの宗教A」「インドの宗教B」は、A・Bセットで通年履修を原則とする。

※2 「インドの芸能」「インド・仏教の美術」「古代インドの社会」「インドの風土と文化」「華厳の思想」「密教の思想」「禅の思想」「念仏の思想」は隔年開講となるので注意すること。

西洋文化コース(全学科学学生用)

[教育目標]

西洋文化コースは、主に英語圏文化を基本とし、西洋史の概観を把握して、その文化的背景を理解するよう目指す。このため、必修科目では、教養演習を履修することで文化を研究するための学術的方法を身につけ、西洋の歴史、思想史を学ぶよう科目を配している。選択必修科目では、イギリス・アメリカ文学を通して英語圏文化の特徴を理解するよう科目を配している。また、日本との比較文学文化科目で視野を拡大し、西洋文化の背景にある思想・哲学をも学んで、総合的に西洋文化の理解に努める。

	区分	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年	
認定の要件(30)	必修科目 (14)	文学部教養演習(2) 西洋史概説(4)	哲学史A(2) 哲学史B(2)	地域史(西洋)A(2) 地域史(西洋)B(2)		
	選必 A (4)		英文学特講Ⅰ(4) 英文学特講Ⅱ(4) 英文学特講Ⅲ(4)	} 3科目のうち1科目 以上を選択必修		
	選必 B (4)		米文学特講Ⅰ(4) 米文学特講Ⅱ(4)		} 2科目のうち1科目 以上を選択必修	
	選必 C (8)			哲学A(2) 哲学B(2)	科学思想史A(2) 科学思想史B(2)	
					倫理学概論(4)	
		英語圏文学文化と日本A(2) 英語圏文学文化と日本B(2) フランス語圏文学文化と日本A(2) フランス語圏文学文化と日本B(2)	ドイツ語圏文学文化と日本A(2) ドイツ語圏文学文化と日本B(2)			

英語特別コース(英米文・英語コミュニケーション学科以外の6学科学生用)

[教育目標]

本コースは、高校までに身につけた英語の基礎知識をさらに向上させるとともに、実際の学生生活及び実社会に出てからの実践の場で、すぐに役立つ英語力を習得することを目指している。

英語I、英語II及び Communicative English で基本的四技能（読み・書き・話す・聞く）を磨き、英語III（ビジネス英語・英字新聞講読）及び Practical Writing で実践的応用力を身に付けることができる。

本コースには、英語の資格検定対策用の授業も含まれている。受講者は TOEIC 等の検定試験に積極的に挑戦してもらいたい。

なお、本コースの履修を希望する学生は、下記の授業科目すべてを履修かつ修得しなければならない。

※英米文・英語コミュニケーション学科の学生も、それぞれの教育課程表に掲載されている科目は個別に履修可能である。

	区分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
認定の要件 (22)	必修科目 (22)	英語 I A(2)	英語 II A(2)	英語 III A(2)	
		英語 I B(2)	英語 II B(2)	英語 III B(2)	
		検定英語(4) Practical Writing (2) Communicative English A(2) Communicative English B(2)			

※英語III A・III Bに関しては、隔年開講となる場合がある。

自然の認識コース（全学科学生用）

〔教育目標〕

人間は生命が存在するのにちょうど適した地球や、さらに大きな宇宙という自然環境の中に生存している。そして、物質や物理現象からつねに大きな影響を受けている。

文系学部に所属する学生にとっても、我々をとりまくこの自然を理解し、自然科学の実験・実習・演習などを通して自然に親しむことは、望ましいことである。

そのために、自然科学的な考え方や、自然そのものに触れてみたい学生を対象に、「自然の認識」コースが設置されている。

この副専攻を履修するためには、共通総合科目の自然科学系科目の中から、

- | | |
|--------------------------|------------|
| ①一般講義科目で同一名称のAとBの組合せを | 2組4科目8単位以上 |
| ②他の一般講義科目AまたはB | 1科目2単位以上 |
| ③実験・実習講義科目で同一名称のAとBの組合せを | 2組4科目8単位以上 |
| ④自然科学演習A・Bセットで | 2科目4単位 |

合計 11科目22単位以上を履修しなければならない。

このコースの履修を希望する学生は、4月第1回目の実験・実習講義の授業に出席して、各教員に相談し、指導を受けること。

区 分		第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年	
認定の要件 (22)	選択科目 (18)	一般講義科目(10)	自然の数理 A(2)	生活の科学 A(2)	エネルギーの科学 A(2)	物質の科学 A(2)
			自然の数理 B(2)	生活の科学 B(2)	エネルギーの科学 B(2)	物質の科学 B(2)
	実験実習講義科目 (8)	環境の科学 A(2)	地球の科学 A(2)	生物学 A(2)	天文学 A(2)	
環境の科学 B(2)		地球の科学 B(2)	生物学 B(2)	天文学 B(2)		
	必修科目 (4)	自然科学演習科目 (4)*	自然科学概論 A(2)	自然誌 A(2)		
			自然科学概論 B(2)	自然誌 B(2)		
			物理学実験講義 A(2)	生物学実験講義 A(2)	化学実験講義 A(2)	
			物理学実験講義 B(2)	生物学実験講義 B(2)	化学実験講義 B(2)	
			地球科学実習講義 A(2)	数理・情報実習講義 A(2)	天文学実習講義 A(2)	
			地球科学実習講義 B(2)	数理・情報実習講義 B(2)	天文学実習講義 B(2)	
			自然科学演習 A(2)			
			自然科学演習 B(2)			

※自然科学演習A(2)・B(2)は、第2学年以上でかつ講義科目または実験・実習講義科目を合計8単位以上修得しなければ履修することができないので注意すること。

なお、副専攻の「自然の認識コース」を登録しない学生も履修できる。

注意) 自然科学系科目の講義科目や実験・実習講義科目の中には、抽選によって聴講者数が制限されるものがある。副専攻希望者には、これらを優先的に履修できるように配慮するので、授業時に申し出ること。

Ⅲ 第2部 学科教育課程表および履修方法

第2部 イ ン ド 哲 学 科

インド哲学科の教育理念

東洋大学は今から約120年前の明治20（1887）年、井上円了^{いのうええんりょう}によって哲学館として創設されました。哲学を講ずる私学としては、我が国で最初のことでした。

その設立趣意書には「余資^{よし}なき者」（経済的に余裕のない者）、「優暇^{ゆうか}なき者」（時間的に余裕のない者）のために哲学を教授^{うた}することが謳われ、授業時間は午後1時から午後5時までとなっていました。その翌年には通信教育（館外員制度）もはじまりましたが、この開学のあり方こそ現在の東洋大学の基礎なのです。

そこで講ぜられた哲学とは、学祖円了の言葉をかりれば、「愛理」すなわち真理への愛の学であり、近代科学や東西の哲学に通貫する哲理を意味しました。そして、この愛理を基礎とする教育によって、日本の近代化を成し遂げることができると考えたのです。

円了の「愛理」、すなわち哲学とはこのような諸学の基礎であり、そこから国家社会を建設する根幹となるものでしたが、その中核に置かれていたのは仏教的な「ものの見方」でした。すべてが変わり、人心も移ろう世にあって、柔軟にして変わらぬ「ものの見方」を希求する姿勢こそ、一貫した哲学のあり方でもあります。

また、ここでいう仏教とは、決して一宗一派に偏るものでもありません。長久な歴史に育まれたインドの宗教・哲学を土壌として生まれ、そしてアジア全域に広がった文化的総体としての仏教のことです。この宗教思想と文化を学び、柔軟な思惟方法を身につけ、現代社会を切り開く人材を養成するというのが本学科の教育目的です。そして、ここに私たちの学科を「インド哲学科」と称する理由があるのです。

インド哲学科はこのように建学の精神を継承し、現在に至っていますが、なかでも第2部インド哲学科は学祖の大学創立の理念をそのまま具現していると言ってよいでしょう。こうした誇りをもって、私たちインド哲学科の教員は第2部の教育に取り組んでいますので、みなさんもこの伝統を受け継ぎ、それぞれの「ものの見方」を確立していただきたいと思います。

現在インド哲学科には8名の専任教員がおり、インドの哲学・宗教から東アジアの仏教までをカバーできるようになっています。さらに、特殊な研究分野については外部から講師を招いて、もれなく学べるように配慮しています。このような幅広い分野を一学科で網羅しているのは、我が国でも本学科のみといっても過言ではありません。あとはみなさんの意欲と努力次第です。

インド哲学科には正規の学科目のほかに、「インド思想研究会」「インド文化研究会」などの学科内サークルがあります。学生のみなさんの自主的な課外活動ではありますが、顧問の教員も一緒に学び、お互いに切磋琢磨しています。メンバーは新生はもちろん在校生から大学院生、卒業生まで多様で、ゼミ以上に色々な人間関係を発展させることができます。この意味でもみなさんの積極的な参加を勧めます。

新入生履修ガイド

1. カリキュラムの概要

第2部インド哲学科のカリキュラムは、1) 共通総合科目、2) 文学部共通科目、3) 専門科目の三つの領域からなり、それぞれ、1) 16単位以上、2) 16単位以上、3) 74単位以上の履修かつ修得を義務づけている。

本学科で開講している専門科目は、全員が履修する必修科目(12単位)、選択制の選択必修科目(58単位以上)、履修制限のない選択科目(関連領域科目)に三分されている。このうち選択必修科目は「演習・実技講義・卒業論文(制作)」「インド学領域」「インド学・仏教学共通領域」「仏教学領域」「宗教学領域」の五領域に区分される。それぞれの領域から卒業要件にしたがって履修かつ修得すること。

2. ゼミ履修上の注意

(1) 2年次と3年次のゼミ(インド学仏教学演習I・II)は、インド学系・仏教学系の計2ゼミが2・3年次合同ゼミの形で開講される。選択必修科目であるから、希望に応じて自由に履修かつ修得すること(2・3年次で同一のゼミを履修してもよいし、2・3年次で異なるゼミを履修しても構わない。また、2年次のみ、3年次のみ履修することも可能である)。

(2) 4年次において「卒業論文」あるいは「卒業制作」を履修しようとする場合には、担当の指導教員を決める必要上、3年次にゼミを履修かつ修得しておくことが望ましい。

3. 実技講義科目履修上の注意

(1) 授業を行う教室が通常とは異なる場所になる場合があるので注意すること。

(2) 科目によっては、履修に当たって、別途、費用がかかる場合があるので、講義要項などで事前に確認したうえで履修の手続きをとること。

(3) 「仏教を歩く」は集中講義で行われる予定であるため、日程等について講義要項等で事前に十分確認したうえで履修の手続きをとること。

4. 卒業論文・卒業制作について

提出されたものについて、どれが「卒業論文」でどれが「卒業制作」に当たるなどと区別はしない。具体的には講義要項の「卒業論文(制作)」の項目を参照すること。なお、「卒業論文(制作)」を履修しようとする場合には、あわせて「卒論指導」の科目を履修し、担当の指導教員の指導を受けなければならない。

3年次にゼミを履修しておらず、担当の指導教員が決まっていない場合は、必ずインド哲学科共同研究室に申し出て、その指示に従うこと。履修手続きをして「卒業論文(制作)」を提出しても、指導教員の指導を十分に受けていないと判断された場合には、提出された「卒業論文(制作)」が無効になることがあるので注意すること。

なお、「卒業論文(制作)」は選択必修科目となっているが、大学院進学を志す学生は履修しておくことが望ましい。

5. 第1部開講科目について

第1部設置科目であるが、第2部学生の聴講、履修を認める科目がある。これらの科目については(P. 145)を参照すること。

6. 隔年開講科目について

隔年で開講する科目が多いので、注意して履修すること。これらの科目については(P. 145)を参照すること。

7. その他

インド哲学科独自の奨学金制度に「大法輪育英奨学資金」がある。募集は学年の初めに行う予定である。詳細は募集開始時点でインド哲学科共同研究室前の掲示板に掲示するので、希望者は学科教員に申し出ること。

区 分		文学部 第2部 インド哲学科 卒業要件
共通総合科目 16単位以上	自然科学系科目	16単位以上
	人文科学系科目	
	社会科学系科目	
	スポーツ健康科学系科目	
	情報系科目	
	総合科目	
	留学支援科目	
文学部共通科目 16単位以上	文学部演習科目	
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	4単位以上
	諸資格関連科目	※国際コミュニケーション科目 4単位を含む、 合計 16単位以上
	インターンシップ・ボランティア活動	
	学習支援特別講座	
専門科目 74単位以上	必修科目	12単位
	選択必修科目	58単位以上
	選択科目	
教 職 科 目		
他学部他学科開放科目		
卒業必要単位数合計		124単位

◇4年次の履修について◇

第4学年の必修科目はないが、最終年次に専門科目（「卒業論文（制作）」を含む）のうちから、最低4単位以上を履修かつ修得しなければならない。

第2部インド哲学科

共通総合科目

自然科学系科目
人文科学系科目
社会科学系科目
スポーツ健康科学系科目
情報系科目
総合科目
留学支援科目

共通総合科目は、卒業までに16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ①スポーツ健康科学系科目の授業は、すべて白山キャンパスで開講されます。
- ②「スポーツ健康科学実技」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、16単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

文学部共通科目

文学部演習科目
文学部基礎専門科目
国際コミュニケーション科目
諸資格関連科目
インターンシップ・
ボランティア活動
学習支援特別講座

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目4単位の卒業要件を充たし、合計16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

文学部基礎専門科目

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。
履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能(歌舞伎)(2)	日本出版文化史 A(2)
日本の伝統芸能(能・狂言)(2)	日本出版文化史 B(2)
比較文学文化史 A(2)	韓国文化事情 A(2)
比較文学文化史 B(2)	韓国文化事情 B(2)

国際コミュニケーション科目

英語、ドイツ語、フランス語、中国語の4カ国語から1カ国語以上を選択し、同一言語で4単位以上を履修かつ修得しなければならない。

◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー(英語・中国語)」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語 IAB」「英語 IBB」「英語 IIAB」「英語 IIBB」
「中国語 IAB」「中国語 IBB」「中国語 IIAB」「中国語 IIBB」

※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」(P. 228)を参照すること。

インターンシップ・
ボランティア活動

専 門 科 目

文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、講義要項を参照すること。

インド哲学科専門科目は、卒業までに74単位以上を履修かつ修得しなければならない。この74単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、74単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する。ただし、

4年次に専門科目4単位以上を履修かつ修得しなければならない。この条件を充たせなければ、卒業は認められないので注意すること。

必修科目

必修科目に設置されている全ての科目の単位を履修かつ修得しなければならない。

選択必修科目

選択必修科目は、58単位以上を履修かつ修得しなければならない。この58単位のうち、以下の各領域の卒業要件を充たさなければならない。

科目によっては、第1部インド哲学科開講となっており、また隔年開講科目が多いので、履修の際は十分に注意すること。

演習・実技講義・
卒業論文(制作)領域

演習・実技講義・卒業論文(制作)領域科目は、10単位以上を履修かつ修得しなければならない。

なお、履修にあたっては以下の点に注意すること。

- (1) 実技講義の場合、科目によっては集中講義となる場合や別途経費が必要となる場合があるので、「講義要項」等で十分に確認したうえで履修すること。
- (2) 4年次の「卒業論文(制作)」を履修する場合は、必ず「卒論指導」を併せて履修すること。また、4年次の「卒業論文(制作)」「卒論指導」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。

インド学領域

インド学領域科目は、14単位以上を履修かつ修得しなければならない。

インド学・仏教学共通領域

インド学・仏教学共通領域科目は、10単位以上を履修かつ修得しなければならない。

仏教学領域

仏教学領域科目は、14単位以上を履修かつ修得しなければならない。

宗教学領域

宗教学領域科目は、10単位以上を履修かつ修得しなければならない。

選択科目

選択科目（関連領域科目）を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

〈科目の開講について〉

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インド学仏教学への誘い A(2)	インドの宗教 A(2)
インド学仏教学への誘い B(2)	インドの宗教 B(2)
ブッダの思想とその展開 A(2)	サンスクリット文献を読む A(2)
ブッダの思想とその展開 B(2)	サンスクリット文献を読む B(2)
インド仏教のあゆみ A(2)	仏教文献を読む A(2)
インド仏教のあゆみ B(2)	仏教文献を読む B(2)
中国仏教のあゆみ A(2)	日本仏教のあゆみ A(2)
中国仏教のあゆみ B(2)	日本仏教のあゆみ B(2)
宗教とは何か A(2)	社会と宗教 A(2)
宗教とは何か B(2)	社会と宗教 B(2)
宗教をめぐる諸問題 A(2)	宗教間の差異と対話 A(2)
宗教をめぐる諸問題 B(2)	宗教間の差異と対話 B(2)

◇第1部開講科目

下記科目は、第1部時間帯のみの開講となる。

履修を希望する場合は、第1部時間割を参照すること。

宗教とは何か A(2)	宗教間の差異と対話 A(2)
宗教とは何か B(2)	宗教間の差異と対話 B(2)
キリスト教とは何か(2)	イスラームとは何か(2)

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

古代インドの社会(2)	インドの風土と文化(2)
インド古典哲学 I(2)	ヨーガとアーユルヴェーダ(2)
インド古典哲学 II(2)	ヒンドゥー教とは何か(2)
現代のインド(2)	インド現代思想(2)
インドの芸能(2)	インド美術を見る(2)
初期仏教の思想(2)	密教の思想(2)
大乘仏教の思想 I(2)	東南アジア仏教のあゆみ(2)
大乘仏教の思想 II(2)	チベット仏教のあゆみ(2)
天台の思想(2)	華嚴の思想(2)
禅の思想(2)	念仏の思想(2)
仏教と社会福祉(2)	現代に生きる仏教(2)
仏教美術を見る(2)	

教 職 科 目

他学部他学科開放科目

自 由 科 目

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

比較言語文化論 A (2)	日本民俗学 A (2)
比較言語文化論 B (2)	日本民俗学 B (2)

インド哲学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

別（P. 174）に定める他学部他学科開放科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

インド哲学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、卒業単位にならない自由科目として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第1部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

2008年度以降入学生適用 文学部第2部インド哲学科 教育課程表(共通総合科目)

区 分		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
16 共 通 綜 合 科 目	自然科学系科目	自然の数理 A(2) 生活の科学 A(2) エネルギーの科学 A(2) 物質の科学 A(2) 自然の数理 B(2) 生活の科学 B(2) エネルギーの科学 B(2) 物質の科学 B(2) 環境の科学 A(2) 地球の科学 A(2) 生物学 A(2) 天文学 A(2) 環境の科学 B(2) 地球の科学 B(2) 生物学 B(2) 天文学 B(2) 自然科学概論 A(2) 自然誌 A(2) 生物学実験講義 A(2) 化学実験講義 A(2) 自然科学概論 B(2) 自然誌 B(2) 生物学実験講義 B(2) 化学実験講義 B(2) 数理・情報実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 B(2)			
	人文科学系科目	哲学 A(2) 哲学史 A(2) 倫理学 A(2) 芸術学 A(2) 哲学 B(2) 哲学史 B(2) 倫理学 B(2) 芸術学 B(2) 宗教学 I A(2) 宗教学 II A(2) 東洋思想 A(2) 百人一首の文化史 A(2) 宗教学 I B(2) 宗教学 II B(2) 東洋思想 B(2) 百人一首の文化史 B(2) 日本の昔話 A(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本の詩歌 A(2) 西欧文学 A(2) 日本の昔話 B(2) 日本文学文化と風土 B(2) 日本の詩歌 B(2) 西欧文学 B(2) 現代日本文学 A(2) 地域文化研究 A(2) 地域史 A(2) 歴史の諸問題 A(2) 現代日本文学 B(2) 地域文化研究 B(2) 地域史 B(2) 歴史の諸問題 B(2)			
	社会科学系科目	経済学 A(2) 法 学(2) 政治学 A(2) 社会学 A(2) 経済学 B(2) 日本国憲法(2) 政治学 B(2) 社会学 B(2) 人類学 A(2) 地理学 A(2) 心理学の基礎(2) 人類学 B(2) 地理学 B(2) 社会適応の心理学(2)			
	スポーツ健康科学系科目	スポーツ健康科学実技 A(1) スポーツ健康科学講義 I(2) スポーツ健康科学講義 II A(2) スポーツ健康科学実技 B(1) スポーツ健康科学講義 II B(2)			
	情報系科目	情報化社会と人間(2) コンピュータ・リテラシー A(1) コンピュータ・リテラシー B(1)			
	総合科目	総合 I A(2) 総合 II A(2) 総合 III A(2) 総合 IV A(2) 総合 V A(2) 総合 I B(2) 総合 II B(2) 総合 III B(2) 総合 IV B(2) 総合 V B(2) 総合 VI A(2) 総合 VII A(2) 全学総合 I A(2) 全学総合 II A(2) 総合 VI B(2) 総合 VII B(2) 全学総合 I B(2) 全学総合 II B(2)			
	留学支援科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I(4) Special Course in Advanced TOEFL II(4)		
日本語科目		(協定校並びにISEP加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目) Integrated Japanese I(5) Japanese Reading and Composition I(2) Kanji Literacy I(1) Integrated Japanese II(5) Japanese Reading and Composition II(2) Kanji Literacy II(1) Project Work I(1) Japanese Listening Comprehension I(1) Japanese Culture I(1) Project Work II(1) Japanese Listening Comprehension II(1) Japanese Culture II(1)			

2008 年度以降入学生適用 文学部第 2 部インド哲学科 教育課程表 (文学部共通科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
文学部演習科目	文学部教養演習(2)		情報処理演習 A(1)	情報処理演習 B(1)	
文学部基礎専門科目	生涯学習概論 I(2) 特別支援教育概論 I(2)				
	生涯学習概論 II(2) 特別支援教育概論 II(2)				
	英語圏文学文化と日本 A(2)		ドイツ語圏文学文化と日本 A(2)		
	英語圏文学文化と日本 B(2)		ドイツ語圏文学文化と日本 B(2)		
	フランス語圏文学文化と日本 A(2)		中国文学文化と日本 A(2)		
	フランス語圏文学文化と日本 B(2)		中国文学文化と日本 B(2)		
			児童文学(2)	文芸創作(2)	
	日本の伝統行事 A(2)		日本の伝統芸能(歌舞伎)(2)		
	日本の伝統行事 B(2)		日本の伝統芸能(能・狂言)(2)		
	日本出版文化史 A(2)		比較文学文化史 A(2)	韓国文化事情 A(2)	
	日本出版文化史 B(2)		比較文学文化史 B(2)	韓国文化事情 B(2)	
	家族心理学(2)		児童文化研究(2)		
	女性問題と学習(2)		家庭教育論(2)		
文学部共通科目 16 単位以上	国際コミュニケーション科目 4 単位以上	英語	英語 I A A(1)	英語 II A A(1)	
			英語 I A B(1)	英語 II A B(1)	
			英語 I B A(1)	英語 II B A(1)	
			英語 I B B(1)	英語 II B B(1)	
	ドイツ語		ドイツ語 I A A(1)	ドイツ語 II A A(1)	
			ドイツ語 I A B(1)	ドイツ語 II A B(1)	
			ドイツ語 I B A(1)	ドイツ語 II B A(1)	
			ドイツ語 I B B(1)	ドイツ語 II B B(1)	
	フランス語		フランス語 I A A(1)	フランス語 II A A(1)	
			フランス語 I A B(1)	フランス語 II A B(1)	
			フランス語 I B A(1)	フランス語 II B A(1)	
			フランス語 I B B(1)	フランス語 II B B(1)	
	中国語		中国語 I A A(1)	中国語 II A A(1)	
			中国語 I A B(1)	中国語 II A B(1)	
			中国語 I B A(1)	中国語 II B A(1)	
			中国語 I B B(1)	中国語 II B B(1)	
4カ国語のうち1カ国語4単位以上選択必修					
諸資格関連科目	教育基礎論 I(2)				
	教育基礎論 II(2)				
	社会教育計画論 I(2) 社会教育計画論 II(2) 視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)				
	生涯学習概論(2) 図書館概論(2)		情報サービス概説(2)		
	児童サービス論(2) 図書及び図書館史(2)				
	コミュニケーション論(2) 図書館特論(2)				
			図書館経営論(2) 図書館サービス論(2)	レファレンスサービス演習・情報検索演習(2)	
		図書館資料論(2) 専門資料論(2)	資料組織概説(2) 資料組織演習(2) 情報機器論(2)		
学習指導と学校図書館(2)		学校経営と学校図書館(2)	学校図書館メディアの構成(2)		
読書と豊かな人間性(2)		情報メディアの活用(2)			
インターンシップ・ボランティア活動	インターンシップ(2)		ボランティア活動(2)		
学習支援特別講座	学習支援特別講座 I A(2)		学習支援特別講座 II A(2)		
	学習支援特別講座 I B(2)		学習支援特別講座 II B(2)		

2010年度以降入学生適用 文学部第2部 インド哲学科 教育課程表(専門科目)

区分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
専門科目 74単位以上	必修科目 12単位	インド学仏教学への誘いA(2) インド学仏教学への誘いB(2) インドの宗教A(2) インドの宗教B(2) ブッダの思想とその展開A(2) ブッダの思想とその展開B(2)			
	10単位以上 演習・実技講義・卒業論文(制作)		インド学仏教学演習Ⅰ(2)	インド学仏教学演習Ⅱ(2)	卒業指導(2) 卒業論文(制作)(6)
	14単位以上 インド学領域	サンスクリット文献を読むA(2) サンスクリット文献を読むB(2)	【実技講義科目】 写経のこころ(2) 仏教を歩く(2) ヨーガのこころ(2) 坐禅のこころ(2) 仏教の芸能(2) インド舞踊(2)		
	10単位以上 学共通領域 インド学・仏教		古代インドの社会(2) インド古典哲学Ⅰ(2) ヨーガとアーユルヴェーダ(2) インドの風土と文化(2) インド古典哲学Ⅱ(2) ヒンドゥー教とは何か(2) 現代のインド(2) インドの芸能(2) インド文学(2) インド現代思想(2) インド美術を見る(2)		
	14単位以上 仏教学領域	仏教文献を読むA(2) 仏教文献を読むB(2)	インド仏教のあゆみA(2) 初期仏教の思想(2) 大乘仏教の思想Ⅰ(2) インド仏教のあゆみB(2) 密教の思想(2) 大乘仏教の思想Ⅱ(2) 東南アジア仏教のあゆみ(2) チベット仏教のあゆみ(2)		
	10単位以上 宗教学領域	宗教とは何かA(2) 宗教とは何かB(2) 社会と宗教A(2) 社会と宗教B(2) 宗教をめぐる諸問題A(2) 宗教をめぐる諸問題B(2)	中国仏教のあゆみA(2) 日本仏教のあゆみA(2) 天台の思想(2) 禅の思想(2) 中国仏教のあゆみB(2) 日本仏教のあゆみB(2) 華嚴の思想(2) 念仏の思想(2) 仏教と社会福祉(2) 現代に生きる仏教(2) 仏教美術を見る(2)		
	10単位以上 宗教とは何かA(2) 宗教とは何かB(2) 社会と宗教A(2) 社会と宗教B(2) 宗教をめぐる諸問題A(2) 宗教をめぐる諸問題B(2)	キリスト教とは何か(2) 宗教間の差異と対話A(2) 日本思想(2) イスラームとは何か(2) 宗教間の差異と対話B(2)			
選択科目	関連領域 哲学概論A(2) 哲学概論B(2)	倫理学概論A(2) 倫理学概論B(2) 比較言語文化論A(2) 比較言語文化論B(2)	日本美術文化史A(2) 日本美術文化史B(2) 日本民俗学A(2) 日本民俗学B(2)	心理学概論A(2) 心理学概論B(2)	
教職科目	日本史A(2) 外国史A(2) 自然地理学A(2) 日本史B(2) 外国史B(2) 自然地理学B(2) 人文地理学A(2) 地誌学A(2) 人文地理学B(2) 地誌学B(2)	国際法A(2) 国際法B(2)	政治学原論A(2) 政治学原論B(2)	社会科教育論(2) 社会・地歴指導法Ⅰ(2) 社会・地歴指導法Ⅱ(2) 社会・公民指導法Ⅰ(2) 社会・公民指導法Ⅱ(2)	教職実践演習(中・高)(2)
他学部他学科 開放科目	科目は別表に記載				

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
 2. () は該当科目の単位数。
 3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
 4. 「社会科教育論」「社会・地歴指導法Ⅰ」「社会・地歴指導法Ⅱ」「社会・公民指導法Ⅰ」「社会・公民指導法Ⅱ」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
 5. 4年次の「卒業論文(制作)」「卒論指導」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。
 6. 4年次に専門科目を4単位以上修得すること。もしこの条件を充たせなければ、卒業は認められない。

第 2 部 日本文学文化学科

日本を知ろう！ 日本人を知ろう！

日本文学文化学科は、新しい時代に適合した研究と教育を目標としている。学祖、井上円了は、明治前半期の西洋第一主義の風潮への反省として「東洋を本とし日本を主」とする哲学館・東洋大学を開設した。しかし、それは単なる狭い東洋主義ではなく、「東洋の学を主とし、西洋の学を客とし、彼我、主客を合わせて研究する主義」の提唱であり、教育であった。この主張は現代でも光を失わないものである。

現代日本社会が今後ますます国際化していく状況の中で、いずれの国家・民族にとっても、それぞれの固有の文化（アイデンティティー）をいかに確立継承し、創造するかということは、これからの新しい世紀に必須の課題となるに違いない。日本及び日本人を正しく知るとともに、伝統的な学問・日本文化を正しく継承し、新たに世界から日本を見るという視点を導入した日本文学文化学科の教育内容は、国際化時代にふさわしいものと言える。

◇教育課程（カリキュラム）の特色

日本文学文化学科のカリキュラムには、共通総合科目と文学部共通科目、専門科目、それに開放科目がある。共通総合科目は、各分野に応じて広く文化を学び、考察するものである。文学部共通科目には、図書館司書・学校図書館司書教諭に関する科目が用意されており、各自の目的によって選択できるようになっている。

専門科目は1年次の「基礎演習」、1・2年次の「日本文学文化概説A・B」「日本語概説A・B」が必修科目であり、2年次以降の専門的な演習と「卒業論文」への足がかりとなる。

選択必修科目には、専攻分野別の演習や多彩な講義等多くの科目群が用意されている。各科目群の指定がなされているものもあるが、学年に応じて選択できる。科目群と指定単位数に注意して選択すること。

演習（ゼミナール）は「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」と専門性を深めて展開し、4年次の「卒業論文」へと結実していくことになる。演習の目的は、みずから考え、みずから課題を発見することにある。

これらの演習科目は、日本文学文化学科のカリキュラムの中心である。2年次の「演習Ⅰ」の選択から、「日本語」「古典文学文化」「近現代文学文化」「比較文学文化」という四つの専攻分野が設置され、主としてそれに対応する選択をする。なお「演習Ⅲ」については3年次履修の専攻分野から選択することになる。

選択科目には、国語科、書道科各教員免許状取得のための科目（教職科目）が用意されている。各自の目的に応じて選択できる。

選択必修科目にかかわる専攻分野間は自由に横断的な学習ができるようになっているので、専門性を深めながら、日本文学文化を総合的、包括的に学習できる。いわばフレキシブルな履修システムであるから、各自がそれぞれの明確な学習目標に応じた選択科目を履修することにより、主体的で個性あふれるカリキュラムを作成することが可能である。

開放科目は、他学部・他学科の開放科目であり、日本文学文化学科では、各自の考えにより広範囲な学問分野の学習ができるようになっている。

◇四つの専攻分野

○日本語分野

日本語の過去から現在までのあり方を総合的に研究するとともに、言語学一般や他言語との比較考察も行いながら、これからの日本語のあるべき姿を考察する。そのうえで、日本語に対して深い愛情と適切な批判とを注ぐことができる姿勢を養う。

○古典文学文化分野

古代から近世に至る古典文学を実証的な観点から考察し、そこに表れた日本人の心や文化のかたちを、より深くより豊かに理解していく。そして、日本の文化遺産である古典文学の価値を正しく継承し、さらに次代へ伝えていくことを使命とする。

○近現代文学文化分野

明治期から今日に至るさまざまな文学作品について、多種多様な方法論による分析と考察を試み、その文学の特質や作家の本質を究明する。その過程で、近現代文学文化の問題点や思想性を汲み取り、これからの日本文学や日本人の可能性を模索していく。

○比較文学文化分野

比較文学文化の概念や理念を学ぶとともに、「世界から日本を見る」という視点で、日本を相対化する姿勢を確立する。そして、既成の学問の枠にとらわれることなく、多様な「日本文学文化論」を展開し、国際社会における日本文学文化の意義や可能性を探る。

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

第1部日本文学文化学科と第2部日本文学文化学科で同一科目として設置しており、年度ごとに第1部か第2部のいずれかで開講する科目（P. 157 参照）がある。履修を希望する場合は、開講曜日時に注意すること。

◇第1部日本文学文化学科・通信教育課程日本文学文化学科の科目との相互聴講科目

第2部日本文学文化学科の学生は、40単位を限度として、第1部日本文学文化学科または通信教育課程での開講科目が受講できる。

3部間相互聴講制度による相互聴講科目（P. 158 参照）によって手続きをし、聴講すること。

区 分		文学部 第2部 日本文学文化学科 卒業要件
共通総合科目	自然科学系科目	34単位以上
	人文科学系科目	
	社会科学系科目	
	スポーツ健康科学系科目	
	情報系科目	
	総合科目	
	留学支援科目	
文学部共通科目	文学部演習科目	
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	
	諸資格関連科目	
	インターンシップ・ボランティア活動	
	学習支援特別講座	
専門科目70単位以上	必修科目	14単位
	選択必修科目	56単位以上
	選択科目	
教 職 科 目		
他学部他学科開放科目		
卒業必要単位数合計		124単位

第2部日本文学文化学科

共通総合科目

自然科学系科目
人文科学系科目
社会科学系科目
スポーツ健康科学系科目
情報系科目
総合科目
留学支援科目

共通総合科目および文学部共通科目は、卒業までに合計34単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、34単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ①スポーツ健康科学系科目の授業は、すべて白山キャンパスで開講されます。
- ②「スポーツ健康科学実技」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

文学部共通科目

文学部演習科目
文学部基礎専門科目
国際コミュニケーション科目
諸資格関連科目
インターンシップ・
ボランティア活動
学習支援特別講座

共通総合科目および文学部共通科目は、卒業までに合計34単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、34単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

文学部基礎専門科目

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インド仏教のあゆみ A(2)	中国仏教のあゆみ A(2)
インド仏教のあゆみ B(2)	中国仏教のあゆみ B(2)

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

古代インドの社会(2)	インドの風土と文化(2)
インドの芸能(2)	密教の思想(2)
天台の思想(2)	華嚴の思想(2)
禅の思想(2)	念仏の思想(2)
仏教美術を見る(2)	

国際コミュニケーション科目

◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語 I AB」「英語 I BB」「英語II AB」「英語II BB」
「中国語 I AB」「中国語 I BB」「中国語II AB」「中国語II BB」

※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」(P.228)を参照すること。

インターンシップ・
ボランティア活動

文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、講義要項を参照すること。

専 門 科 目

日本文学文化学科専門科目は、卒業までに70単位以上を履修かつ修得しなければならない。この70単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、70単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する。

必修科目

必修科目に設置されている全ての科目の単位を履修かつ修得しなければならない。

なお、卒業論文は必修であるため、1年次から計画を立て研究室等の指示に注意すること。ただし、4年次の卒業論文の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。

選択必修科目I

選択必修科目Iは、各科目群からそれぞれ定められた科目数以上を選択し、合計36単位以上を履修かつ修得しなければならない。

選択必修科目II

選択必修科目IIは、20単位以上を履修かつ修得しなければならない。

選択科目

選択科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

「創作書道」を履修する場合は、前年度までに「書道Ⅲ」または「書道Ⅳ」を修得していなければならない。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

日本仏教のあゆみA(2)

日本仏教のあゆみB(2)

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能(歌舞伎)(2)	日本の伝統芸能(能・狂言)(2)
日本文学文化実地研究(2)	
日本出版文化史 A(2)	比較文学文化史 A(2)
日本出版文化史 B(2)	比較文学文化史 B(2)
韓国文化事情 A(2)	万葉文化論 A(2)
韓国文化事情 B(2)	万葉文化論 B(2)
王朝文化論 A(2)	室町文化論 A(2)
王朝文化論 B(2)	室町文化論 B(2)
江戸文化論 A(2)	近現代文化論 A(2)
江戸文化論 B(2)	近現代文化論 B(2)
比較言語文化論 A(2)	日本の古典籍 A(2)
比較言語文化論 B(2)	日本の古典籍 B(2)
日本民俗学 A(2)	中国の古典(史記・孟子)(4)
日本民俗学 B(2)	

教 職 科 目

日本文学文化学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

他学部他学科開放科目

別（P.174）に定める他学部他学科開放科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

自 由 科 目

日本文学文化学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、卒業単位にならない自由科目として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第1部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

◇日本文学文化学科 3 部間相互聴講制度による相互聴講科目

日本文学文化学科第 1 部・第 2 部・通信教育部の 3 部間のみ聴講を認める。
同一年度で第 1 部と第 2 部、通信教育部で開講する。

履修条件は、以下の通りである。

(1) 卒業までに 40 単位を超えて履修かつ修得することはできない。ただし、同一の部において 30 単位を超えて履修かつ修得することはできない。

(2) 科目提供主体（第 1 部・通信教育部）の学年配当にしたがって履修しなければならない。

(3) 年間履修最高単位数（48 単位）に算入する。

(4) 履修かつ修得した単位は、専門科目として、卒業単位に算入する。

(5) 履修方法

第 1 部提供科目の履修を希望する場合は、第 2 部の科目と同様に履修登録をすること。

通信教育部提供科目の履修を希望する場合は、通信教育課（浦水会館 1F）の説明を受けて、許可をもらい聴講すること。

(6) 対象科目

1. 第 1 部日本文学文化学科提供科目群

日本文学文化概説 A(2)	日本語概説 A(2)	
日本文学文化概説 B(2)	日本語概説 B(2)	
日本語史(4)	古典文法(4)	現代語文法(4)
古代日本文学史 A(2)	中世日本文学史 A(2)	近世日本文学史 A(2)
古代日本文学史 B(2)	中世日本文学史 B(2)	近世日本文学史 B(2)
近現代日本文学史 A(2)	日本語学特講 A(2)	日本文学文化特講(古典) A(2)
近現代日本文学史 B(2)	日本語学特講 B(2)	日本文学文化特講(古典) B(2)
日本文学文化特講(近現代) A(2)	比較文学文化特講 A(2)	作家作品研究(上代)(4)
日本文学文化特講(近現代) B(2)	比較文学文化特講 B(2)	作家作品研究(中古)(4)
作家作品研究(中世)(4)	作家作品研究(近世)(4)	作家作品研究(近現代)(4)
英語圏文学文化と日本 A(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 A(2)	フランス語圏文学文化と日本 A(2)
英語圏文学文化と日本 B(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 B(2)	フランス語圏文学文化と日本 B(2)
中国文学文化と日本 A(2)	日本の伝統行事 A(2)	日本美術文化史 A(2)
中国文学文化と日本 B(2)	日本の伝統行事 B(2)	日本美術文化史 B(2)
中国の古典(唐詩選・論語)(4)	児童文学(2)	文芸創作(2)

2. 通信教育部日本文学文化学科提供科目群

日本文学文化概説 A(2)	日本語概説 A(2)	
日本文学文化概説 B(2)	日本語概説 B(2)	
日本語史(4)	古典文法(4)	現代語文法(4)
古代日本文学史 A(2)	中世日本文学史 A(2)	近世日本文学史 A(2)
古代日本文学史 B(2)	中世日本文学史 B(2)	近世日本文学史 B(2)
近現代日本文学史 A(2)	日本語学特講 A(2)	日本文学文化特講(古典) A(2)
近現代日本文学史 B(2)	日本語学特講 B(2)	日本文学文化特講(古典) B(2)
日本文学文化特講(近現代) A(2)	比較文学文化特講 A(2)	作家作品研究(上代)(4)
日本文学文化特講(近現代) B(2)	比較文学文化特講 B(2)	作家作品研究(中古)(4)
作家作品研究(中世)(4)	作家作品研究(近世)(4)	作家作品研究(近現代)(4)
英語圏文学文化と日本 A(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 A(2)	フランス語圏文学文化と日本 A(2)
英語圏文学文化と日本 B(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 B(2)	フランス語圏文学文化と日本 B(2)
中国文学文化と日本 A(2)	日本の伝統行事 A(2)	日本美術文化史 A(2)
中国文学文化と日本 B(2)	日本の伝統行事 B(2)	日本美術文化史 B(2)
日本出版文化史 A(2)	比較文学文化史 A(2)	韓国文化事情 A(2)
日本出版文化史 B(2)	比較文学文化史 B(2)	韓国文化事情 B(2)
中国の古典(唐詩選・論語)(4)		
万葉文化論 A(2)	王朝文化論 A(2)	室町文化論 A(2)
万葉文化論 B(2)	王朝文化論 B(2)	室町文化論 B(2)
江戸文化論 A(2)	近現代文化論 A(2)	比較言語文化論 A(2)
江戸文化論 B(2)	近現代文化論 B(2)	比較言語文化論 B(2)
日本の古典籍 A(2)	日本民俗学 A(2)	児童文学(2)
日本の古典籍 B(2)	日本民俗学 B(2)	文芸創作(2)
中国の古典(史記・孟子)(4)		

2008 年度以降入学生適用 文学部第 2 部日本文学文化学科 教育課程表 (共通総合科目)

区 分		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
共通総合科目※	自然科学系科目	自然の数理 A(2) 生活の科学 A(2) エネルギーの科学 A(2) 物質の科学 A(2) 自然の数理 B(2) 生活の科学 B(2) エネルギーの科学 B(2) 物質の科学 B(2) 環境の科学 A(2) 地球の科学 A(2) 生物学 A(2) 天文学 A(2) 環境の科学 B(2) 地球の科学 B(2) 生物学 B(2) 天文学 B(2) 自然科学概論 A(2) 自然誌 A(2) 生物学実験講義 A(2) 化学実験講義 A(2) 自然科学概論 B(2) 自然誌 B(2) 生物学実験講義 B(2) 化学実験講義 B(2) 数理・情報実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 B(2)				
	人文科学系科目	哲学 A(2) 哲学史 A(2) 倫理学 A(2) 芸術学 A(2) 哲学 B(2) 哲学史 B(2) 倫理学 B(2) 芸術学 B(2) 宗教学 I A(2) 宗教学 II A(2) 東洋思想 A(2) 百人一首の文化史 A(2) 宗教学 I B(2) 宗教学 II B(2) 東洋思想 B(2) 百人一首の文化史 B(2) 日本の昔話 A(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本の詩歌 A(2) 西欧文学 A(2) 日本の昔話 B(2) 日本文学文化と風土 B(2) 日本の詩歌 B(2) 西欧文学 B(2) 現代日本文学 A(2) 地域文化研究 A(2) 地域史 A(2) 歴史の諸問題 A(2) 現代日本文学 B(2) 地域文化研究 B(2) 地域史 B(2) 歴史の諸問題 B(2)				
	社会科学系科目	経済学 A(2) 法 学(2) 政治学 A(2) 社会学 A(2) 経済学 B(2) 日本国憲法(2) 政治学 B(2) 社会学 B(2) 人類学 A(2) 地理学 A(2) 心理学の基礎(2) 人類学 B(2) 地理学 B(2) 社会適応の心理学(2)				
	スポーツ健康科学系科目	スポーツ健康科学実技 A(1) スポーツ健康科学講義 I (2) スポーツ健康科学講義 II A(2) スポーツ健康科学実技 B(1) スポーツ健康科学講義 II B(2)				
	情報系科目	情報化社会と人間(2) コンピュータ・リテラシー A(1) コンピュータ・リテラシー B(1)				
	総合科目	総合 I A(2) 総合 II A(2) 総合 III A(2) 総合 IV A(2) 総合 V A(2) 総合 I B(2) 総合 II B(2) 総合 III B(2) 総合 IV B(2) 総合 V B(2) 総合 VI A(2) 総合 VII A(2) 全学総合 I A(2) 全学総合 II A(2) 総合 VI B(2) 総合 VII B(2) 全学総合 I B(2) 全学総合 II B(2)				
	留学支援科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I (4) Special Course in Advanced TOEFL II (4)			
		日本語科目	(協定校並びに ISEP 加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目) Integrated Japanese I (5) Japanese Reading and Composition I (2) Kanji Literacy I (1) Integrated Japanese II (5) Japanese Reading and Composition II (2) Kanji Literacy II (1) Project Work I (1) Japanese Listening Comprehension I (1) Japanese Culture I (1) Project Work II (1) Japanese Listening Comprehension II (1) Japanese Culture II (1)			

※文学部共通科目と合わせて 34 単位以上修得すること。

2008 年度以降入学生適用 文学部第 2 部日本文学文化学科 教育課程表 (文学部共通科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
文学部演習科目	文学部教養演習(2)		情報処理演習 A(1)	情報処理演習 B(1)	
文学部基礎専門科目			インドの芸能(2) インド文学(2) 古代インドの社会(2) 仏教美術を見る(2) インドの風土と文化(2) 天台の思想(2) 華嚴の思想(2) 禪の思想(2) 密教の思想(2) 念仏の思想(2) 中国仏教のあゆみ A(2) インド仏教のあゆみ A(2) 中国仏教のあゆみ B(2) インド仏教のあゆみ B(2)		
	生涯学習概論 I(2)		特別支援教育概論 I(2)		
	生涯学習概論 II(2)		特別支援教育概論 II(2)		
	心理学概論 A(2)		家族心理学(2)	児童文化研究(2)	
	心理学概論 B(2)		女性問題と学習(2)	家庭教育論(2)	
文学部共通科目※	英語	英語 I A A(1)	英語 II A A(1)		
		英語 I A B(1)	英語 II A B(1)		
		英語 I B A(1)	英語 II B A(1)		
		英語 I B B(1)	英語 II B B(1)		
	ドイツ語	ドイツ語 I A A(1)	ドイツ語 II A A(1)		
		ドイツ語 I A B(1)	ドイツ語 II A B(1)		
		ドイツ語 I B A(1)	ドイツ語 II B A(1)		
		ドイツ語 I B B(1)	ドイツ語 II B B(1)		
	フランス語	フランス語 I A A(1)	フランス語 II A A(1)		
		フランス語 I A B(1)	フランス語 II A B(1)		
		フランス語 I B A(1)	フランス語 II B A(1)		
		フランス語 I B B(1)	フランス語 II B B(1)		
	中国語	中国語 I A A(1)	中国語 II A A(1)		
		中国語 I A B(1)	中国語 II A B(1)		
		中国語 I B A(1)	中国語 II B A(1)		
		中国語 I B B(1)	中国語 II B B(1)		
諸資格関連科目	教育基礎論 I(2)				
	教育基礎論 II(2)				
	社会教育計画論 I(2)		社会教育計画論 II(2)	視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)	
	生涯学習概論(2) 図書館概論(2) 情報サービス概説(2)				
	児童サービス論(2) 図書及び図書館史(2)				
	コミュニケーション論(2) 図書館特論(2)				
	図書館経営論(2) 図書館サービス論(2)		レファレンスサービス演習・情報検索演習(2)		
	図書館資料論(2) 専門資料論(2) 資料組織概説(2) 資料組織演習(2) 情報機器論(2)				
	学習指導と学校図書館(2)		学校経営と学校図書館(2)	学校図書館メディアの構成(2)	
	読書と豊かな人間性(2)		情報メディアの活用(2)		
インターンシップ・ボランティア活動	インターンシップ(2)		ボランティア活動(2)		
学習支援特別講座	学習支援特別講座 I A(2)		学習支援特別講座 II A(2)		
	学習支援特別講座 I B(2)		学習支援特別講座 II B(2)		

※共通総合科目と合わせて 34 単位以上修得すること。

2010年度以降入学生適用 文学部第2部日本文学文化学科 教育課程表（専門科目）

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
専 門 科 目 70 単 位 以 上	14 必 修 科 目 単 位	日本文学文化概説A(2) 日本文学文化概説B(2) 基礎演習(2)	日本語概説A(2) 日本語概説B(2)	卒業論文(4)	
	選 択 必 修 科 目 I 36 単 位 以 上		日本語学演習Ⅰ(2) 古典文学文化演習Ⅰ(2) 近現代文学文化演習Ⅰ(2) 比較文学文化演習Ⅰ(2) 1科目2単位選択必修	日本語学演習Ⅱ(2) 古典文学文化演習Ⅱ(2) 近現代文学文化演習Ⅱ(2) 比較文学文化演習Ⅱ(2) 2科目4単位選択必修	日本語学演習Ⅲ(2) 古典文学文化演習Ⅲ(2) 近現代文学文化演習Ⅲ(2) 比較文学文化演習Ⅲ(2) 1科目2単位選択必修
			日本語史(4)	古典文法(4)	現代語文法(4) 1科目4単位以上選択必修
	選 択 必 修 科 目 II 20 単 位 以 上	古代日本文学史A(2) 古代日本文学史B(2) 近世日本文学史A(2) 近世日本文学史B(2)	中世日本文学史A(2) 中世日本文学史B(2) 近現代日本文学史A(2) 近現代日本文学史B(2) 2科目4単位以上選択必修	日本語学特講A(2) 日本語学特講B(2) 日本文学文化特講(近現代)A(2) 日本文学文化特講(近現代)B(2)	日本文学文化特講(古典)A(2) 日本文学文化特講(古典)B(2) 比較文学文化特講A(2) 比較文学文化特講B(2) 4科目8単位以上選択必修
		作家作品研究(上代)(4) 作家作品研究(近世)(4)	作家作品研究(中古)(4) 作家作品研究(近現代)(4)	作家作品研究(中世)(4) 2科目8単位以上選択必修	
		英語圏文学文化と日本A(2) 英語圏文学文化と日本B(2) フランス語圏文学文化と日本A(2) フランス語圏文学文化と日本B(2)	ドイツ語圏文学文化と日本A(2) ドイツ語圏文学文化と日本B(2) 中国文学文化と日本A(2) 中国文学文化と日本B(2) 2科目4単位以上選択必修		
選 択 必 修 科 目 II 20 単 位 以 上	日本の伝統行事A(2) 日本の伝統行事B(2) 日本美術文化史A(2) 日本美術文化史B(2)	日本の伝統芸能(歌舞伎)(2) 日本の伝統芸能(能・狂言)(2) 日本出版文化史A(2) 日本出版文化史B(2) 万葉文化論A(2) 万葉文化論B(2) 王朝文化論A(2) 王朝文化論B(2) 室町文化論A(2) 室町文化論B(2) 江戸文化論A(2) 江戸文化論B(2) 近現代文化論A(2) 近現代文化論B(2) 比較言語文化論A(2) 比較言語文化論B(2) 日本の古典籍A(2) 日本の古典籍B(2) 日本民俗学A(2) 日本民俗学B(2) 児童文学(2) 中国の古典(史記・孟子)(4) 文芸創作(2) 日本の思想(2) 中国の古典(唐詩選・論語)(4)	日本仏教のあゆみA(2) 日本仏教のあゆみB(2)	韓国文化事情A(2) 韓国文化事情B(2)	
選 択 科 目	書道Ⅰ(2)	書道Ⅱ(2) 書道史A(2) 書道史B(2)	書道Ⅲ(2) 書道Ⅳ(2)	書論A(2) 書論B(2) 創作書道(2)	
教職科目		国語科教育論(2)	国語科指導法Ⅰ(2) 国語科指導法Ⅱ(2) 書道科指導法Ⅰ(2) 書道科指導法Ⅱ(2)	教職実践演習(中・高)(2)	
他学部他学科 開放科目	科目は別表に記載				

- 備考 1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
 2. ()は該当科目の単位数。
 3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
 4. 「国語科教育論」「国語科指導法Ⅰ」「国語科指導法Ⅱ」「書道科指導法Ⅰ」「書道科指導法Ⅱ」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
 5. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。
 6. 「創作書道」の履修は「書道Ⅲ」または「書道Ⅳ」の単位を修得した学生に限る。

第 2 部 教 育 学 科

明日のための教育学 ―ともに学び、ともに育つ―

教育学とは、人間が学び、生涯にわたって「よりよく生きる」ことを支える学問です。学校教育や特別支援教育、社会教育などの研究領域で、「人間にとって学びとは何か」「発達とは何か」「学びや発達をどう支えるか」など、さまざまな問いが立てられ、研究が進められています。

東洋大学文学部教育学科は、これまで「人間の発達」を生涯にわたるものとしてとらえ、人々の豊かな暮らしや住みよい社会の実現に貢献する学生を育ててきました。そして、現代社会が抱える諸問題の解決に他者と協働しながら創造的に取り組むことのできる21世紀のリーダーを送り出すため、2008年4月にカリキュラムを一新して、あらたなスタートを切りました。

こうした考えのもと、教育学科では、次のような目標を設定し、カリキュラムを用意しました。

1. 課題を主体的に解決するための「生涯学習基礎力」

「人間の発達」を、直線的な心身の成長だけではなく、生涯にわたる人間の変化そのものとしてとらえ、研究の対象とする。人や社会、文化に対する理解を深め、現代社会が直面する課題を主体的に解決する力を身につける。一元的な考え方にとらわれない開かれた感覚と知性、つまり「生涯学習基礎力」の獲得をめざす。

2. 5つの領域に対応する専門的力量

- (1) 教育の基礎
- (2) 心理学と発達臨床
- (3) 社会教育
- (4) 学校教育
- (5) 特別支援教育

区 分		文学部 第2部 教育学科 卒業要件	
共通総合科目 16単位以上	自然科学系科目	16単位以上	
	人文科学系科目		
	社会科学系科目		
	スポーツ健康科学系科目		
	情報系科目		
	総合科目		
	留学支援科目		
文学部共通科目 16単位以上	文学部演習科目	※国際コミュニケーション科目4単位を含む、 合計16単位以上	
	文学部基礎専門科目		
	国際コミュニケーション科目		4単位以上
	諸資格関連科目		
	インターンシップ・ボランティア活動		
	学習支援特別講座		
74 74 専 門 科 目 上	必修科目	32単位	
	選択科目	42単位以上	
教 職 科 目			
他学部他学科開放科目			
卒業必要単位数合計		124単位	

第 2 部教育学科

共通総合科目

自然科学系科目
 人文科学系科目
 社会科学系科目
 スポーツ健康科学系科目
 情報系科目
 総合科目
 留学支援科目

文学部共通科目

文学部演習科目
 文学部基礎専門科目
 国際コミュニケーション科目
 諸資格関連科目
 インターンシップ・
 ボランティア活動
 学習支援特別講座

文学部基礎専門科目

共通総合科目は、卒業までに 16 単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、16 単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ①スポーツ健康科学系科目の授業は、すべて白山キャンパスで開講されます。
- ②「スポーツ健康科学実技」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、16 単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目 4 単位の卒業要件を充たし、合計 16 単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、16 単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。
 履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インド仏教のあゆみ A(2) インド仏教のあゆみ B(2)	中国仏教のあゆみ A(2) 中国仏教のあゆみ B(2)
日本仏教のあゆみ A(2) 日本仏教のあゆみ B(2)	

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。
 履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

古代インドの社会(2) インドの芸能(2) 天台の思想(2) 禅の思想(2) 仏教美術を見る(2)	インドの風土と文化(2) 密教の思想(2) 華嚴の思想(2) 念仏の思想(2)
---	--

◇第 1 部・第 2 部いずれかで開講する科目

下記科目は、第 1 部・第 2 部いずれかでの開講となる。
 履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能(歌舞伎)(2) 日本の伝統芸能(能・狂言)(2) 比較文学文化史 A(2) 比較文学文化史 B(2)	日本出版文化史 A(2) 日本出版文化史 B(2) 韓国文化事情 A(2) 韓国文化事情 B(2)
---	--

国際コミュニケーション科目

英語、ドイツ語、フランス語、中国語の4カ国語から1カ国語以上を選択し、同一言語で4単位以上を履修かつ修得しなければならない。

◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語 I AB」「英語 I BB」「英語 II AB」「英語 II BB」
「中国語 I AB」「中国語 I BB」「中国語 II AB」「中国語 II BB」

※セミナーの詳細は、「V留学制度について」(P.228)を参照すること。

インターンシップ・ボランティア活動

文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。
詳細は、講義要項を参照すること。

専 門 科 目

教育学科専門科目は、卒業までに74単位以上を履修かつ修得しなければならない。これらは、各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、74単位を超過して履修かつ修得した選択科目の単位数も、卒業単位として算入する。

必修科目

必修科目に設置されている全ての科目の単位を履修かつ修得しなければならない。

なお、卒業論文は必修である。ただし、4年次の卒業論文の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の学生に限る。

選択科目

選択科目は、42単位以上を履修かつ修得しなければならない。

選択科目の科目群は、将来の進路選択に関連づけて科目を選びやすいように分類してある。教育職員免許状取得希望者は、「教職課程を学ぶにあたって」(P.178)、社会教育主事資格取得希望者は、諸資格 (P.217) を参照すること。

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。
履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

倫理と教育(2)	病弱児の病理と臨床(2)
病弱児の指導法(2)	視覚障害教育総論(2)
聴覚障害教育総論(2)	肢体不自由教育総論(2)

教職に関する科目の読替

下表の左欄の教育学科専門科目は、履修かつ修得した後、右欄の教職に関する科目に読み替えることができ、卒業単位としても認められる。

ただし、下表の右欄の教職に関する科目を履修かつ修得しても、左欄の教育学科専門科目に読み替えることはできない。また、卒業単位としても認められない。

教育学科の専門科目 (卒業単位に認められる)	単位数	読替となる教職に関する科目 (卒業単位に認められない)	単位数
教職論	2	教職概論	2
教育学概論	2	教育基礎論I	2
学校教育社会学	2	教育基礎論II	2
教育心理学概論	2	教育心理学	2
特別活動の理論と方法	2	特別活動の研究	2
教育方法論 (情報機器及び教材の活用を含む)	2	教育方法研究 (情報機器の活用を含む)	2
教育相談の理論と方法	2	教育相談	2

教 職 科 目

教育学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

他学部他学科開放科目

別（P.174）に定める他学部他学科開放科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

自 由 科 目

教育学科教育課程表にない科目で、かつ、前項の他学部他学科開放科目として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、卒業単位にならない自由科目として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第1部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

◇文学部第1部・第2部相互聴講実施要領

第1部教育学科と第2部教育学科の両方で、同一年度で開講されている下表の科目についてのみ、相互聴講を認める。

履修条件は、以下の通りである。

- (1) 卒業までに30単位を超えて履修かつ修得することはできない。
- (2) 第1部教育学科の教育課程表の学年配当にしたがって履修しなければならない。
- (3) 年間履修最高単位数(48単位)に算入する。
- (4) 履修かつ修得した単位は、専門科目として、卒業単位数に算入する。
- (5) 履修方法

第1部開講科目の履修を希望する場合は、第2部の科目と同様に、履修登録をすること。

(6) 対象科目

心理学概論 A(2)	特別支援教育概論Ⅱ(2)	社会教育課題研究Ⅰ(2)
心理学概論 B(2)	知的障害教育総論(2)	社会教育課題研究Ⅱ(2)
社会文化史(日本)(2)		社会教育計画論Ⅰ(2)
社会文化史(西洋)(2)		社会教育計画論Ⅱ(2)
文化地誌学(2)		視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)
比較社会論(2)		家庭教育論(2)
アメリカ思想史(2)		女性問題と学習(2)
		情報化と社会教育(2)

2008年度以降入学生適用 文学部第2部教育学科 教育課程表(共通総合科目)

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
16 単 位 以 上 共 通 綜 合 科 目	自然科学系科目	自然の数理 A(2) 生活の科学 A(2) エネルギーの科学 A(2) 物質の科学 A(2) 自然の数理 B(2) 生活の科学 B(2) エネルギーの科学 B(2) 物質の科学 B(2) 環境の科学 A(2) 地球の科学 A(2) 生物学 A(2) 天文学 A(2) 環境の科学 B(2) 地球の科学 B(2) 生物学 B(2) 天文学 B(2) 自然科学概論 A(2) 自然誌 A(2) 生物学実験講義 A(2) 化学実験講義 A(2) 自然科学概論 B(2) 自然誌 B(2) 生物学実験講義 B(2) 化学実験講義 B(2) 数理・情報実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 B(2)			
	人文科学系科目	哲学 A(2) 哲学史 A(2) 倫理学 A(2) 芸術学 A(2) 哲学 B(2) 哲学史 B(2) 倫理学 B(2) 芸術学 B(2) 宗教学 I A(2) 宗教学 II A(2) 東洋思想 A(2) 百人一首の文化史 A(2) 宗教学 I B(2) 宗教学 II B(2) 東洋思想 B(2) 百人一首の文化史 B(2) 日本の昔話 A(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本の詩歌 A(2) 西欧文学 A(2) 日本の昔話 B(2) 日本文学文化と風土 B(2) 日本の詩歌 B(2) 西欧文学 B(2) 現代日本文学 A(2) 地域文化研究 A(2) 地域史 A(2) 歴史の諸問題 A(2) 現代日本文学 B(2) 地域文化研究 B(2) 地域史 B(2) 歴史の諸問題 B(2)			
	社会科学系科目	経済学 A(2) 法 学(2) 政治学 A(2) 社会学 A(2) 経済学 B(2) 日本国憲法(2) 政治学 B(2) 社会学 B(2) 人類学 A(2) 地理学 A(2) 心理学の基礎(2) 人類学 B(2) 地理学 B(2) 社会適応の心理学(2)			
	スポーツ健康科学系科目	スポーツ健康科学実技 A(1) スポーツ健康科学講義 I (2) スポーツ健康科学講義 II A(2) スポーツ健康科学実技 B(1) スポーツ健康科学講義 II B(2)			
	情報系科目	情報化社会と人間(2) コンピュータ・リテラシー A(1) コンピュータ・リテラシー B(1)			
	総合科目	総合 I A(2) 総合 II A(2) 総合 III A(2) 総合 IV A(2) 総合 V A(2) 総合 I B(2) 総合 II B(2) 総合 III B(2) 総合 IV B(2) 総合 V B(2) 総合 VI A(2) 総合 VII A(2) 全学総合 I A(2) 全学総合 II A(2) 総合 VI B(2) 総合 VII B(2) 全学総合 I B(2) 全学総合 II B(2)			
	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I(4) Special Course in Advanced TOEFL II(4)			
	留學支 援科 目	日本語 科目	(協定校並びにISEP加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目) Integrated Japanese I(5) Japanese Reading and Composition I(2) Kanji Literacy I(1) Integrated Japanese II(5) Japanese Reading and Composition II(2) Kanji Literacy II(1) Project Work I(1) Japanese Listening Comprehension I(1) Japanese Culture I(1) Project Work II(1) Japanese Listening Comprehension II(1) Japanese Culture II(1)		

2008 年度以降入学生適用 文学部第 2 部教育学科 教育課程表 (文学部共通科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
文学部	文学部演習科目	文学部教養演習(2)		情報処理演習 A(1) 情報処理演習 B(1)	
	文学部基礎専門科目	インドの芸能(2) インド文学(2) 古代インドの社会(2) 仏教美術を見る(2) インドの風土と文化(2) 天台の思想(2) 華嚴の思想(2) 禅の思想(2) 密教の思想(2) 念仏の思想(2) 中国仏教のあゆみ A(2) 日本仏教のあゆみ A(2) インド仏教のあゆみ A(2) 中国仏教のあゆみ B(2) 日本仏教のあゆみ B(2) インド仏教のあゆみ B(2) 児童文学(2) 文芸創作(2)			
		英語圏文学文化と日本 A(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 A(2)		
		英語圏文学文化と日本 B(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 B(2)		
	フランス語圏文学文化と日本 A(2)	中国文学文化と日本 A(2)			
	フランス語圏文学文化と日本 B(2)	中国文学文化と日本 B(2)			
	日本の伝統行事 A(2)	日本の伝統芸能(歌舞伎)(2)	日本美術文化史 A(2)		
	日本の伝統行事 B(2)	日本の伝統芸能(能・狂言)(2)	日本美術文化史 B(2)		
	日本出版文化史 A(2)	比較文学文化史 A(2)	韓国文化事情 A(2)		
	日本出版文化史 B(2)	比較文学文化史 B(2)	韓国文化事情 B(2)		
共通科目	国際コミュニケーション科目 4 単位以上	英語	英語 I A A(1) 英語 I A B(1) 英語 I B A(1) 英語 I B B(1)	英語 II A A(1) 英語 II A B(1) 英語 II B A(1) 英語 II B B(1)	
		ドイツ語	ドイツ語 I A A(1) ドイツ語 I A B(1) ドイツ語 I B A(1) ドイツ語 I B B(1)	ドイツ語 II A A(1) ドイツ語 II A B(1) ドイツ語 II B A(1) ドイツ語 II B B(1)	
		フランス語	フランス語 I A A(1) フランス語 I A B(1) フランス語 I B A(1) フランス語 I B B(1)	フランス語 II A A(1) フランス語 II A B(1) フランス語 II B A(1) フランス語 II B B(1)	
		中国語	中国語 I A A(1) 中国語 I A B(1) 中国語 I B A(1) 中国語 I B B(1)	中国語 II A A(1) 中国語 II A B(1) 中国語 II B A(1) 中国語 II B B(1)	
	4 カ国語のうち 1 カ国語 4 単位以上選択必修				
諸資格関連科目	生涯学習概論(2) 図書館概論(2) 情報サービス概説(2) 児童サービス論(2) 図書及び図書館史(2) コミュニケーション論(2) 図書館特論(2)				
			図書館経営論(2) 図書館サービス論(2) レファレンスサービス演習・情報検索演習(2) 図書館資料論(2) 専門資料論(2) 資料組織概説(2) 資料組織演習(2) 情報機器論(2)		
	学習指導と学校図書館(2) 読書と豊かな人間性(2)	学校経営と学校図書館(2)	学校図書館メディアの構成(2) 情報メディアの活用(2)		
インターンシップ・ボランティア活動	インターンシップ(2)		ボランティア活動(2)		
学習支援特別講座	学習支援特別講座 I A(2) 学習支援特別講座 I B(2)		学習支援特別講座 II A(2) 学習支援特別講座 II B(2)		

2010 年度以降入学生適用 文学部第 2 部教育学科 教育課程表（専門科目）

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
専 門 科 目 74 単 位 以 上	必修科目 32 単 位	教育学概論(2) 教育心理学概論(2) 生涯学習概論Ⅰ(2) 教職論(2) 生涯発達心理学(2) 特別支援教育概論Ⅰ(2)	教育学ゼミナールⅡ(4)	教育学卒論ゼミナール(2) 卒業論文(6)	
		教育学入門ゼミナール(2) 教職総合ゼミナール(2)			教育学ゼミナールⅠ(4)
	選 択 科 目 42 単 位 以 上	基礎の教育の	教育の現代的課題(2) 学校教育社会学(2) 比較社会論(2) 倫理と教育(2) 社会文化史(日本)(2) アメリカ思想史(2) 比較政策論(2) 社会文化史(西洋)(2) 文化地誌学(2)		
		発達心理学と臨床	カウンセリングの理論と実際(2) 心理学概論 A(2) 心理学概論 B(2)	教育相談の理論と方法(2) 家族心理学(2) 発達障害児・者の心理(2)	
		社会教育	生涯学習概論Ⅱ(2) 女性問題と学習(2) 情報化と社会教育(2) 家庭教育論(2) 視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)	社会教育課題研究Ⅰ(2) 社会教育課題研究Ⅱ(2) 社会教育計画論Ⅰ(2) 社会教育計画論Ⅱ(2)	
		学校教育	教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2) 特別活動の理論と方法(2)	児童文化研究(2) 教育課程論(2)	
		特別支援教育	特別支援教育概論Ⅱ(2) 知的障害教育総論(2) 視覚障害教育総論(2) 聴覚障害教育総論(2) 肢体不自由教育総論(2) 病弱児の指導法(2) 知的障害児・者の心理と臨床(2)	知的障害教育課程論(2) 病弱児の病理と臨床(2) 肢体不自由教育課程論(2) 肢体不自由児・者の教育臨床(2) 肢体不自由児の指導法(2)	特別支援学校教育実習 (事前・事後指導を含む)(4)
	教職科目	経済史 A(2) 経済史 B(2) 経済学入門 A(2) 経済学入門 B(2)	政治学原論 A(2) 国際法 A(2) 政治学原論 B(2) 国際法 B(2) 生徒指導論(進路指導論を含む)(2)	道徳教育の研究(2)	教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5) 教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)(3) 教職実践演習(中・高)(2)
		日本史 A(2) 外国史 A(2) 人文地理学 A(2) 日本史 B(2) 外国史 B(2) 人文地理学 B(2) 地誌学 A(2) 民法 A(2) 自然地理学 A(2) 地誌学 B(2) 民法 B(2) 自然地理学 B(2) 哲学概説 A(2) 倫理学概説 A(2) 哲学概説 B(2) 倫理学概説 B(2)			
	他学部他学科 開放科目	科目は別表に記載			

備考 1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。

2. ()は該当科目の単位数。

3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。

4. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が 48 単位以下の学生に限る。

第2部 他学部他学科開放科目について

第2部他学部他学科開放科目 〈第2部学生用〉

開放科目は、他学部および文学部他学科指定科目より自由に選択し、履修することができる。履修にあたっては、下記の点に注意すること。

1. 他学部他学科開放科目は次表に定める科目以外を履修することはできない。
他学部他学科開放科目として次表に提示されていない科目を履修する場合は、担当教員の許可を得た上で卒業単位にならない自由科目として履修することができる。
2. 配当学年はその学部学科の配当学年に従うこと。
3. 所属する学科の教育課程表にある科目と同一名称の科目は履修できない。
4. 以前修得した科目については、再度履修することができない。
5. 原則として第2部時間帯開講科目のみ履修すること（日本文学文化学科開講科目を除く）。
6. 科目によっては、通年履修科目、隔年開講科目、第1部・第2部いずれかで開講する科目があるので注意すること（下表参照）。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インドの宗教 A(2)	ブッダの思想とその展開 A(2)
インドの宗教 B(2)	ブッダの思想とその展開 B(2)
社会と宗教 A(2)	宗教をめぐる諸問題 A(2)
社会と宗教 B(2)	宗教をめぐる諸問題 B(2)

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

ヨーガとアーユルヴェーダ(2)	現代のインド(2)	インド現代思想(2)
仏教と社会福祉(2)	現代に生きる仏教(2)	

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

万葉文化論 A(2)	王朝文化論 A(2)	室町文化論 A(2)
万葉文化論 B(2)	王朝文化論 B(2)	室町文化論 B(2)
江戸文化論 A(2)	近現代文化論 A(2)	比較言語文化論 A(2)
江戸文化論 B(2)	近現代文化論 B(2)	比較言語文化論 B(2)
日本の古典籍 A(2)	日本民俗学 A(2)	
日本の古典籍 B(2)	日本民俗学 B(2)	

2010年度以降入学生適用 第2部 他学部他学科開放科目一覧

学部/学科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
文学部 インド哲学科	インドの宗教 A(2) インドの宗教 B(2) ブッダの思想とその展開 A(2) ブッダの思想とその展開 B(2) 社会と宗教 A(2) 社会と宗教 B(2) 宗教をめぐる諸問題 A(2) 宗教をめぐる諸問題 B(2)	ヨーガとアーユルヴェーダ(2) 現代のインド(2)	インド現代思想(2) 仏教と社会福祉(2)	現代に生きる仏教(2) 日本の思想(2)
文学部 日本文学文化学科	古代日本文学史 A(2) 古代日本文学史 B(2) 中世日本文学史 A(2) 中世日本文学史 B(2)	近世日本文学史 A(2) 近世日本文学史 B(2) 近現代日本文学史 A(2) 近現代日本文学史 B(2) 万葉文化論 A(2) 万葉文化論 B(2) 王朝文化論 A(2) 王朝文化論 B(2) 室町文化論 A(2) 室町文化論 B(2)	江戸文化論 A(2) 江戸文化論 B(2) 近現代文化論 A(2) 近現代文化論 B(2) 比較言語文化論 A(2) 比較言語文化論 B(2)	日本の古典籍 A(2) 日本の古典籍 B(2) 日本民俗学 A(2) 日本民俗学 B(2)
文学部 教育学科	比較社会論(2) 比較政策論(2)	社会文化史(日本)(2) 社会文化史(西洋)(2)	アメリカ思想史(2) 情報化と社会教育(2)	社会教育課題研究 I(2) 社会教育課題研究 II(2)
経済学部 経済学科	比較文化社会 A(2) 比較文化社会 B(2)	経済哲学 A(2) 経済哲学 B(2) 国際金融論 A(2) 国際金融論 B(2) 現代産業論 A(2) 現代産業論 B(2)	経済発展論 A(2) 経済発展論 B(2) 多国籍企業論 A(2) 多国籍企業論 B(2)	国際貿易論 A(2) 国際貿易論 B(2) 日本経済論 A(2) 日本経済論 B(2)
経営学部 経営学科	経営財務論(2) 投資決定論(2) 経営組織論(2)	組織行動論(2) 経営史 A(2) 経営史 B(2)	中小企業経営論 A(2) 中小企業経営論 B(2) 環境マネジメント入門(2)	環境マネジメント(2) 経営分析論(2)
法学部 法律学科	法制史(日本) A(2) 法制史(日本) B(2)	法制史(西洋) A(2) 法制史(西洋) B(2) 英米法 A(2) 英米法 B(2) ドイツ法 A(2) ドイツ法 B(2) フランス法 A(2) フランス法 B(2) 行政学 A(2) 行政学 B(2)	法哲学 A(2) 法哲学 B(2) 労使関係法・労働市場法 A(2) 労使関係法・労働市場法 B(2) 雇用関係法 A(2) 雇用関係法 B(2) 経済法 A(2) 経済法 B(2)	刑事政策 A(2) 刑事政策 B(2) 国際法 A(2) 国際法 B(2) 政治学原論 A(2) 政治学原論 B(2)
社会学部 社会学科	社会文化思想史 A(2) 社会文化思想史 B(2) 集合行動論 A(2) 集合行動論 B(2) 社会学史 A(2) 社会学史 B(2) 情報倫理概論(2)	環境社会学 A(2) 環境社会学 B(2) 家族社会学 A(2) 家族社会学 B(2) 宗教社会学 A(2) 宗教社会学 B(2) 社会統計学(2) 社会統計解析法(2)	組織社会学 A(2) 組織社会学 B(2) 臨床心理学 A(2) 臨床心理学 B(2) 地域社会学 A(2) 地域社会学 B(2) 質的調査法(2) 産業地域論 A(2)	マス・コミュニケーション概論 A(2) マス・コミュニケーション概論 B(2) 情報学基礎論 A(2) 情報学基礎論 B(2) 犯罪社会学 A(2) 犯罪社会学 B(2) 産業地域論 B(2)
社会学部 社会福祉学科	社会福祉学概論 A(2) 社会福祉学概論 B(2)		医療福祉論(2)	

学部／学科	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
国際地域学部 国際地域学科 地域総合専攻		社会調査法(2) 統計学(2) 科学技術倫理(2) 現代社会論(2) ミクロ経済学(2) マクロ経済学(2) 社会システム哲学(2) 社会システム論(2) 環太平洋ツーリズム論(2) ホテル開発論(2) サービス・マネジメント(2) リゾート開発計画論(2) 自然保護・公園論(2) 国際観光交流論(2) 観光行動モデル(2) 北米ツーリズム論(2)	宗教と社会(2) 文化人類学(2) ヨーロッパの地誌と文化Ⅰ(2) ヨーロッパの地誌と文化Ⅱ(2) プロジェクト実施・評価(2) 水辺と環境(2) 自然災害と防災(2) 都市地理学(2) 経済地理学(2) 地域福祉論(2) 社会政策論(2) 公共経営論(2) 地方自治論(2) 欧州ツーリズム論(2) 観光マーケティング(2) レストラン経営論(2)	地域文化(2) アジア・太平洋地域論(2) アジア社会論(2) 経済協力論(2) 国際環境計画入門(2) 環境管理適正技術論(2) 都市環境論(2) まちづくり手法論(2) 地域計画(2) 映像社会学(2) 社会基盤計画・政策(2) 地域システム論(2) 都市計画(2) 食品衛生論(2) 地域財政と観光(2)